



WAVE FACTORY

ご参考用：

本製品は販売終了につき、参考技術資料としてご提供いたしますので、予めご了承ください。

2CH 15MHz プロ シンセサイザ
MULTIFUNCTION SYNTHESIZER

WF1946A

取扱説明書

D : 510045 - 2

WF1946A

2CH 15MHz プロ シンセサイザ

取扱説明書

MULTIFUNCTION SYNTHESIZER

WAVE FACTORY

=はじめに=

このたびは、『WF1946A 2CH 15MHz プロ シンセサイザ』をお買い求めいただき、ありがとうございます。

電気製品を安全に正しくお使いいただくために、まず次ページの「安全にお使いいただくために」をお読みください。

● この説明書の注意記号について

この説明書では、下記の注意記号を使用しています。機器の操作者の安全のため、また、機器の損傷を防ぐためにも、この注意記号の内容は必ず守ってください。

↑ 警告

機器の取り扱いにおいて、感電など、使用者の生命や身体に危険が及ぶおそれがあるときに、その危険を避けるための情報を記載しています。

ご注意

機器の取り扱いにおいて、機器の損傷を避けるための情報を記載しています。

● この説明書の章構成は、下記のようになっています

初めて使用される方は、「1. 概説」からお読みください。なお、外部制御（GPIB、USB）についての説明は別冊になっています。

1. 概説

この製品は、どのような製品かを説明しています。

簡単な動作原理も説明しています。

2. 使用前の準備

設置や操作の前にしなければならない準備作業について説明しています。必ずお読みください。

3 基本操作

パネルの機能・動作および基本的な操作について説明しています。機器を操作しながらお読みください。

4 应用操作

さらに幅広い操作説明をしていきます。

5 その他の操作

「3 基本操作」「4 応用操作」以外の操作について説明しています。

6 トラブルシート

エラーメッセージや異常時の対処方法について説明しています

7 保富

動作点検や性能試験について説明します

8 仕様

仕様（機能・性能）について記載しています

安全にお使いいただくために

安全にお使いいただくため、下記の警告や注意事項を必ず守ってください。

これらの警告や注意事項を守らずに発生した損害については、当社はその責任と保証を負いかねます。

なお、この製品は、JISやIECの規格の絶縁基準クラスI機器（保護導体端子付き）です。

- 取扱説明書の内容は必ず守ってください

取扱説明書には、この製品を安全に操作・使用するための内容が記載されています。ご使用に当たっては、この説明書を必ず最初にお読みください。

この取扱説明書に記載されているすべての警告事項は、重大事故に結びつく危険を未然に防止するためのものです。必ず守ってください。

- 必ず接地してください

この製品はラインフィルタを使用しており、接地しないと感電します。

感電事故を防止するため、必ず電気設備技術基準 第3種以上の接地に確実に接続してください。

3極電源プラグを、保護接地コンタクトを持った3極電源コンセントに接続すれば、機器は自動的に接地されます。

- 電源電圧を確認してください

この製品は、「2.2 接地および電源」に記載された電源電圧で動作します。

電源接続の前に、コンセントの電圧が機器の定格電源電圧に適合しているかどうかを確認してください。

- ヒューズの定格を守ってください

発火等のおそれがあります。「2.2 接地および電源」の項に規定された定格のヒューズを使用してください。

また、ヒューズを交換するときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

- おかしいと思ったら

機器から煙が出てきたり、変なにおいや破裂音がしたらすぐに電源コードを抜いて使用を中止してください。

このような異常が発生したら、修理が完了するまで使用できないようにして、すぐに当社または販売店にご連絡ください。

- 可燃性ガス中では使用しないでください

爆発等の危険性があります。

- カバーは取り外さないでください

機器の内部には、高電圧の箇所があります。カバーは取り外さないでください。

内部の点検は、危険防止に精通している訓練されたサービス技術者以外の方は行わないでください。

- 改造はしないでください

当社が指定していない部品交換や改造は、絶対に行わないでください。新たな危険が発生したり、故障時に修理をお断りすることがあります。

- 記号および安全関係の表示

この製品や取扱説明書で使用している記号の一般的な定義は下記のとおりです。

△ 取扱説明書参照記号

使用者に危険の潜在を知らせるとともに、取扱説明書を参照する必要がある箇所に表示されています。

警告 警告記号

機器の取り扱いにおいて、感電など、使用者の生命や身体に危険が及ぶおそれがあるときに、その危険を避けるための情報を記載しています。

注意 注意記号

機器の取り扱いにおいて、機器の損傷を避けるための情報を記載しています。



接地記号

信号グラウンドおよびコネクタの外部導体が筐体に接続されていることを示します。



電源スイッチがオンであることを示します。



電源スイッチがオフであることを示します。

目 次

	ページ
はじめに	I
安全にお使いいただくために	II
1. 概 説	1 - 1
1.1 特 長	1 - 2
1.2 動作原理	1 - 3
■ブロック図	1 - 3
1.3 機能概要	1 - 4
■主要機能の説明	1 - 4
■機能ツリー	1 - 6
2. 使用前の準備	2 - 1
2.1 使用前の確認	2 - 2
■安全の確認	2 - 2
■開梱と再梱包	2 - 2
■オプションについて	2 - 3
2.2 接地および電源	2 - 4
■接 地	2 - 4
■ラインフィルタ	2 - 4
■電 源	2 - 5
■電源ヒューズ	2 - 6
2.3 設 置	2 - 7
■注意事項	2 - 7
■設置条件	2 - 7
■パネル、ケースの取り扱い	2 - 8
2.4 適合規格	2 - 9
2.5 校 正	2 - 10
3. 基本操作	3 - 1
3.1 各部の名称と動作	3 - 2
■正面パネル	3 - 3
■背面パネル	3 - 4
3.2 入出力端子	3 - 5
■波形出力 (FUNCTION OUT)	3 - 5
■同期信号出力 (SYNC OUT)	3 - 6

	ペー ジ
■ トリガ／スイープ入力 (TRIG/SWEEP IN)	3 - 9
■ スイープ停止／再開入力 (SWEEP PAUSE IN)	3 - 10
■ スイープX-DRIVE出力 (SWEEP X-DRIVE OUT)	3 - 10
■ スイープマーカ出力 (SWEEP Z-MARKER OUT)	3 - 11
■ 外部加算入力 (EXT ADD IN)	3 - 11
■ 外部AM入力 (EXT AM IN)	3 - 12
■ 同期運転入力、出力 (Φ -SYNC IN/OUT) (オプション)	3 - 12
■ ディジタル出力 (DIGITAL OUT) (オプション)	3 - 14
3.3 基本操作	3 - 16
■ 設定初期化 (PRESET)	3 - 16
■ チャネルモード選択 (CHANNEL MODE)	3 - 19
■ チャネルモードと各種設定	3 - 21
■ チャネル選択 (CH 1/CH 2)	3 - 24
■ 発振モード選択 (MODE)	3 - 25
■ 波形選択 (FUNCTION)	3 - 26
■ 周波数設定 (FREQ)	3 - 29
■ 振幅設定 (AMPTD)	3 - 30
■ DCオフセット設定 (OFFSET)	3 - 31
■ 位相設定 (PHASE)	3 - 32
■ 出力オン／オフ	3 - 33
■ 操作ツリー	3 - 34
4. 応用操作	4 - 1
4.1 バースト発振 (MODE、BURST)	4 - 2
■ バースト発振 (タイプ：バースト)	4 - 2
■ バースト発振 (タイプ：トリガ)	4 - 5
■ バースト発振 (タイプ：ゲート)	4 - 9
■ バースト発振 (タイプ：トリガドゲート)	4 - 12
4.2 スイープ (MODE、SWEEP)	4 - 16
■ スイープ (モード：シングル)	4 - 16
■ スイープ (モード：コンティニュアス)	4 - 23
■ スイープ (モード：ゲーテッド)	4 - 28
■ CENTER、SPAN、MARKER、MKR→CTR	4 - 35
■ スイープ設定項目のまとめ	4 - 36
■ スイープ (変調) のステップ数とステップ幅	4 - 37
■ スイープ値とマーカ／同期／X-DRIVE各出力	4 - 40

	ページ
4.3 変調 (MODE、MODU)	4 - 42
■周波数変調 (FM)	4 - 42
■振幅変調 (AM)	4 - 45
■DCオフセット変調 (OFSM)	4 - 48
■位相変調 (PM)	4 - 51
■パルス幅変調 (PWM)	4 - 54
4.4 任意波形 (FUNCTION、ARB)	4 - 57
■任意波形	4 - 57
4.5 同期信号 (SYNC OUT) の波形切り換え	4 - 61
■操作方法	4 - 61
■発振モードがバースト (BURST) のとき	4 - 61
■発振モードがスイープ (SWEEP) のとき	4 - 62
■発振モードが変調 (MODU) のとき	4 - 62
4.6 スイープおよび変調時の出力波形	4 - 64
4.7 等価雑音帯域幅	4 - 66
5. その他の操作	5 - 1
5.1 便利な設定	5 - 2
■周波数 [Hz] を周期 [s] で設定	5 - 2
■方形波のデューティ設定	5 - 3
■方形波のパルス幅設定	5 - 4
■振幅、DCオフセットをハイレベル、ローレベルで設定	5 - 5
5.2 単位	5 - 7
■工学単位 (μ 、m、k、M) の表示	5 - 7
■振幅単位の変更	5 - 8
■ユーザ単位の設定	5 - 9
5.3 設定メモリ (MEMORY)	5 - 13
■設定の保存	5 - 13
■設定の呼び出し	5 - 14
■設定メモリのクリア	5 - 15
5.4 外部入力	5 - 16
■外部加算 (EXT-ADD)	5 - 16
■外部AM (EXT-AM)	5 - 17
5.5 その他	5 - 18
■出力レンジの変更 (レンジ固定で使用)	5 - 18
■電源投入時の出力オン／オフ設定	5 - 19
■LOAD機能 (設定値と出力値を一致させる)	5 - 20
■UNDO (アンドゥ) 機能	5 - 21
■パルスジェネレータ機能	5 - 22
■位相同期	5 - 24
■チャネル間で設定をコピー	5 - 25
■周波数差一定 (2TONE)	5 - 26
■周波数比一定 (RATIO)	5 - 27

	ペー ジ
6. トラブルシュート.....	6 - 1
6.1 エラーメッセージ	6 - 2
■電源投入時のエラー	6 - 2
■操作時のエラー	6 - 3
6.2 故障と思われる場合	6 - 5
7. 保 守	7 - 1
7.1 概 要	7 - 2
■作業内容	7 - 2
■使用機器	7 - 2
7.2 動作点検	7 - 3
■動作点検前の確認	7 - 3
■機能チェック	7 - 3
7.3 性能試験	7 - 5
■性能試験	7 - 5
■性能試験前の確認	7 - 5
■性能試験前の準備	7 - 5
■周波数確度の試験	7 - 6
■振幅確度の試験	7 - 6
■DCオフセット確度の試験	7 - 7
■振幅の周波数特性試験	7 - 7
■正弦波ひずみ率の試験	7 - 8
■方形波の波形特性試験	7 - 8
■デューティの試験	7 - 9
■チャネル間時間差の試験	7 - 9
8. 仕 様	8 - 1
8.1 波形、出力特性	8 - 2
8.2 出力電圧	8 - 4
8.3 その他の機能	8 - 5
8.4 設定初期化内容	8 - 12
8.5 外部制御（取扱説明は別冊）	8 - 13
8.6 オプション	8 - 14
8.7 一般事項	8 - 15
■外形寸法図	8 - 16

索 引

保証、修理にあたって

1. 概 説

1.1 特 長.....	1 - 2
1.2 動作原理.....	1 - 3
■ ブロック図.....	1 - 3
1.3 機能概要.....	1 - 4
■ 主要機能の説明	1 - 4
■ 機能ツリー.....	1 - 6

1.1 特 長

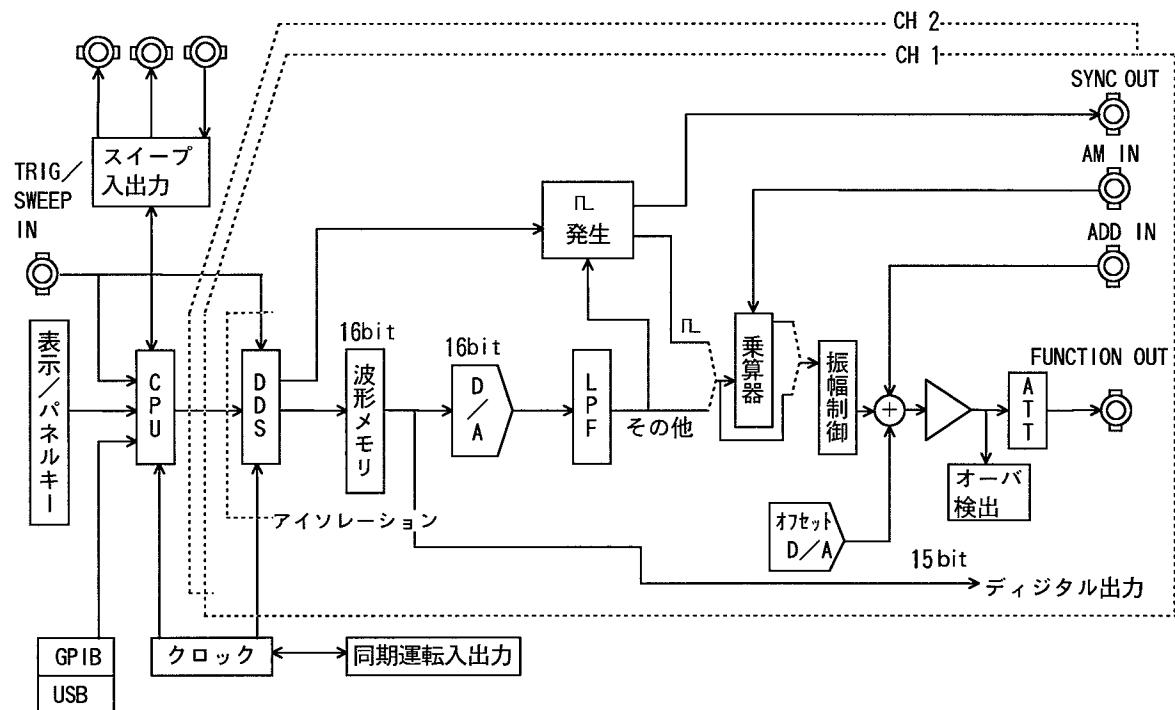
WAVE FACTORY 「WF1946A 2CH 15MHz プロ シンセサイザ」は、DDS (Direct Digital Synthesizer : ディジタル直接合成方式シンセサイザ) をベースにした、多機能なファンクションシンセサイザです。

WF1946Aは2チャネルですが、シリーズ製品として1チャネルのWF1945A、1チャネルでベーシックな機能のWF1943A、2チャネルでベーシックな機能のWF1944Aを用意しております。

- 周波数設定範囲: 0.01 μ Hz ~ 15MHz
- 最大出力電圧 : 20Vp-p / OPEN、±10V / OPEN
- 波形の分解能 : 16ビット
- 次に操作できるキーだけが点灯し、操作性を高めた「キーナビゲーション」。
- 換算式と単位文字列を設定しておくことによって、任意の単位で設定／表示できる「ユーザ単位」機能。
- 任意の負荷インピーダンスに接続したときに、設定値と実際の出力端子電圧を一致させる「LOAD」機能。
- パルスジェネレータとしての応用に便利なパルス周期、パルス幅、ハイレベル／ローレベルでの設定／表示が可能。さらに、トリガディレイ機能を装備。
- 正弦波、三角波、方形波、上りのこぎり波、下りのこぎり波の五つの標準波形に加え、任意波形も出力。
- 周波数変更時、周波数スイープ時も位相が連続し、波形が途切れない。
- 振幅変更時に予想外の電圧が発生しない。出力レンジ固定により、0から最大振幅まで波形が途切れずに変更できる。
- 2チャネル構成を活かす豊富なチャネルモード。
 - 2チャネル独立モード
 - 同一周波数で発振する2相モード
 - 一定の周波数差で発振する2トーンモード
 - 一定の周波数比で発振するレシオモード
 - 上下対称の波形を同時に出力する差動モード
 - 豊富な発振モード。
 - 連続発振
 - 間欠発振 : バースト発振、トリガ発振、ゲート発振に加え、トリガごとに発振／停止を繰り返すトリガドゲート発振
 - スイープ : 周波数だけでなく、位相、振幅、DCオフセット、デューティもスイープ可能
 - 変調 : FM (FSK)、位相変調 (PSK)、AM、DCオフセット変調、PWM
 - ホワイトノイズ発生
 - 直流電圧発生
 - グラウンドループによる影響を低減する、アナログ回路のフローティング。更にチャネル間もアイソレーション。
 - 1991同期運転オプションによって、複数台の同期運転ができ、より多チャネルの発振器として使用可能。
 - 1992Aディジタル出力オプションによって、出力波形に対応する15ビットのディジタル信号を出力でき、ディジタルパターンジェネレータとして使用可能。

1.2 動作原理

■ブロック図



- CPU部は、表示、パネルキーの処理、外部制御（GPIB、USB）の処理やDDSの制御、振幅、DCオフセット等のアナログ部の制御を行います。スイープ／内部変調の実行、スイープ入出力の制御も行っています。
- クロック発生部は、DDSの基準クロックとCPUのクロックを発生しています。
- DDS、アナログ部は、2組の回路があり、2チャネルを構成しています。
- CPU部とDDSの間には、アイソレーション回路があり、アナログ回路をフローティングしています。
- DDS（ディジタル直接合成シンセサイザ）部は、当社オリジナルLSIで構成されており、設定された周波数のディジタルデータを発生します。
- 波形メモリは、DDSからのディジタルデータを、標準波形や任意波形の波形データに変換します。波形データは、CPU部から設定されます。
- こうして得られた波形データを、D/A変換器によってアナログ信号に変換します。
- LPF（ローパスフィルタ）は、D/A出力の階段状の信号をなめらかな信号にします。
- 振幅制御部では、振幅を設定します。オフセットD/A部ではDCオフセットを発生し、出力アンプ部で加算、増幅して出力信号になります。
- ATT部では1/10のアッテネータのオン／オフによって、出力レンジを切り替えます。

1.3 機能概要

■主要機能の説明

- チャネルモードの選択

CH 1とCH 2の動作の種類を、2チャネル独立、2相、周波数差一定、周波数比一定、または差動出力のどれかに設定できます。

- 発振モードの選択

連続発振、間欠発振、スイープ、変調、ノイズまたは直流の6種類の発振モードから、どれかの発振モードが設定できます。

- 波形の選択

正弦波(～)、三角波(△)、方形波(□、デューティ50%固定)、方形波(□、デューティ可変)、上りのこぎり波(↗)、下りのこぎり波(↘)または任意波(ARB)の7種の波形からどれかの波形が設定できます。

- 周波数の設定

テンキーやモディファイダイヤルで周波数が設定できます。

周波数の逆数である周期での設定もできます。

方形波(□、デューティ可変)では、デューティやパルス幅での設定もできます。

- 振幅の設定

テンキーやモディファイダイヤルで振幅が設定できます。

- DCオフセットの設定

テンキーやモディファイダイヤルでDCオフセットが設定できます。

- 位相の設定

チャネル間の位相、バースト発振時の発振開始位相が設定できます。

- **出力のオン／オフ**

チャネルごとに、波形出力端子、同期信号端子の出力をオン／オフできます。

電源投入時の出力の状態について、前回電源を切る直前の状態に復帰する、必ずオン、または必ずオフのどちらかに設定できます。

- **ユーザ単位の設定**

周波数、周期、振幅、DCオフセット、位相、デューティでは、係数を乗じたり補正值を加えたりして任意の単位に変換し、その単位で設定／表示できます。

単位文字は4文字までの任意文字列を設定できます。

- **設定の保存／呼び出し**

周波数、振幅などの各種設定値を保存し、また、呼び出すことができます。

WF1946A では10組の保存／呼び出しができます。

- **コンピュータからのリモートコントロール**

外部制御(GPIB、USB) を介して、コンピュータからリモートコントロールできます。

■機能ツリー

出力

- 出力オン／オフ（チャネル独立）
- チャネルモード
 - 2チャネル独立／2相／周波数差一定／周波数比一定／差動出力
- チャネル選択
 - CH 1／CH 2／両チャネル同時
- 発振モード
 - ノーマル
 - バースト
 - バースト／トリガ／ゲート／トリガドゲート
 - スイープ
 - スイープモード
 - シングル／コンティニュアス／ゲート
 - スイープ対象
 - 周波数／振幅／DCオフセット／位相／デューティ
 - スイープ方式
 - リニア／ログ
 - ^／^／L／^／^
 - 変調
 - 変調タイプ
 - 周波数／振幅／DCオフセット／位相／デューティ
 - 変調波形
 - ^／^／L／^／^
 - ノイズ
 - 直流
- 波形
 - ^／^／L (デューティ50%固定)／L (デューティ可変)／^／^／任意波形 (ARB)

(続く)

出力（続き）

- 電圧
 - 出力レンジ
 - 振幅設定
 - DCオフセット設定
 - ハイレベル設定
 - ローレベル設定
- 周波数
 - 周波数設定
 - 周期設定
 - パルス幅設定（L : デューティ可変のとき）
 - デューティ設定（L : デューティ可変のとき）
- 位相
 - チャネル間位相
 - 発振開始位相
- ユーザ単位

設定内容

- 保存／呼び出し／クリア
- チャネル間コピー
- 設定初期化

通信

- GPIB
- USB

その他

- エラー表示
- 電源投入時の出力状態の設定
- SYNC OUT／スイープ同期出力
- トリガ／ゲート／スイープ開始入力
- スイープ停止／再開入力
- スイープX-DRIVE出力
- スイープマーカ出力
- 外部加算入力
- 外部AM入力
- 1991 同期運転オプション
- 1992A ディジタル出力オプション

2. 使用前の準備



2.1	使用前の確認	2 - 2
■	安全の確認	2 - 2
■	開梱と再梱包	2 - 2
■	オプションについて	2 - 3
2.2	接地および電源	2 - 4
■	接 地	2 - 4
■	ラインフィルタ	2 - 4
■	電 源	2 - 5
■	電源ヒューズ	2 - 6
2.3	設 置	2 - 7
■	注意事項	2 - 7
■	設置条件	2 - 7
■	パネル、ケースの取り扱い	2 - 8
2.4	適合規格	2 - 9
2.5	校 正	2 - 10

2.1 使用前の確認

■ 安全の確認

WF1946Aをご使用になる前に、この取扱説明書の巻頭に記載されております「安全にお使いいただくために」をご覧になり、安全性の確認を行ってください。

また電源に接続する前に、「2. 2 接地および電源」をお読みになり、安全のための確認を十分に行ってください。

■ 開梱と再梱包

まず最初に、輸送中の事故などによる損傷がないことをお確かめください。

機器を設置する前に、下記の構成になっていることをご確認ください。

WF1946A 本体	1
取扱説明書	1
外部制御取扱説明書	1
0105 任意波形作成ソフトウェア(CD-ROM)	1
付属品		
電源コード(3極、2m)	1
ヒューズ (100／115V：1Aまたは230V：0.5A タイムラグ、定格電圧250V、Φ5.2×20mm)	1

0105 任意波形作成ソフトウェアの取り扱いにつきましては、0105のCD-ROMをご覧ください。

輸送などのために再梱包するときは、適切な強度と余裕のある箱に、重さに耐えられる詰め物をして、機器が十分保護されるようにしてください。

△ 警 告

機器の内部には、高電圧の箇所があります。カバーは取り外さないでください。

機器内部の点検は、危険防止に精通している訓練されたサービス技術者以外の方は行わないでください。

■オプションについて

● 1991 同期運転オプション

1991 同期運転オプションは、出荷時に組み込まれます。

● 1994 同期運転ケーブル

1991 同期運転オプションで使用するケーブル (1m) です。

n台の同期運転を行う際には、(n-1) 本の 1994 同期運転ケーブルが必要です。

● 1992A ディジタル出力オプション

1992A ディジタル出力オプションは、出荷時に組み込まれます。

付属品は下記の構成になっています。

付属品

ディジタル出力ケーブル (1m) 1

2.2 接地および電源

■接 地

△警 告

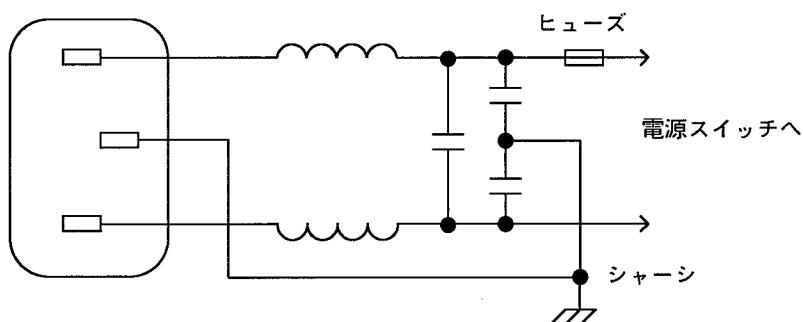
WF1946Aはラインフィルタを使用しています。接地しないと感電します。
感電事故を防止するため、下記の事項をお守りください。

測定用の接続をする前に、保護接地端子を必ず大地に接続してください。WF1946Aの保護接地端子は、3極電源プラグの接地ピンです。

付属品の電源コードを使用し、保護接地コンタクトを持った3極電源コンセントに電源プラグを挿入してください。

■ラインフィルタ

WF1946Aには、下記の回路のラインフィルタを使用しています。
漏れ電流は、250V 62Hz時、最大0.5mA_{rms}です。したがって、WF1946Aの金属部に手を触ると感電することがあります。
安全に使用するために、必ず接地してください。



■電 源

ご注意

WF1946Aを破損することがありますので、供給側の電圧が、WF1946Aの電源電圧範囲内であることを確認してから、電源を接続してください。

標準出荷時はAC100Vの設定になっています。

WF1946Aは、下記の商用電源で動作します。

電源電圧範囲 : AC100V／115V／230V±10%

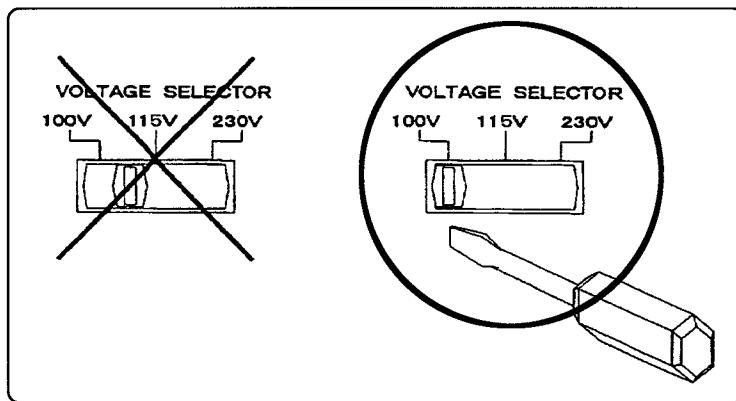
電源周波数範囲 : 50／60Hz±2Hz

なお、消費電力は、100VA以下です。また、過電圧カテゴリは、IIです。

電源は、下記の手順で接続します。

- WF1946Aの電源スイッチをオフにします。
- 背面、電源電圧切り換え器を、使用する電源電圧に合わせます。
- 背面、電源インレットに電源コードを差し込みます。
- 電源コードのプラグを3極電源コンセントに差し込みます。

電源電圧切り換え器のスライドつまみは、マイナスドライバの先などを使って、使用する電源電圧を表す線に合わせます。線と線との中間には、設定しないでください。



標準付属品の電源コードは、定格電圧AC125V、絶縁耐圧AC1250Vのもので、日本国内100V専用品です。AC125V以上の電圧や海外で使用するときは、電源コードの変更が必要です。必ず当社にご相談ください。

電源コードを接続する前に、電源スイッチがオフの状態であることを確認してください。
また、電源を切り、再び電源を投入するときは、5秒以上の間隔をあけてください。

■電源ヒューズ

――――――△ご注意――――――

- 火災を防ぐため、決められた定格以外のヒューズは使用しないでください。
 - ヒューズを交換する前に、電源コードを取り外してください。
-

WF1946A の電源ヒューズの定格は、下記のとおりです。

$$\left\{ \begin{array}{l} 100/115V : 2A \\ 230V : 1A \end{array} \right.$$

タイムラグ、定格電圧250V、 $\phi 5.2 \times 20\text{mm}$

電源電圧によって、ヒューズの定格が変わります。

2.3 設置

■ 注意事項



WF1946Aを破損することがありますので、下記の事項にご注意ください。

- WF1946Aはファンによる強制空冷を行っています。ファンが停止していることをお気づきの際はただちに電源を切り、当社または販売店までご連絡ください。
ファンが停止したままで使用されると、破損が拡大して修復困難になることがあります。
 - WF1946Aの側面、背面には、吸気口、排気口があります。側面、背面は、壁などから10cm以上離して設置してください。
 - WF1946Aは、背面を下にして（立てて）使用できません。

■ 設置条件

WF1946Aは、下記の温度、湿度条件を満たす場所に設置してください。

性能保証：+5～+35°C、5～85%RH（ただし、絶対湿度1～25g/m³、結露がないこと）
保存：-10～+50°C、5～95%RH（ただし、絶対湿度1～29g/m³、結露がないこと）

その他、下記のような場所に設置することは避けてください。

- ・直射日光があたる場所や、熱発生源の近く。
 - ・ほこり、塩分、金属粉などが多い場所。
 - ・腐食性ガス、蒸気、油煙などが多い場所。
 - ・可燃性のガスまたは蒸氣がある場所。
 - ・振動が多い場所。
 - ・強磁界、強電界発生源の近く。
 - ・パルス性雑音源の近く。

また、使用されるときは、WF1946A や他の機器の電源コードと信号ケーブルを離してください。電源コードと信号ケーブルが近づいていると、誤動作の原因となることがあります。

特に、ラック等に収納するときは、ケーブルの配置にご配慮ください。

■パネル、ケースの取り扱い

パネル、ケースの表面が汚れたときは、柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤に浸し、固くしぼった布で拭いてください。

シンナー、ベンジンなどの揮発性のものや、化学雑巾などで拭いたりしますと、変質したり塗装がはがれたりすることがありますので避けてください。

2.4 適合規格

WF1946Aは、下記の規格に適合しています。

安全規格 : EN61010-1 : 2001
EMC : EN61326 :1997／A1:1998／A2:2001

なお、EN61326 :1997／A1:1998／A2:2001試験時の使用ケーブルは、下記のとおりです。

- ・ 電源コード : 付属品
- ・ 信号ケーブル : BNCコネクタ付き同軸ケーブル、1m
(3D-2WまたはRG-143B/UまたはRG-223/U)
- ・ GPIBケーブル : シールド付きケーブル、1m (DDK : 408JE-101)

2.5 校 正

WF1946A は、使用環境や使用頻度にもよりますが、少なくとも1年に1回は、「7.3 性能試験」を行ってください。

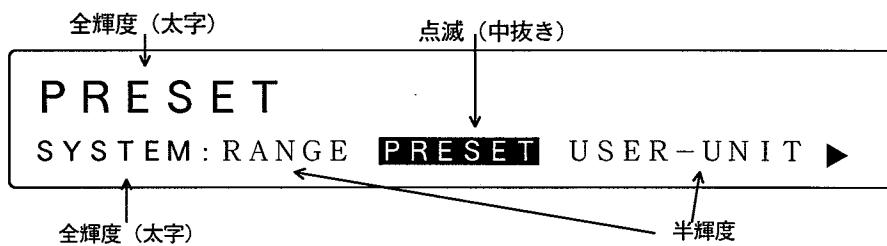
また、重要な測定や試験に使用するときは、使用直前に性能試験を行うことをおすすめします。

3. 基本操作



3.1 各部の名称と動作	3 - 2
■正面パネル	3 - 3
■背面パネル	3 - 4
3.2 入出力端子	3 - 5
■波形出力 (FUNCTION OUT)	3 - 5
■同期信号出力 (SYNC OUT)	3 - 6
■トリガ／スイープ入力 (TRIG/SWEEP IN)	3 - 9
■スイープ停止／再開入力 (SWEEP PAUSE IN)	3 - 10
■スイープX-DRIVE出力 (SWEEP X-DRIVE OUT)	3 - 10
■スイープマーカ出力 (SWEEP Z-MARKER OUT)	3 - 11
■外部加算入力 (EXT ADD IN)	3 - 11
■外部AM入力 (EXT AM IN)	3 - 12
■同期運転入力、出力 (Φ -SYNC IN/OUT) (オプション)	3 - 12
■ディジタル出力 (DIGITAL OUT) (オプション)	3 - 14
3.3 基本操作	3 - 16
■設定初期化 (PRESET)	3 - 16
■チャネルモード選択 (CHANNEL MODE)	3 - 19
■チャネルモードと各種設定	3 - 21
■チャネル選択 (CH 1/CH 2)	3 - 24
■発振モード選択 (MODE)	3 - 25
■波形選択 (FUNCTION)	3 - 26
■周波数設定 (FREQ)	3 - 29
■振幅設定 (AMPTD)	3 - 30
■DCオフセット設定 (OFFSET)	3 - 31
■位相設定 (PHASE)	3 - 32
■出力オン／オフ	3 - 33
■操作ツリー	3 - 34

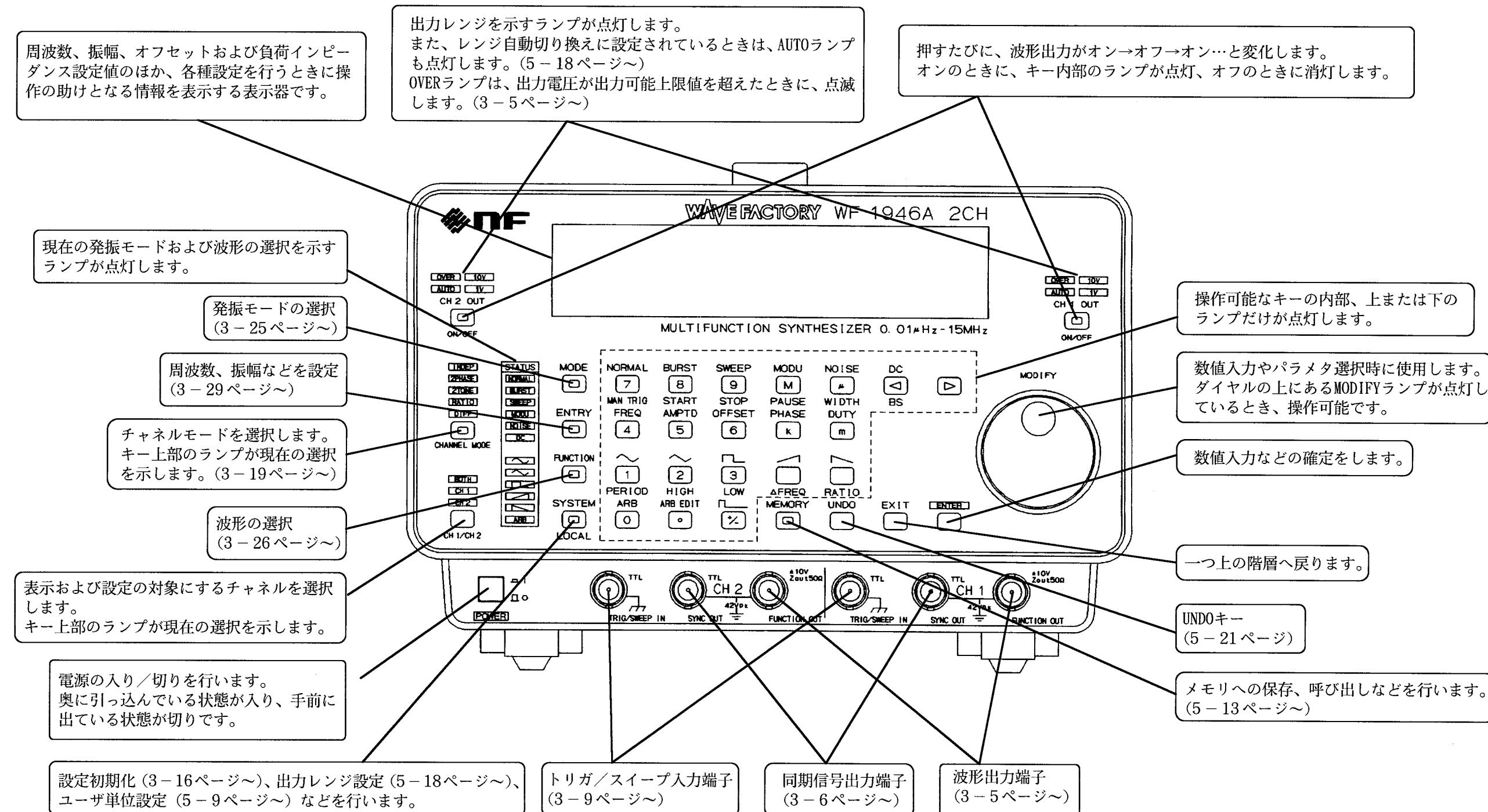
- この章で使用している表示器の表示凡例



3.1 各部の名称と動作

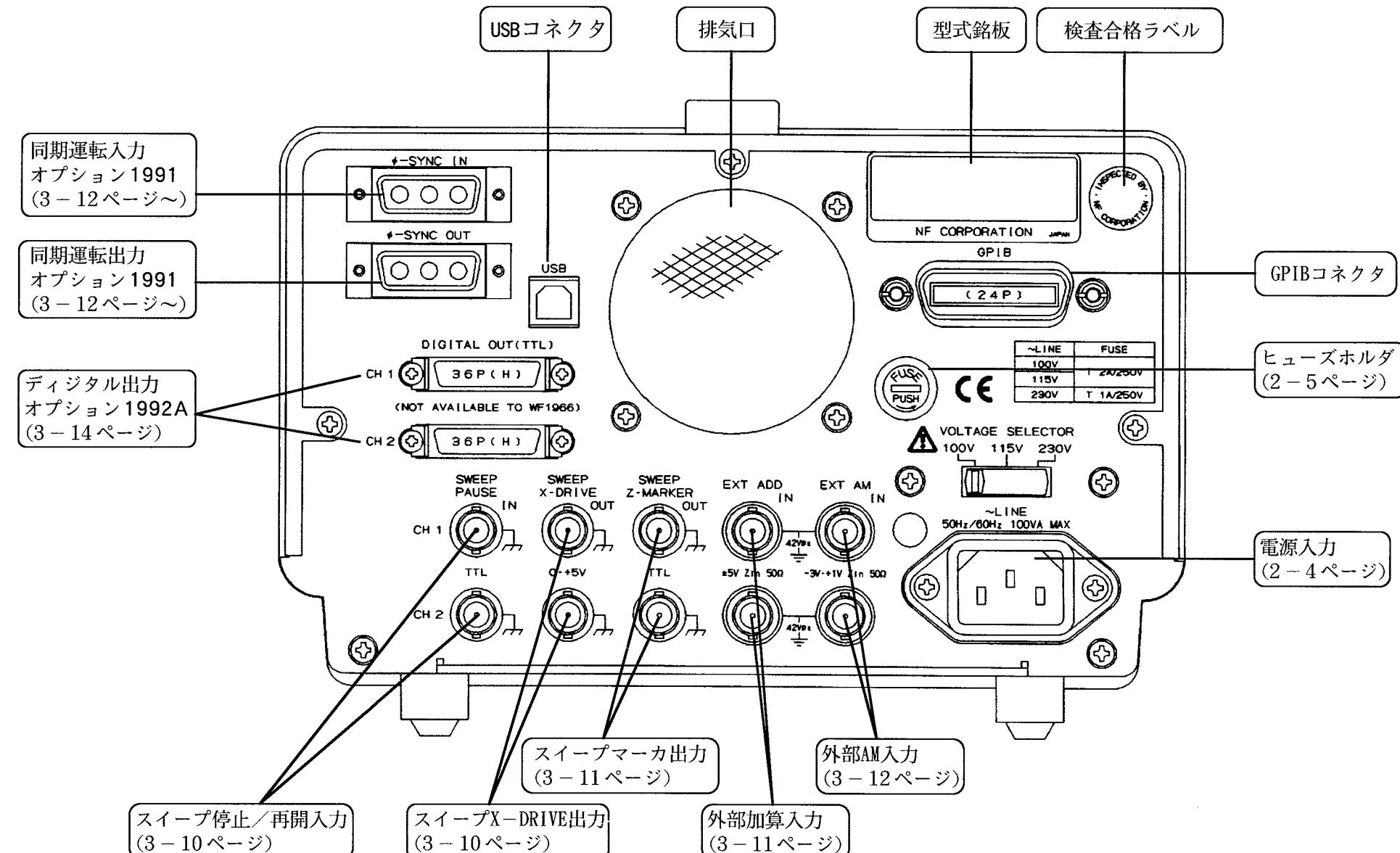
ここでは、WF1946Aの正面パネルと背面パネルの、各部の名称と動作について説明します。

■正面パネル



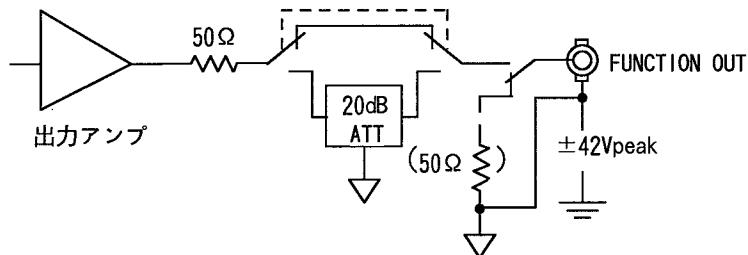
背面パネル図

■背面パネル



3.2 入出力端子

■ 波形出力 (FUNCTION OUT)



最大出力電圧 : 20Vp-p／開放時、10Vp-p／50Ω負荷時

出力インピーダンス: 50Ω、不平衡

負荷インピーダンス: 45Ω以上

出力オフ時の状態 : 出力オフ時は開放になります。

□ 出力オフ時に50Ωにする改造について → 詳細は当社までお問い合わせください。

グラウンド : 信号グラウンドに接続（シャーシからフローティング）

ご注意

出力を短絡したり、外部から信号を加えたりしないでください。WF1946Aを破損することがあります。

・ 出力制限について

ハイレベル、ローレベルの設定または振幅とDCオフセット設定値の関係、更に外部加算および外部AMの設定によって、出力電圧が下記の値を超えるときは、OVERランプが点滅し、出力がクリップすることがあります。

10Vレンジ：約11Vpeak／開放時

1Vレンジ：約1.1Vpeak／開放時

・ 出力接続について

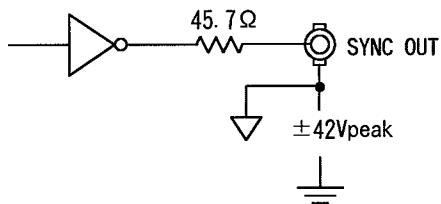
FUNCTION OUTの出力インピーダンスは50Ωなので、他の機器との接続には特性インピーダンス50Ωの同軸ケーブルを使用すると、高い周波数での振幅確度、波形の乱れが小さくできます。更に、入力インピーダンス50Ωの端子に接続するか、接続する入力端子部で50Ω終端すると、最高周波数まで特性の悪化が防げます。

・ 設定電圧と出力電圧について

負荷の抵抗値によって、設定電圧表示と実際の出力電圧（負荷端電圧）が異なります。

□ これを一致させる方法 → 「5.5 その他」の「■LOAD機能」、参照。

■同期信号出力 (SYNC OUT)



出力波形 : ハンギング

出力電圧 : 0V / +5V (開放時)

出力インピーダンス: 50Ω、不平衡

負荷インピーダンス: 45Ω以上

出力オフ時の状態 : 出力オフ時はハイインピーダンスになります。

グラウンド : 信号グラウンドに接続 (シャーシからフローティング)

ご注意

出力を短絡したり、外部から信号を加えたりしないでください。WF1946A を破損することがあります。

• 出力接続について

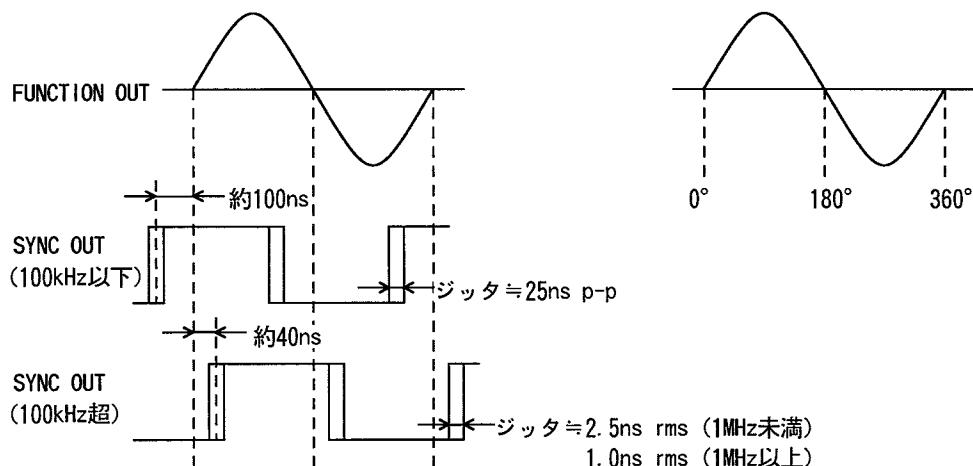
SYNC OUTの出力インピーダンスは50Ωなので、他の機器との接続には特性インピーダンス50Ωの同軸ケーブルを使用すると、波形の乱れが小さくできます。50Ω終端も可能ですが、ハイレベルの電圧が約半分になります。

• 波形出力と同期信号出力との関係 (各波形の位相定義)

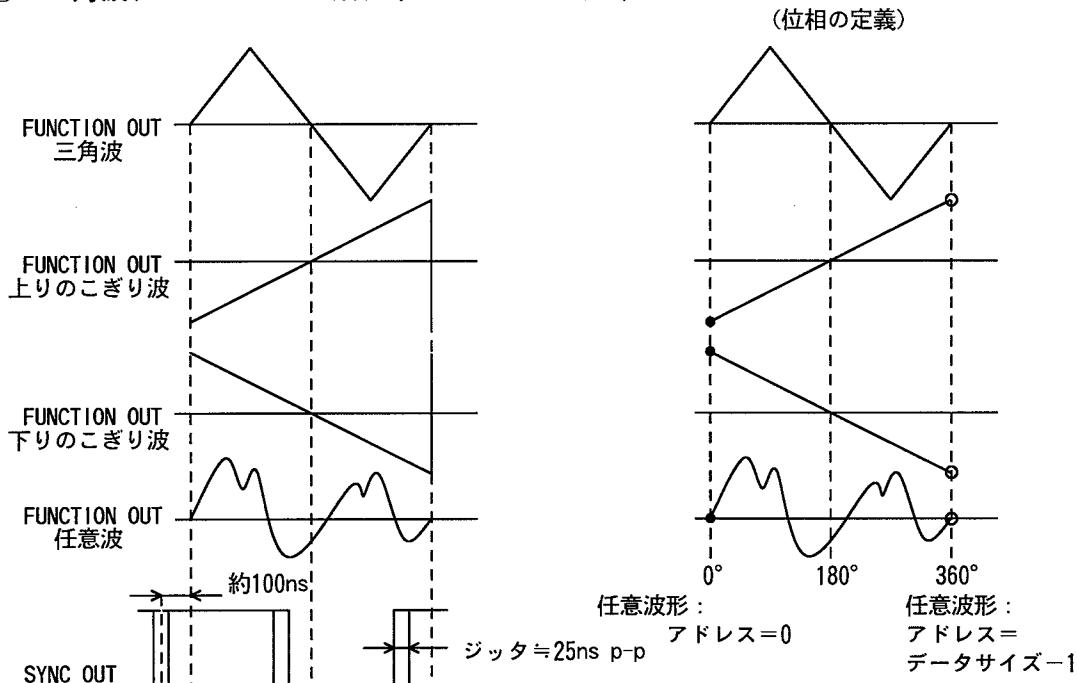
(1) 発振モードが連続 (NORMAL) のとき

① 正弦波

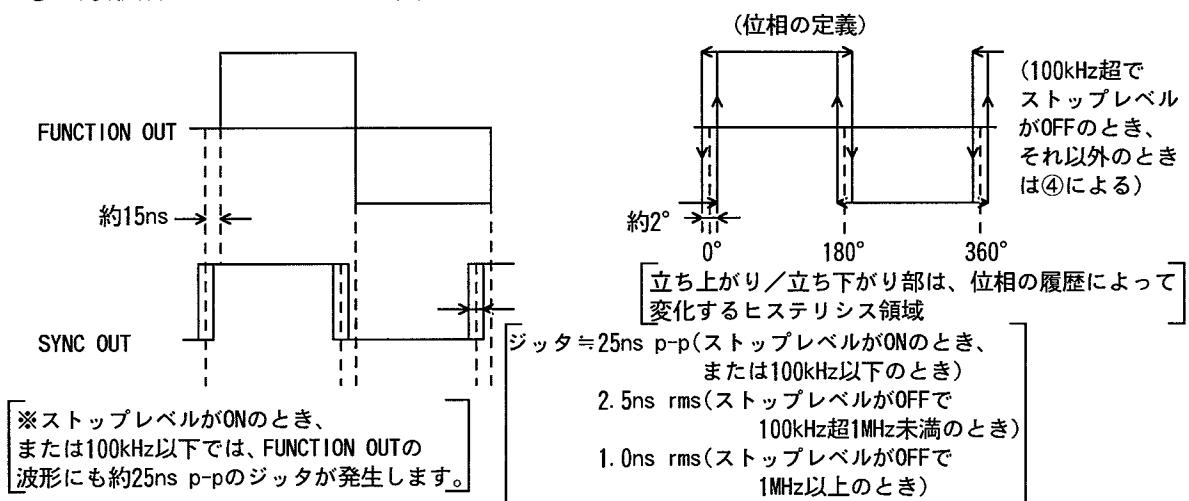
(位相の定義)



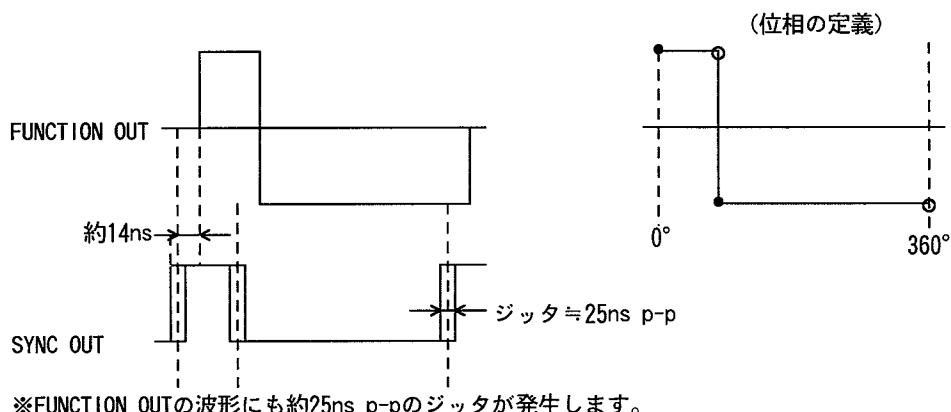
② 三角波、上りのこぎり波、下りのこぎり波、任意波



③ 方形波（デューティ 50% 固定）

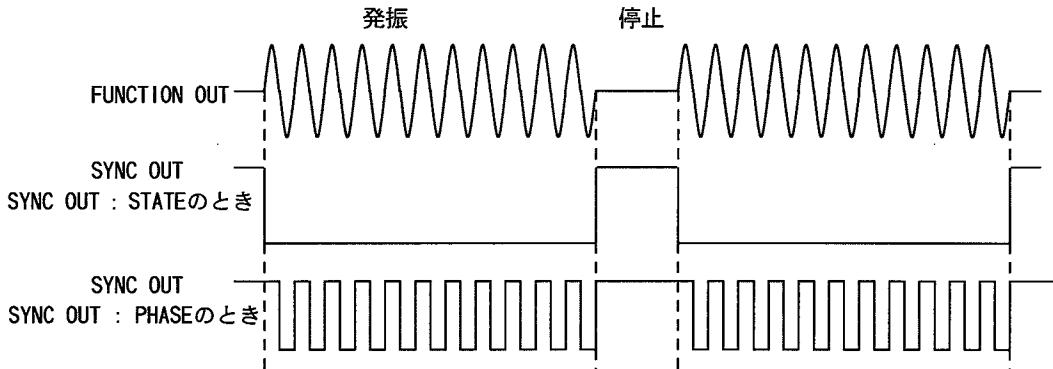


④ 方形波（デューティ 可変）



3.2 入出力端子

(2) 発振モードがバースト (BURST) のとき



(3) 発振モードがスイープ (SWEEP) のとき

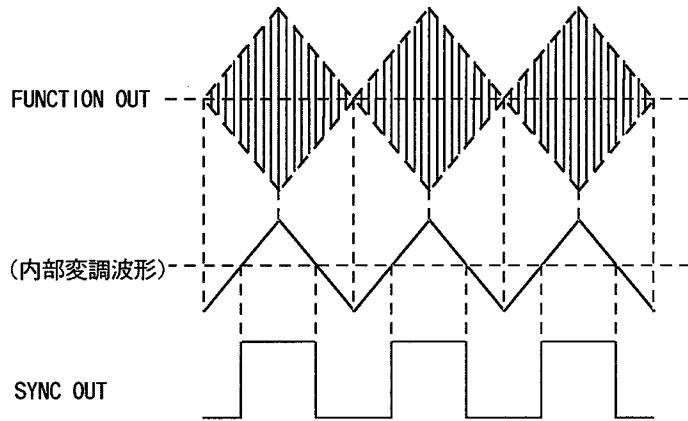
スタート値からストップ値へスイープしているときは、ローレベル。それ以外はハイレベルになります。

☞ 詳細 → 「4.2 スイープ」の「■スイープ値とマーカ／同期／X-DRIVE各出力」、参照。

(4) 発振モードが変調 (MODU) のとき

変調波形の位相が0度以上、180度未満のときは、ハイレベル。180度以上、360度未満のときは、ローレベルになります。

内部AM変調時の波形例（変調波形へ、変調度100%のとき）



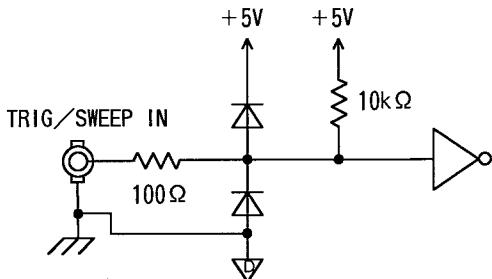
(5) 発振モードがノイズ (NOISE) のとき

ノイズ源のディジタル出力（バイナリ出力）になります。

(6) 発振モードが直流 (DC) のとき

常にハイレベルになります。

■ トリガ／スイープ入力 (TRIG/SWEEP IN)



信号特性

: 発振モードがバーストのときは、下記の各タイプによる。

トリガ : フまたはモで発振開始。どちらかを選択

ゲート : ハイレベルまたはローレベルで発振。どちらかを選択

トリガドゲート: フまたはモで発振／停止。ちらかを選択

最小パルス幅は50ns

発振モードがスイープのときは、フまたはモでスイープ開始。

どちらかを選択

最小パルス幅は200ns

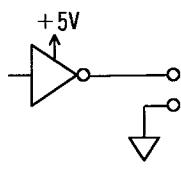
入力電圧 : ハイレベル $\geq +3.9V$ ローレベル $\leq +1.6V$ 入力電圧範囲 : $-0.5 \sim +5.5V$ 入力インピーダンス: 約 $10k\Omega$ で $+5V$ にプルアップ

グラウンド : シャーシグラウンドに接続

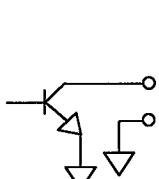
ご注意

上記入力電圧範囲を超える信号を加えないでください。WF1946Aが破損します。

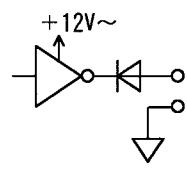
- 駆動回路例



(a) TTLロジック出力



(b) オープンコレクタ出力



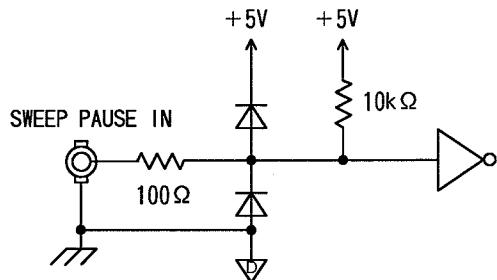
(c) 高電圧ロジック出力

トリガ／スイープ入力の駆動信号は、TTLかC-MOSロジックICの出力を接続します。

入力回路にはプルアップ抵抗を内蔵しているので、オープンコレクタ出力でも駆動できます。ただし、機械的なスイッチやリレーでは、接点で発生するチャタリングによって正常に動作しないことがあります。また、発振モードがトリガドゲートのときは、チャタリングがあると正常に動作しません。

電源電圧が $+5V$ より高いロジックICのときは (c) のようにハイレベルの電圧がWF1946Aに入力されないようにしてください。

■スイープ停止／再開入力 (SWEEP PAUSE IN)



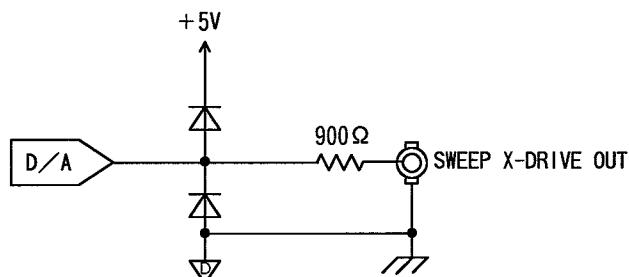
信号特性	: スイープ停止=ローレベル スイープ再開=ハイレベル
入力電圧	: ハイレベル $\geq +3.9V$ ローレベル $\leq +1.6V$
入力電圧範囲	: $-0.5 \sim +5.5V$
入力インピーダンス	: 約 $10k\Omega$ で $+5V$ にプルアップ
グラウンド	: シャーシグラウンドに接続

ご注意
上記入力電圧範囲を超える信号を加えないでください。WF1946Aが破損します。

- 駆動回路例

「■トリガ／スイープ入力」をご覧ください。

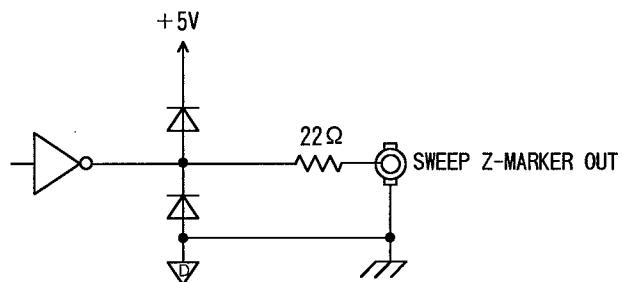
■スイープX-DRIVE出力 (SWEEP X-DRIVE OUT)



信号特性	: $0V \rightarrow +5V$ =スイープ値が上昇中 $+5V \rightarrow 0V$ =スイープ値が下降中
出力電圧	: $0 \sim +5V$ (開放時)
出力インピーダンス	: 約 $1k\Omega$
推奨負荷	: $10k\Omega$ 以上
グラウンド	: シャーシグラウンドに接続

ご注意
出力を短絡したり、外部から信号を加えたりしないでください。WF1946Aを破損することがあります。

■スイープマーカ出力 (SWEEP Z-MARKER OUT)



信号特性 : ローレベル=スイープ値がマーカ値以上
ハイレベル=その他のとき

出力電圧 : 0V / +5V

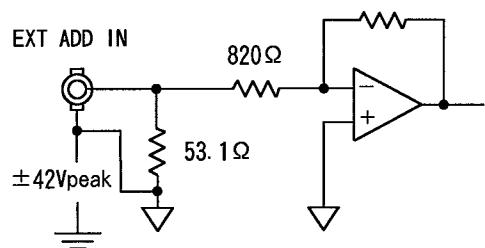
推獎負荷 : $1k\Omega$ 以上

グラウンド : シャーシグラウンドに接続

— ■ ご注意 ■ —

出力を短絡したり、外部から信号を加えたりしないでください。WF1946Aを破損することがあります。

■外部加算入力 (EXT ADD IN)



入力電圧 : ±5V以内

入力インピーダンス:50Ω

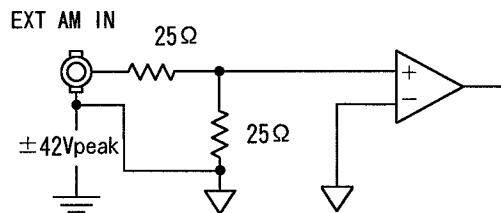
外部加算周波数 : 10MHz以下

グラウンド : 信号グラウンドに接続（シャーシからフローティング）

ご注意

上記入力電圧を超える信号を加えないでください。WF1946Aが破損します。

■外部AM入力 (EXT AM IN)



- 入力電圧 : -3V～+1V以内
(-3Vで出力-100%、-1Vで出力0%、+1Vで出力100%)
- 入力インピーダンス: 50Ω
- 変調周波数 : 10MHz以下
- グラウンド : 信号グラウンドに接続 (シャーシからフローティング)

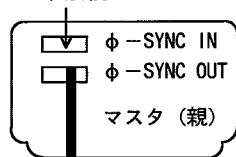
ご注意

上記入力電圧範囲を超える信号を加えないでください。WF1946Aが破損します。

■同期運転入力、出力 (φ-SYNC IN、OUT)

(オプション1991 + 1994)

※未接続

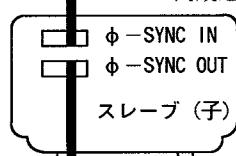


※発振モードが連続(NORMAL)のとき有効。

タイミング誤差: 1台あたり最大35nsのずれが発生。

したがって、約8kHzで0.1度、約80kHzで1度の位相誤差になる。

←1994同期運転ケーブル



解説: クロックは、親→子→孫の方向に送られ、1台あたり約17ns遅れる。

クロック周期は約25ns。

位相同期パルスは親、子、孫のいずれからも発生でき、末端に向かって送られる。1台あたりの遅れは約8ns。

この時間遅れの相違のため、隣り合う機器同士では、

(クロック周期約25ns) + (位相同期パルス遅れ約8ns) = 33ns のずれが発生しうる。

なお、1991を装着したWF1945A、WF1946A、WF1965、WF1966、WF1945(1945)、WF1946(1946)、WF1956(1956)のどれとも接続できます。

最大接続台数: 6台

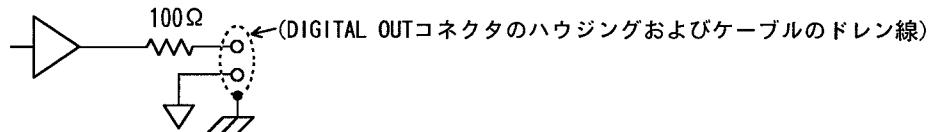
ご注意

複数の製品で同期運転を行うときは、下記の点にご注意ください。

- 同期運転ケーブルの着脱は、すべての製品の電源を切った状態で行ってください。
- ご使用時は、同期運転ケーブルで接続されたすべての製品の電源を投入してください。
ご使用にならない製品は、同期運転ケーブルを外してください。
- 電源を投入するときは、同期運転ケーブルで接続された製品は、極力同時に投入してください。
同時に投入することが難しいときは、マスタ（親）側からスレーブ（子、孫）側に向かって順に投入してください。
- 電源を切るときは、同期運転ケーブルで接続された製品は、極力同時に切ってください。
同時に切ることが難しいときは、スレーブ（孫、子）側からマスタ（親）側に向かって順に切ってください。

3.2 入出力端子

■ ディジタル出力 (DIGITAL OUT) (オプション 1992A)



出力インピーダンス: 約115Ω

出力電圧 : 0V / +5V (開放時)

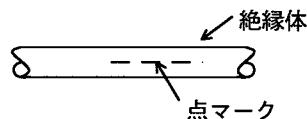
接続 : 下表による。

グラウンド : 各信号のGND線は、信号グラウンドに接続 (シャーシからフローティング)。
ドレン線はシャーシグラウンドに接続。

信号GNDは、すべてターゲット側の信号グラウンドに接続してください。使用しない信号線は、開放してください。

なお、ドレン線はシャーシグラウンドに接続されているため、ドレン線をターゲット側の信号グラウンドに接続するとWF1946Aの信号グラウンド (FUNCTION OUT、SYNC OUT、EXT ADD IN、EXT AM INに接続) もシャーシグラウンドに接続されます。

付属の信号ケーブルの信号名は、点マークの色および数と絶縁体の色で表されています。



信号名	接続	点マーク色	点マーク数	絶縁体地色
出力制御	信号	赤	3	白
	GND	黒		
D15 (MSB)	信号	赤	2	橙
	GND	黒		
D14	信号	赤	3	黄
	GND	黒		
D13	信号	赤	1	桃
	GND	黒		
D12	信号	赤	2	桃
	GND	黒		
D11	信号	赤	2	黄
	GND	黒		
D10	信号	赤	3	桃
	GND	黒		
D09	信号	赤	1	黄
	GND	黒		
D08	信号	赤	3	橙
	GND	黒		

注: GND: 信号グラウンド

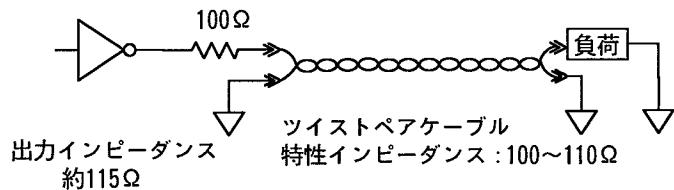
信号名	接続	点マーク色	点マーク数	絶縁体地色
D07	信号	赤	2	白
	GND	黒		
D06	信号	赤	4	橙
	GND	黒		
D05	信号	赤	1	白
	GND	黒		
D04	信号	赤	3	灰
	GND	黒		
D03	信号	赤	2	灰
	GND	黒		
D02	信号	赤	4	灰
	GND	黒		
D01 (LSB)	信号	赤	1	灰
	GND	黒		
クロック	信号	赤	4	白
	GND	黒		
未使用	信号	赤	1	橙
	GND	黒		
シャーシグラウンド		ドレン線		

- 出力制御線は、約10kΩで+5Vにプルアップされています。この線をローレベル (信号GNDとショート) にすると、クロックおよびD01～D15の出力信号がオンになります。開放すると出力信号はハイインピーダンスになります。

ご注意

出力を短絡したり、外部から信号を加えたりしないでください。WF1946Aを破損することがあります。

- ケーブルの接続例1



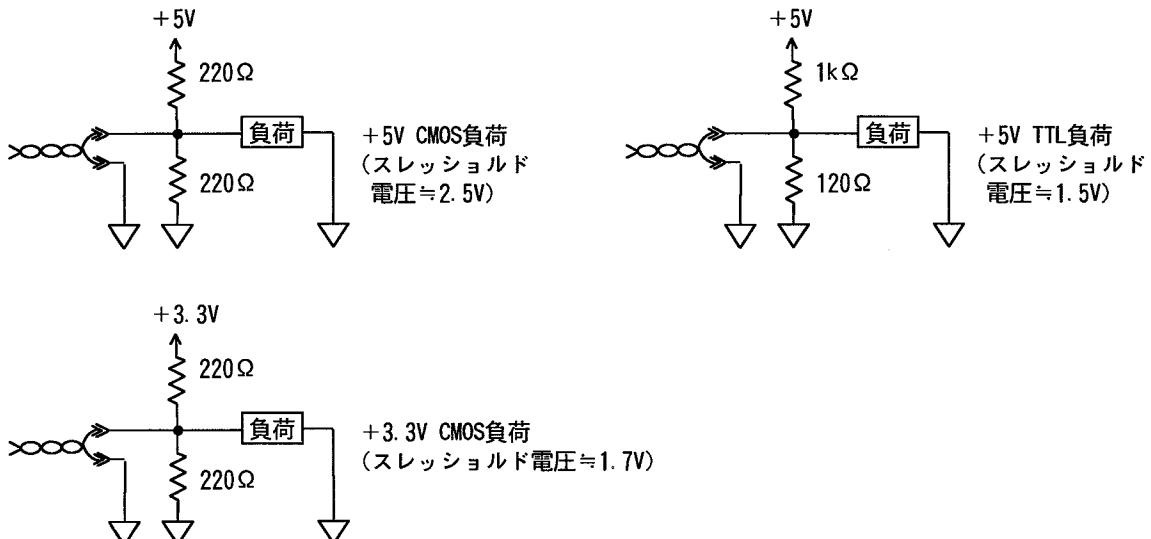
送り側のインピーダンスと、伝送線路の特性インピーダンスは、ほぼ整合しているので、負荷開放でも比較的良好な波形が得られます。

- ケーブルの接続例2

110Ω～120Ωで終端すると、さらに良好な波形品位が得られます。

このとき、負荷端における振幅は、出力端の約半分になります。

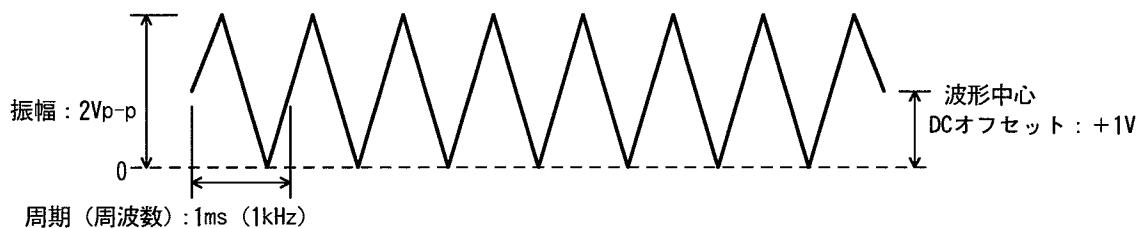
この特性を利用すると、低電圧動作のCMOSにも適切な電圧を与えることができます。ただし、このときは出力制御線によってハイインピーダンスにしないでください。CMOSデバイスでは、回路にダメージを与えることがあります。



- 発振モードがノイズ(NOISE)と直流電圧(DC)のとき、ディジタル出力は不定です。
- ディジタル出力には、下記を除き、波形(FUNCTION)に相当するデータが出力されます。
 - △ (デューティ50%固定) : ~に相当するデータが出力される。
 - (デューティ可変) : 出力されるデータは不定。

3.3 基本操作

CH 1の波形出力端子（FUNCTION OUT）から、周波数1kHz、振幅2Vp-p、DCオフセット+1Vの三角波を出力する操作を例に、基本的な操作方法を説明します。



■設定初期化 (RESET)

各種設定値を初期化する操作について説明します。この取扱説明書では、初期化直後を操作説明の前提にしています。

操作方法 :

- ① **SYSTEM** キーを押し、**◀**、**▶** キーで下記の状態（下段RESETが点滅）にします。

P R E S E T
S Y S T E M : R A N G E P R E S E T U S E R - U N I T ▶

- ② 次に **ENTER** キーを押します。すると、上段のRESETが点滅します。

- ③ もう一度 **ENTER** キーを押すと、初期化が実行されます。初期化をせずに戻るには、

ENTER キーを押す前に、**EXIT** キーを2回押してください。

その他：

初期化による各種設定値は下表のとおりです。
出力オン／オフ、電源投入時の出力オン／オフ、任意波形関連、設定メモリ関連、ユーザ単位関連、および外部制御、GPIBアドレス、GPIBデリミタ、USB IDは、初期化されません。

初期値一覧

キー操作	メニュー名	初期値	備考
CH 1／CH 2		CH 1 (BOTHはオフ)	
CHANNEL MODE		INDEP	
MODE		NORMAL	
MODE→BURST	TYPE	BURST	
	SOURCE	EXT \square (INTにすると1ms)	TYPE=TRIG, GATE, T-GATE時
	SOURCE (CH2選択時)	EXT CH2 \square (INTにすると1ms)	TYPE=TRIG, GATE, T-GATE時
	DELAY	0.3 μ s	TYPE=TRIG時
	MARK	1.0	TYPE=BURST, TRIG時
	SPACE	1.0	TYPE=BURST時
	STOP-LEVEL	OFF(ONにすると0%)	
MODE→SWEEP	OPER-COMMON	OFF	両チャネル共にMODE=BURST、TYPE=TRIG, GATE, T-GATEのいずれかで、同じTYPE
	TYPE	FREQ	
	SOURCE	EXT \square (INTにすると1ms)	MODE=SINGLE, GATED時
	SOURCE (CH2選択時)	EXT CH2 \square (INTにすると1ms)	MODE=SINGLE, GATED時
	MODE	SINGLE	
	FUNCTION	LIN \nearrow	
	TIME	1s	
MODE→SWEEP, TYPE=FREQ	STOP-LEVEL	OFF(ONにすると0%)	MODE=GATED時
	START	1000Hz	
	STOP	10000Hz	
	CENTER	5500Hz	
	SPAN	9000Hz	
MODE→SWEEP, TYPE=AMPTD	MARKER	5000Hz	
	START	0.1Vp-p	
	STOP	1Vp-p	
	CENTER	0.55Vp-p	
	SPAN	0.9Vp-p	
MODE→SWEEP, TYPE=OFFSET	MARKER	0.5Vp-p	
	START	0.1V	
	STOP	-0.1V	
	CENTER	0V	
	SPAN	0.2V	
	MARKER	0V	

3.3 基本操作

キー操作	メニュー名	初期値	備考
MODE→SWEEP, TYPE=PHASE	START	-90deg	
	STOP	90deg	
	CENTER	0deg	
	SPAN	180deg	
	MARKER	0deg	
MODE→SWEEP, TYPE=DUTY	START	40%	
	STOP	60%	
	CENTER	50%	
	SPAN	20%	
	MARKER	50%	
MODE→MODU	TYPE	FM	
	FREQUENCY	100Hz	
	FUNCTION	~	
	OPER-COMMON	OFF	両チャネル共にMODU MODE時
MODE→MODU, TYPE=FM	DEVIATION	1000Hz	
MODE→MODU, TYPE=AM	DEPTH	50%	
MODE→MODU, TYPE=OFSM	DEVIATION	0.2V	
MODE→MODU, TYPE=PM	DEVIATION	90deg	
MODE→MODU, TYPE=PWM	DEVIATION	20%	
ENTRY→FREQ		1000Hz	
ENTRY→AMPTD		0.1Vp-p	
ENTRY→OFFSET		0V	
ENTRY→PHASE		0deg	
ENTRY→WIDTH		0.0005s	FUNCTION=『』時
ENTRY→DUTY		50%	FUNCTION=『』時
ENTRY→PERIOD		0.001s	
ENTRY→HIGH		0.05V	
ENTRY→LOW		-0.05V	
ENTRY→△FREQ		0Hz	CHANNEL MODE=2TONE時
ENTRY→RATIO		0000001:0000001	CHANNEL MODE=RATIO時
FUNCTION		~	
SYSTEM	RANGE	AUTO	
	LOAD	OPEN(SETになると50Ω)	
	EXT-AM	OFF	
	EXT-ADD	OFF	
	DUTY-VALID	IMMED	
SYNC OUT		STATE	

■ チャネルモード選択 (CHANNEL MODE)

チャネルモードとCH1／CH2の動作について説明します。

用語 :

INDEP (2チャネル独立) : CH1、CH2がそれぞれ独立して動作します。

2PHASE (2相) : CH1、CH2が同一周波数で動作します。

例 :

CH1	1kHz	→	10kHz
CH2	1kHz		10kHz

周波数スイープ、周波数変調の設定および動作もCH1、CH2で同一になります。

2TONE (周波数差一定) : CH1、CH2の周波数差が常に一定で動作します。

例 :

CH1	1kHz	→	10kHz
CH2	2kHz		11kHz

周波数スイープ、周波数変調の設定は周波数差が一定になります。

RATIO (周波数比一定) : CH1、CH2の周波数比が常に一定で動作します。

例 :

CH1	1kHz	→	10kHz
CH2	2kHz		20kHz

周波数スイープ、周波数変調の設定は周波数比が一定になります。

DIFF (差動出力) : CH1、CH2が同一の周波数、振幅、DCオフセットで、互いに逆波形(逆相)になって動作します。

このモードになると、振幅、DCオフセット、出力レンジ、出力オン／オフ、位相、周波数スイープ、周波数変調の設定がCH1からCH2にコピーされます。

3.3 基本操作

操作例：

ここでは、例として2相（2PHASE）にします。

- ①  キーを押し、、 キーで下記の状態（2PHASEが点滅）にします。

INDEP 2PHASE 2TONE ►
SELECT CHANNEL MODE

- ②この状態で  キーを押すと、モードが変更され、 キー上の2PHASEランプが点灯します。

これで、チャネルモードの変更が終了しました。

その他：

チャネルモードを変更したときは、CH1の設定値を基準として、CH2の設定値が決まります。

- チャネルモードと各種設定の関係について → 次項の「■チャネルモードと各種設定」、参照。

■ チャネルモードと各種設定

チャネルモードと各種設定の制限について、下表に示します。

○：独立設定

▲：周波数差（△FREQ）、周波数比（RATIO）の関係が維持される

△：両チャネル設定が同一になる
×：設定不可能

キー操作	チャネルモード メニュー名	[2PHASE]		[2TONE]		[RATIO]		[DIFF]	備 考
		[INDEP]	FREQ *5	other *5	FREQ *5	other *5	FREQ *5		
MODE→NORMAL		○	△	○	△	○	△	○	△
MODE→BURST		○	×	×	×	×	×	×	
TYPE		○	×	×	×	×	×	×	
SOURCE		○	×	×	×	×	×	×	SOURCEはTYPE=BURST以外
INT/EXT		○	×	×	×	×	×	×	
INT RATE		△	×	×	×	×	×	×	RATEは内部トリガ周期
INT ↑↓		○	×	×	×	×	×	×	
EXT ↑↓		○	×	×	×	×	×	×	
EXT CH		○	×	×	×	×	×	×	
DELAY		○	×	×	×	×	×	×	TYPE=TRIG時
MARK		○	×	×	×	×	×	×	TYPE=BURST、TRIG時
SPACE		○	×	×	×	×	×	×	TYPE=BURST時
STOP-LEVEL		○	×	×	×	×	×	×	
OPER-COMMON		△	×	×	×	×	×	×	両チャネルBURST、同じTYPE
MODE→SWEEP		○	△	○	△	○	△	○	△
TYPE		○	△	○	△	○	△	○	△
SOURCE		○	△	○	△	○	△	○	△
INT/EXT		○	△	○	△	○	△	○	△
INT RATE		△	△	△	△	△	△	△	RATEは内部トリガ周期
INT ↑↓		○	△	○	△	○	△	○	△
EXT ↑↓		○	△	○	△	○	△	○	△
EXT CH		○	CH1*4	○	CH1*4	○	CH1*4	○	CH1*4
MODE		○	△*2	○*2	△*2	○*2	△*2	○*2	△*2
FUNCTION		○	△	○	△*3	○*3	△	○	△
START		○	△	○	▲	○	▲	○	△
STOP		○	△	○	▲	○	▲	○	△
TIME		○	△	○	△	○	△	○	△
STOP-LEVEL		○	×	×	×	×	×	×	MODE=GATED時
CENTER		○	△	○	▲	○	▲	○	△
SPAN		○	△	○	△	○	▲	○	△
MARKER		○	○	○	○	○	○	○	△
MKR→CTR		○	△	○	△	○	△	○	△
START-STATE		○	△	○	▲	○	▲	○	△
STOP-STATE		○	△	○	▲	○	▲	○	△
OPER-COMMON		△	ON *6	△	ON *6	△	ON *6	△	ON *6 両チャネルSWEEPモード時

3.3 基本操作

キー操作	チャネルモード メニュー名	[INDEP]	[2PHASE]		[2TONE]		[RATIO]		[DIFF]	備 考
			FREQ *5	other *5	FREQ *5	other *5	FREQ *5	other *5		
MODE→MODU		○	△	○	△	○	△	○	△	
	TYPE	○	△	○	△	○	△	○	△	
	DEVIATION	○	△	○	△	○	▲	○	△	
	DEPTH	○	×	○	×	○	×	○	△	
	FREQ	○	△	○	△	○	△	○	△	
	FUNCTION	○	△	○	△	○	△	○	△	
	OPER-COMMON	△	ON *6	△	ON *6	△	ON *6	△	ON *6	両チャネルMODUモード時
MODE→NOISE		○	×	×	×	×	×	×	×	
MODE→DC		○	×	×	×	×	×	×	×	
ENTRY→FREQ		○	△	△	▲	▲	▲	▲	△	
ENTRY→AMPTD		○	○	○	○	○	○	○	△	
ENTRY→OFFSET		○	○	○	○	○	○	○	△	
ENTRY→PHASE		○	○	○	○	○	○	○	△	
ENTRY→WIDTH		○	○	○	○	○	○	○	△	
ENTRY→DUTY		○	○	○	○	○	○	○	△	
ENTRY→PERIOD		○	△	△	▲	▲	▲	▲	△	
ENTRY→HIGH		○	○	○	○	○	○	○	△	
ENTRY→LOW		○	○	○	○	○	○	○	△	
FUNCTION→?		○	○	○	○	○	○	○	△	?は波形選択
ARB EDIT	SELECT	○	○	○	○	○	○	○	△	
	NAME	○	○	○	○	○	○	○	△	
	EDIT	○	○	○	○	○	○	○	△	
	COPY	○	○	○	○	○	○	○	△	
	MARK-CLEAR	○	○	○	○	○	○	○	△	
	CLEAR	○	○	○	○	○	○	○	△	
	SIZE	△	△	△	△	△	△	△	△	

キー操作	チャネルモード メニュー名	[INDEP]	[2PHASE]		[2TONE]		[RATIO]		[DIFF]	備 考
			FREQ *5	other *5	FREQ *5	other *5	FREQ *5	other *5		
SYSTEM	RANGE	○	○	○	○	○	○	○	△	
	PRESET	△	△	△	△	△	△	△	△	
	USER-UNIT	○	○	○	○	○	○	○	△	
	LOAD	○	○	○	○	○	○	○	△	
	EXT-AM	○	○	○	○	○	○	○	△	
	EXT-ADD	○	○	○	○	○	○	○	△	
	φ SYNC	△	△	△	△	△	△	△	△	
	POWER-ON	○	○	○	○	○	○	○	△	
	REMOTE	△	△	△	△	△	△	△	△	
	DUTY-VALD	○	○	○	○	○	○	○	△	FUNCTION=L(デューティ可変)時有効
CH 1/CH 2		○	○	○	○	○	○	○	×	
	CH 1,CH 2 OUT	○	○	○	○	○	○	○	△	

*2 : スイープモードのゲートッドは選択不可能

*3 : スイープファンクションのLOGは選択不可能

*4 : TRIG/SWEEP INとSWEEP PAUSE INはCH 1側だけ使用可能

*5 : 「FREQ」は発振モードがスイープまたは変調で、タイプが周波数のときを示し、「other」はそれ以外のときを示す

*6 : 動作制御の操作は、チャネル間共通

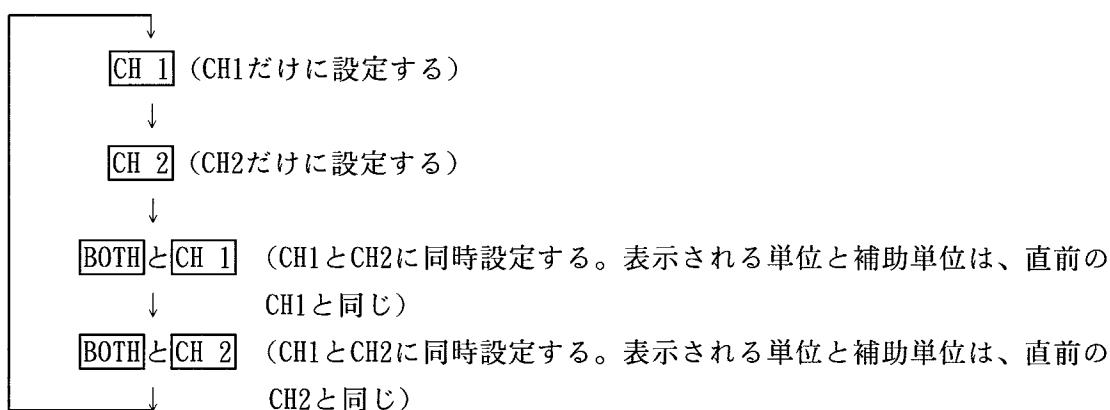
3.3 基本操作

■ チャネル選択 (CH 1/CH 2)

設定／表示の対象とするチャネルの選択について説明します。

操作方法：

 キーを押す度に、点灯／点滅するランプが下記のように変化します。



ただし、[CH 1]が点滅しているときは、CH2の値は表示されている値と異なります。また、[CH 2]が点滅しているときは、CH1の値は表示されている値と異なります。

新たに設定すると、CH1とCH2が同じ設定で動作します。

操作例：

ここでは、例としてCH1にします。

①  キーを押し、キー上のランプ[CH 1]が点灯した状態にします。

これで、設定／表示の対象がCH1になりました。

なお、キーを押す度にCH1→CH2→CH1 BOTH→CH2 BOTH→CH1…と変化します。

その他：

チャネルモードがDIFFのときは、チャネル選択はできません。

■発振モード選択 (MODE)

発振のモード（連続、バースト、スイープなど）の選択について説明します。

用語：

NORMAL (連続) : 連続発振するモードです。通常はこのモードで使用します。

BURST (バースト) : 各種の間欠発振をするモードです (BURST、TRIG、GATE、T-GATE)。
☞ 「4.1 バースト発振」、参照。

SWEEP (スイープ) : 周波数などを自動的に変化 (掃引) させて出力するモードです。
☞ 「4.2 スイープ」、参照。

MODU (変調) : 各種変調波形を出力するモードです (FM、AM、OFSM、PM、PWM)。

ノイズ
NOISE (ノイズ) : ホワイトノイズを出力するモードです。

DC (直流) : 直流だけを出力するモードです。
☞ 「3.3 基本操作」の「■DCオフセット設定 (OFFSET)」、参照。

操作方法：

現在選択されている発振モードは、 キー左のSTATUS表示欄に表示されています。
 キーを押すと、キー内部のランプが点灯すると共に、 キー右側の各キーの上部のランプが点灯します。

ここで、希望する発振モードのランプが点灯しているキーを押します。

操作例：

ここでは、まず直流 (DC) にし、次に連続 (NORMAL) にしてみます。

①  キーを押し、 キーを押すと、発振モードがDCになり、 キー左のSTATUS表示欄のランプが点灯します。

② 次に  キーを押し、 キーを押すと、発振モードがNORMALになり、STATUS表示欄のランプが点灯します。

■波形選択 (FUNCTION)

波形の選択について説明します。

マーク：

~：正弦波

△：三角波

□：方形波（デューティ50%固定）

■：方形波（デューティ可変）

↗：上りのこぎり波

↘：下りのこぎり波

ARB：任意波 □ 「4.4 任意波形」、参照。

操作方法：

現在選択されている波形は、キー左のSTATUS表示欄に表示されています。キーを押すと、キー内部のランプが点灯すると共に、キー右側の各キーの上部のランプが点灯します。現在選択されている波形のランプは点滅します。

ここで、希望する波形のランプが点灯しているキーを押します。

操作例：

ここでは例として、三角波を選びます。

① キーを押し、キーを押すと、波形が三角波になり、キー左のSTATUS表示

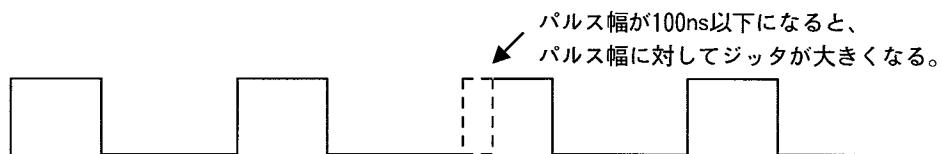
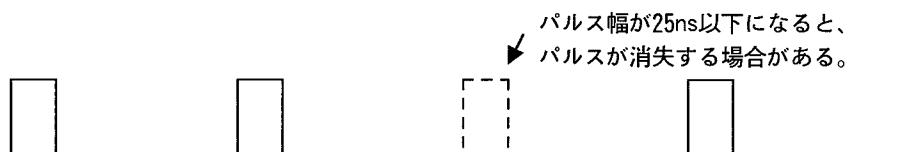
欄の  ランプが点灯します。

② 選び終わりましたら、キーを1回押し、波形選択から抜けます。

その他：

■ 方形波(デューティ可変)では、周期とデューティの関係によって、パルス幅が25ns以下になると、パルスが消失することがあります。このような設定ではエラーメッセージが表示されます。

また、パルス幅が100ns以下では、パルス幅に対してジッタが大きくなります。このときには、ワーニングメッセージが表示されます。



- 方形波(デューティ固定)、■ 方形波(デューティ可変)で、位相を変更したときは、下図のように、1周期中に複数のパルスが出力されることがあります。



- 方形波(デューティ可変)で、デューティを変更したときは、下図のように、1周期中に複数のパルスが出力されることがあります。



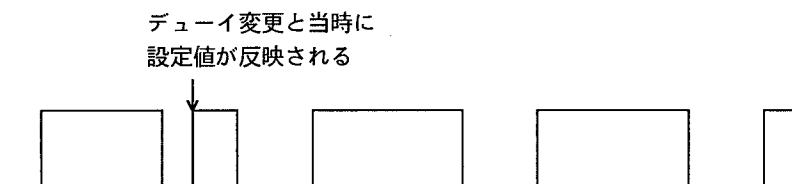
デューティ変更後のパルス幅が75nsよりも大きいときは、複数のパルスが出ないようにすることができます。設定するには、DUTY-VALIDをCYCLEに設定します。
ただし、発振モードがスイープ、変調では使用できません。

IMMED CYCLE EXPAND
SYSTEM: ◀ DUTY-VALID SYNC OUT

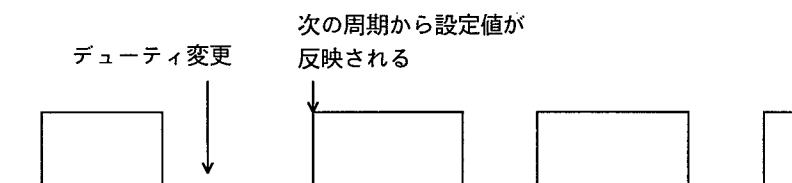
3.3 基本操作

DUTY-VALIDがCYCLEのとき、設定されたデューティは、次の周期から反映されます。
また、DUTY-VALIDがCYCLEに設定されていても、周波数、位相を変更した場合には余分な
パルスが出る可能性があります。

DUTY-VALID: IMMED時の動作



DUTY-VALID: CYCLE時の動作



- 方波（デューティ可変）では、デューティの設定範囲を0.0000%～100.0000%または0.0100%～99.9900%に切り換えることができます。デューティを0.0000%～100.0000%の範囲で設定したいときは、DUTY-VALIDをEXPANDに設定します。

IMMED CYCLE EXPAND
SYSTEM:◀ DUTY-VALID SYNCNT ▶

なお、CYCLEとEXPANDを同時に設定することはできません。

DUTY-VALIDがIMMEDまたはCYCLEのときは、デューティの設定範囲が0.0100%～99.9900%になります。周波数が約4kHz以下のときは、デューティを0.0100%～99.9900%の範囲に限定することで、パルスの消失を防ぐことができます。

下記のときは、波形選択はできません。

- 発振モードがNOISEまたはDC
- 発振モードがSWEEPでTYPEがDUTY
- 発振モードがMODUでTYPEがPWM

■周波数設定 (FREQ) (→

周波数の設定について説明します。

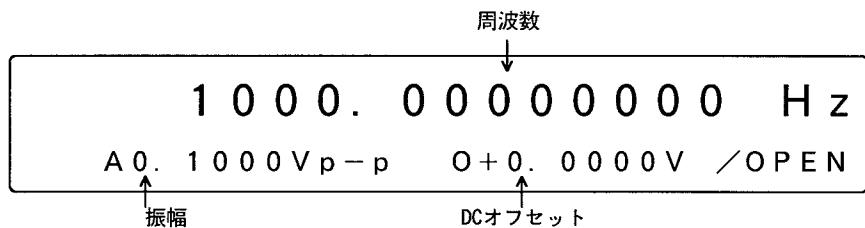
操作例：

値を設定するには二つの方法があります。

(1) テンキーによる設定

設定したい値があらかじめ決まっているときに便利です。
ここでは1kHzにします。

①  キーを押し、次に  キーを押します（下記のような表示になります）。



②  キーを押し、次に  キーを押します。

数字の入力を間違えたときは、 キーを押す前に、 キーを押してください。

③これで設定が終了しました。設定状態から抜けるには、 キーを押してください。

(2) モディファイダイヤルによる設定

値を連続的に変化させたいときに便利です。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーを押し、変化させたい桁を点滅させます。

③次に  ダイヤルで点滅している桁の値を増減させます。

④設定状態から抜けるには、 キーを押してください。

その他：

- 発振モードがNOISEまたはDCのときは、周波数設定はできません。

- などの工学単位キーを使わないとき（例えば50Hz）は、数値入力後に  キーを押してください。

☞ 「5.2 単位」、参照。

☞ 発振周期で設定するには → 「5.1 便利な設定」の「■周波数[Hz]を周期[s]で設定」、参照。

3.3 基本操作

■振幅設定 (AMPTD) (→

振幅の設定について説明します。

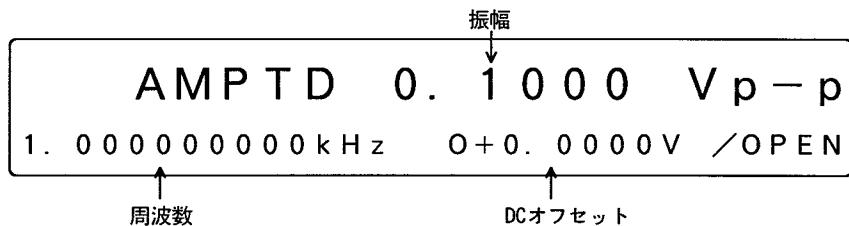
操作例：

値を設定するには二つの方法があります。

(1) テンキーによる設定

設定したい値があらかじめ決まっているときに便利です。
ここでは2Vp-pにします。

①  キーを押し、次に  キーを押します（下記のような表示になります）。



②  キーを押し、次に  キーを押します。

数字の入力を間違えたときは、 キーを押す前に、 キーを押してください。

③ これで設定が終了しました。設定状態から抜けるには、 キーを押してください。

(2) モディファイダイヤルによる設定

値を連続的に変化させたいときに便利です。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーを押し、変化させたい桁を点滅させます。

③ 次に  ダイヤルで点滅している桁の値を増減させます。

④ 設定状態から抜けるには、 キーを押してください。

その他：

- 発振モードがDCのときは、振幅設定はできません。
- 振幅設定はVp-p以外の単位も使用できます。
 - 「5.2 単位」の「■振幅単位の変更」、参照。
- 波形のハイレベル、ローレベルでも設定できます。
 - 「5.1 便利な設定」の「■振幅、DCオフセットをハイレベル、ローレベルで設定」、参照。

■DCオフセット設定 (OFFSET) (→

DCオフセットは、波形に加算するオフセット成分または発振モードがDCのときの出力電圧を設定します。

次にDCオフセットの設定について説明します。

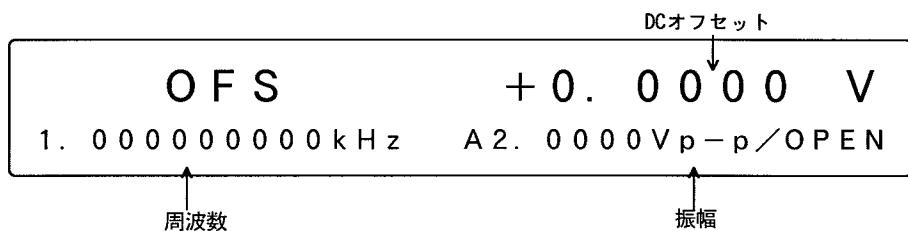
操作例 :

値を設定するには二つの方法があります。

(1) テンキーによる設定

設定したい値があらかじめ決まっているときに便利です。
ここでは+1Vにします。

①  キーを押し、次に  キーを押します（下記のような表示になります）。



②  キーを押し、次に  キーを押します。

数字の入力を間違えたときは、 キーを押す前に、 キーを押してください。

③これで設定が終了しました。設定状態から抜けるには、 キーを押してください。

(2) モディファイダイヤルによる設定

値を連続的に変化させたいときに便利です。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーを押し、変化させたい桁を点滅させます。

③次に  ダイヤルで点滅している桁の値を増減させます。

④設定状態から抜けるには、 キーを押してください。

その他 :

- ・ 波形のハイレベル、ローレベルでも設定できます。
- 「5.1 便利な設定」の「■振幅、DCオフセットをハイレベル、ローレベルで設定」、参照。

3.3 基本操作

■位相設定 (PHASE) (→

位相は、バーストおよびスイープ（ゲーテッド）の発振開始位相を示します。
なお、CH1、CH2で独立して設定します。これによってCH1、CH2間の位相差も設定できます。
☞「5.5 その他」の「■位相同期」、参照。
次に位相の設定について説明します。

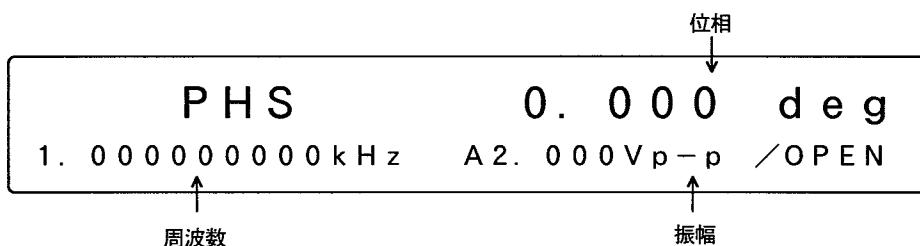
操作例：

値を設定するには二つの方法があります。

(1) テンキーによる設定

設定したい値があらかじめ決まっているときに便利です。
ここでは90度 (90deg) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します（下記のような表示になります）。



②  キーを押し、次に  キーを押します。

数字の入力を間違えたときは、 キーを押す前に、 キーを押してください。

③これで設定が終了しました。設定状態から抜けるには、 キーを押してください。

(2) モディファイダイヤルによる設定

値を連続的に変化させたいときに便利です。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  キーを押し、変化させたい桁を点滅させます。

③次に  ダイヤルで点滅している桁の値を増減させます。

④設定状態から抜けるには、 キーを押してください。

■出力オン／オフ

出力のオン／オフについて説明します。

操作方法：

① 、 キーを押すたびに出力がオン→オフ→オン…になります。

オンのときにキーの内部のランプが点灯し、オフのときに消灯します。

その他：

チャネルモードがDIFFのときを除いて、各チャネル独立して動作します。

チャネルモードがDIFFのときは、両チャネル出力が連動して動作します (CH1 OUT、CH2 OUT のどれを操作しても、両方の出力がオン／オフします)。

■操作ツリー

 /  — 出力オン／オフ

 — チャネルモード [INDEP／2PHASE／2TONE／RATIO／DIFF]

 — チャネル選択 [CH 1／CH 2／BOTH CH1／BOTH CH2]

 — 発振モード
└  /  /  /  /  / 

 メニュー

- TYPE (バーストタイプ) [BURST／TRIG／GATE／T-GATE]
- SOURCE (トリガ／ゲートソース選択)
- DELAY (トリガディレイ) * TYPE : TRIG時
- MARK (発振波数) * TYPE : BURST、TRIG時
- SPACE (停止波数) * TYPE : BURST時
- STOP-LEVEL (ストップレベル)
- OPER-COMMON (両チャネル同時操作) * 両チャネル同一TYPE時

 操作
└  / 

 メニュー

- TYPE (スイープ対象) [FREQ/AMPTD/OFFSET/PHASE/DUTY]
- SOURCE (トリガソース選択) * MODE : SINGLE、GATED時
- MODE (スイープモード) [SINGLE/CONT/GATED]
- FUNCTION (スイープ波形) [LIN/LOG、 \wedge / \wedge / Γ / \sin]
- START (スイープ開始値)
- STOP (スイープ終了値)
- TIME (スイープ時間)
- STOP-LEVEL(ストップレベル) * MODE : GATED時
- CENTER (スイープ中心値)
- SPAN (スイープ幅)
- MARKER (マーカ値)
- MKR→CTR (マーカ値を中心値にコピー)
- START-STATE (スタート状態)
- STOP-STATE (ストップ状態)
- OPER-COMMON (両チャネル同時操作) * 両チャネルスイープ時

 操作



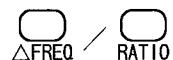
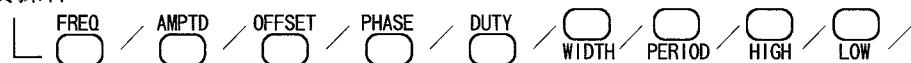
 メニュー (内部変調)

- TYPE (変調タイプ) [FM/AM/OFSM/PM/PWM]
- DEVIATION(偏差) * TYPE : AM時はDEPTH
- FREQ (変調周波数)
- FUNCTION (変調波形) [SIN/ \wedge / Γ / \wedge / \wedge]
- OPER-COMMON (両チャネル同時操作) * 両チャネル変調時

 操作



 — 主要操作



* DUTY、WIDTHはFUNCTION : Γ 時

△FREQはCHANNEL MODE : 2TONE時

RATIOはCHANNEL MODE : RATIO時

3.3 基本操作

FUNCTION — 波形選択



ARB EDIT 任意波形メニュー *FUNCTION : ARB時

- SELECT (任意波形選択)
- NAME (任意波形名)
- EDIT (任意波形編集)
- COPY (任意波形のコピー)
- MARK-CLEAR (マーククリア)
- CLEAR (任意波形のクリア)
- SIZE (任意波形データサイズ選択)

SYSTEM — その他の操作メニュー

- RANGE (出力レンジ選択) [AUTO／10V／1V]
- PRESET (設定初期化)
- USER-UNIT (ユーザ単位メニュー)
 - TYPE (設定対象) [FREQ／PERIOD／AMPTD／OFFSET／PHASE／DUTY]
 - NAME (単位名)
 - FORMULA (計算式)
 - SCALE (乗数)
 - OFFSET (オフセット)
- LOAD (LOAD機能)
- COPY 1→2 (設定のコピー)
- COPY 2→1 (設定のコピー)
- EXT-AM (外部AM選択)
- EXT-ADD (外部加算選択)
- φ SYNC (位相同期)
- DUTY-VALID (デューティ)
- POWER-ON (電源投入時出力状態選択)
- REMOTE (外部制御メニュー)
 - INTERFACE (インターフェース)
 - ADDRESS／ID (GPIBアドレス／USB ID)
 - DELIMITER (GPIBデリミタ)
- OPTION (オプションメニュー)

 設定メモリメニュー
└ STORE (設定メモリ保存)
└ RECALL (設定メモリ呼び出し)
└ CLEAR (設定メモリクリア)

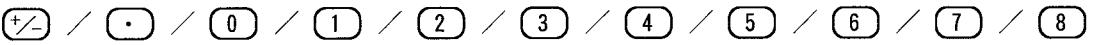
 LOCAL (GPIBのreturn to local)

 UNDO (設定の取り消し)

 EXIT (一つ上のメニューへ移動)

 ENTER (入力値の確定)

数値の入力 (テンキー)

 /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 
 /  /  /  /  / 

数値の変更 (モディファイ)

 /  / 

4. 応用操作

4.1	バースト発振 (MODE、BURST)	4 - 2
■	バースト発振 (タイプ : バースト)	4 - 2
■	バースト発振 (タイプ : トリガ)	4 - 5
■	バースト発振 (タイプ : ゲート)	4 - 9
■	バースト発振 (タイプ : トリガドゲート)	4 - 12
4.2	スイープ (MODE、SWEEP)	4 - 16
■	スイープ (モード : シングル)	4 - 16
■	スイープ (モード : コンティニュアス)	4 - 23
■	スイープ (モード : ゲーテッド)	4 - 28
■	CENTER、SPAN、MARKER、MKR→CTR	4 - 35
■	スイープ設定項目のまとめ	4 - 36
■	スイープ (変調) のステップ数とステップ幅	4 - 37
■	スイープ値とマーカ／同期／X-DRIVE各出力	4 - 40
4.3	変調 (MODE、MODU)	4 - 42
■	周波数変調 (FM)	4 - 42
■	振幅変調 (AM)	4 - 45
■	DCオフセット変調 (OFSM)	4 - 48
■	位相変調 (PM)	4 - 51
■	パルス幅変調 (PWM)	4 - 54
4.4	任意波形 (FUNCTION、ARB)	4 - 57
■	任意波形	4 - 57
4.5	同期信号 (SYNC OUT) の波形切り換え	4 - 61
■	操作方法	4 - 61
■	発振モードがバースト (BURST) のとき	4 - 61
■	発振モードがスイープ (SWEEP) のとき	4 - 62
■	発振モードが変調 (MODU) のとき	4 - 62
4.6	スイープおよび変調時の出力波形	4 - 64
4.7	等価雑音帯域幅	4 - 66

- この章で使用している表示器の表示凡例



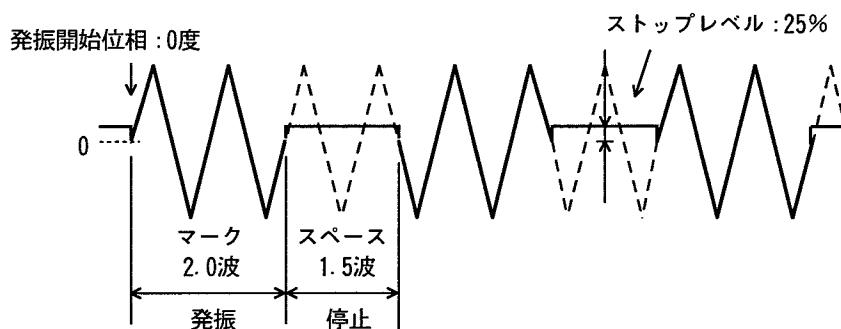
4.1 バースト発振 (MODE、BURST)

■バースト発振 (タイプ : バースト) (→ → TYPE : BURST)

バースト発振 (タイプ : バースト) は、発振波数、停止波数を指定する間欠発振です。

ここでは、下図のような波形を出力するための操作について説明します。

なお、波形は三角波、DCオフセットは0V、発振開始位相は0度、周波数、振幅は任意に設定されているものとします。



操作例 :

(1) バースト発振タイプ (TYPE) をバースト (BURST) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

```
BURST TRIG GATE ►  
BURST: TYPE MARK SPACE STOP-LEVEL
```

③ 次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (BURSTが点滅) にします。

```
BURST TRIG GATE ►  
BURST: BURST MARK SPACE STOP-LEVEL
```

④ これで、バースト発振タイプがバーストになりました。 キーを1回押し、タイプ設定から抜けます。

(2) マーク波数 (MARK) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (MARKが点滅) にします。

1. 0 cycle
BURST : TYPE MARK SPACE STOP-LEVEL

② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでマーク波数を設定します (0.5波単位)。

ここでは、例として2波 (2.0 cycle) にします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、マーク波数設定から抜けます。

(3) スペース波数 (SPACE) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (SPACEが点滅) にします。

1. 0 cycle
BURST : TYPE MARK SPACE STOP-LEVEL

② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでスペース波数を設定します (0.5波単位)。

ここでは、例として1.5波 (1.5 cycle) にします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、スペース波数設定から抜けます。

(4) ストップレベル (STOP-LEVEL) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STOP-LEVELが点滅) にします。

OFF
BURST : TYPE MARK SPACE STOP-LEVEL

4.1 バースト発振

②次に **[ENTER]** キーを押し、**MODIFY** ダイヤルを回して、下記の状態（ONが点滅）にします。



③ **[▷]** キーを押し、テンキーまたは **MODIFY** ダイヤルでストップレベルを設定します。

ここでは、例として25%にします。

ストップレベルは、振幅の正の最大値を100%、負の最大値を-100%にしたときに対するパーセンテージで設定します。

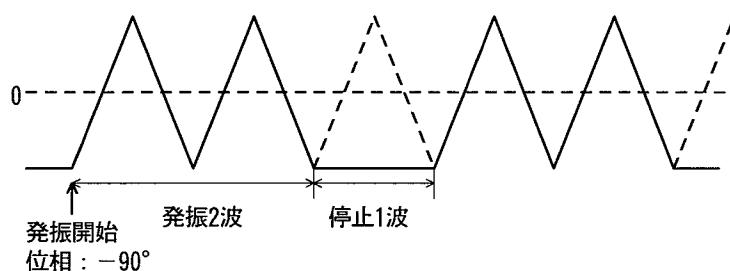
④設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを押し、設定から抜けます。

以上で、バースト発振（タイプ：バースト）の設定が終了しました。

その他：

- 5MHzを超える周波数にしたときは、マーク波数とスペースが不定になることがあります。その場合、周波数を5MHz以下に設定しても、スタート位相が半周期ずれる場合があります。このようなときは、一度連続発振に設定してからバースト発振に設定してください。
- ストップレベルをOFFにしたときは、位相設定（**[ENTRY]** → **[PHASE]** で設定）による位相で発振が停止します（マーク波数が1.0波以上で、かつマーク波数+スペース波数が整数のとき）。

発振開始位相：-90度、マーク波数：2、スペース波数：1のときの波形例



※更に、振幅 (Vp-p) の $\frac{1}{2}$ のDCオフセットを設定するが、あるいはローレベルを0Vに設定すると、片極性の波形が得られます。
□「5.1 便利な設定」の「■振幅、DCオフセットをハイレベル、ロー レベルで設定」、参照。

- バースト発振時の設定項目のまとめ（BURSTメニュー内）

TYPE : BURST

MARK (発振波数) [cycle]

SPACE (停止波数) [cycle]

STOP-LEVEL (ストップレベル) [OFF, ON [%]]

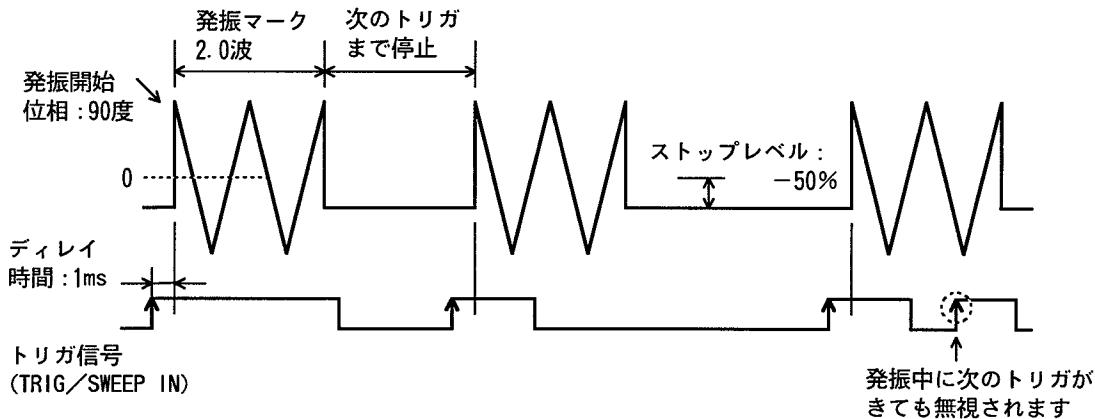
PHASE (発振開始位相) [deg] *ENTRYメニュー

■バースト発振（タイプ：トリガ）（ → → TYPE : TRIG）

バースト発振（タイプ：トリガ）は、トリガ信号ごとに指定された発振波数を出力する間欠発振です。

ここでは、下図のような波形を、外部からのトリガ信号（丸）によって出力するための操作について説明します。

なお、波形は三角波、DCオフセットは0V、周波数、振幅は任意に設定されているものとします。



操作例 :

(1) バースト発振タイプ (TYPE) をトリガ (TRIG) にします。

① キーを押し、次に キーを押します。

② 、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

BURST	TRIG	GATE	▶
BURST : TYPE MARK SPACE STOP-LEVEL			

③次に キーを押し、 、 キーで下記の状態 (TRIGが点滅) にします。

BURST	TRIG	GATE	▶
TRIG : TYPE SOURCE DELAY MARK ▶			

④これで、バースト発振タイプがトリガになりました。 キーを1回押し、タイプ設定から抜けます。

4.1 バースト発振

(2) トリガソース (SOURCE) を選びます。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (SOURCEが点滅) にします。

EXT	—モ—			
TRIG : TYPE	SOURCE	DELAY	MARK	►

② 次に **[ENTER]** キーを押します。

③ **[▶]** キーを押し、**MODIFY** ダイヤルで立ち上がり (**—上—**) を選びます。

(**—モ—** はトリガ信号の立ち下がりを示します。)

④ 選び終わりましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、トリガソース選択から抜けます。

(3) ディレイ時間 (DELAY) を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (DELAYが点滅) にします。

0. 3 μ s				
TRIG : TYPE	SOURCE	DELAY	MARK	►

② 次に **[ENTER]** キーを押します。

③ テンキーまたは **MODIFY** ダイヤルでディレイ時間を設定します。

ここでは、例として1msにします。

④ 設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、ディレイ時間設定から抜けます。

(4) マーク波数 (MARK) を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (MARKが点滅) にします。

1. 0 cycle				
TRIG : TYPE	SOURCE	DELAY	MARK	►

②次に **[ENTER]** キーを押し、テンキーまたは **MODIFY** ダイヤルでマーク波数を設定します (0.5波単位)。

ここでは、例として2波 (2.0 cycle) にします。

③設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、マーク波数設定から抜けます。

(5) ストップレベル (STOP-LEVEL) を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態にします (STOP-LEVELが点滅)。

OFF	TRIG : ◀ STOP-LEVEL
------------	----------------------------

②次に **[ENTER]** キーを押し、**MODIFY** ダイヤルを回して、下記の状態 (ONが点滅) にします。

ON	0. 00 %
TRIG : ◀ STOP-LEVEL	

③ **[▶]** キーを押し、テンキーまたは **MODIFY** ダイヤルでストップレベルを設定します。

ここでは、例として -50% にします。

ストップレベルは、振幅の正の最大値を100%、負の最大値を -100% にしたときに対するパーセンテージで設定します。

④設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを押し、設定から抜けます。

(6) 発振開始位相 (PHASE) を設定します。

① **[ENTRY]** キーを押し、次に **[PHASE]** キーを押します。

②テンキーまたは **MODIFY** ダイヤルで位相を設定します。

ここでは、例として90度 (90deg) にします。

③設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを押し、設定から抜けます。

以上で、バースト発振 (タイプ: トリガ) の設定が終了しました。TRIG/SWEEP IN端子に信号を加えると、発振します。

4.1 バースト発振

その他：

- トリガソースをINTにしたときは、下記のトリガレートの周期でトリガ信号が発生し、発振／停止が行われます。
なお、トリガレートはCH1、CH2共通です。



- ストップレベルをOFFにしたときは、位相設定 ($\text{ENTRY} \rightarrow \text{PHASE}$ で設定) による位相で発振が停止します（マーク波数が整数のとき）。
- 手動でトリガ信号を発生させたいときは、 MAN TRIG キーを押してください。なお、このときは、トリガソースをEXT₅にしてください。外部信号とキーと外部制御（GPIB、USB）の論理和で動作します。
- 外部制御(GPIB、USB)でトリガ信号を発生させるには、外部制御から、GETコマンドか、TRGコマンドを設定してください。
なお、このときは、トリガソースをEXT₅にしてください。
⇒ 外部制御コマンドの詳細について → 「外部制御取扱説明書」、参照。
- 両チャネル同時に手動または外部制御（GPIB、USB）でトリガ信号を発生させたいときは、両チャネルともにタイプ：トリガとし、OPER-COMMONをONにします。
また、BOTHランプが点灯している場合には、OPER-COMMONがOFFでも同様な動作をします



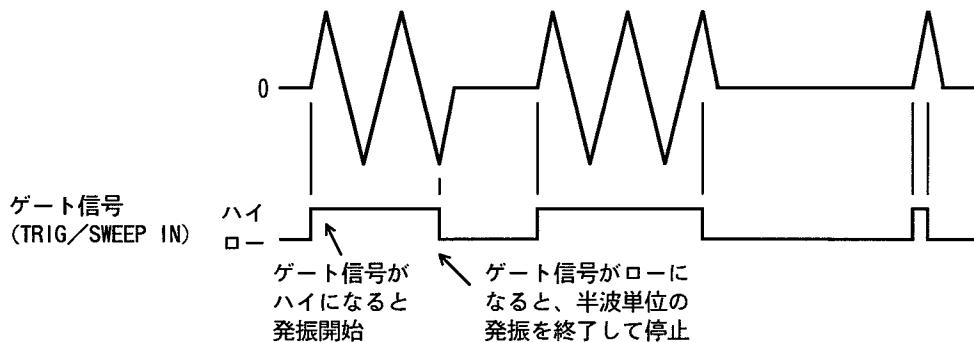
- トリガ発振時の設定項目のまとめ (BURSTメニュー内)
TYPE : TRIG
SOURCE (トリガソース) CH 1 : [EXT ₁、EXT ₂、INT ₁ [s]、INT ₂ [s]]
CH 2 : [EXT CH2 ₁、EXT CH2 ₂、EXT CH1 ₁、EXT CH1 ₂、
INT ₁ [s]、INT ₂ [s]]
DELAY (トリガディレイ) [s]
MARK (発振波数) [cycle]
STOP-LEVEL (ストップレベル) [OFF、ON[%]]
OPER-COMMON (両チャネル同時トリガ) [OFF、ON]
PHASE (発振開始位相) [deg] *ENTRYメニュー

■バースト発振（タイプ：ゲート）（ →  → TYPE : GATE）

バースト発振（タイプ：ゲート）は、トリガ信号のレベルによって発振／停止する間欠発振です。

ここでは、下図のような波形を、外部からのゲート信号によって出力するための操作について説明します。

なお、波形は三角波、DCオフセットは0V、発振開始位相は0度、周波数、振幅は任意に設定されているものとします。



操作例：

(1) バースト発振タイプ (TYPE) をゲート (GATE) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

BURST	TRIG	GATE	▶
BURST : TYPE MARK SPACE STOP-LEVEL			

③次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (GATEが点滅) にします。

BURST	TRIG	GATE	▶
GATE : TYPE SOURCE STOP-LEVEL			

④これで、バースト発振タイプがゲートになりました。 キーを1回押し、タイプ設定から抜けます。

4.1 バースト発振

(2) ゲートソース (SOURCE) を選びます。

① 、 キーで下記の状態 (SOURCEが点滅) にします。

EXT	L-ON	
GATE : TYPE	SOURCE	STOP-LEVEL

②次に キーを押します。

③ キーを押し、 ダイヤルで正論理 (H-ON) を選びます。

④選び終わりましたら、 キーを1回押し、ゲートソース選択から抜けます。

(3) ストップレベル (STOP-LEVEL) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STOP-LEVELが点滅) にします。

OFF		
GATE : TYPE	SOURCE	STOP-LEVEL

②次に キーを押し、 ダイヤルを回して、下記の状態 (ONが点滅) にします。

ON	0. 00 %	
GATE : TYPE	SOURCE	STOP-LEVEL

③ キーを押し、テンキーまたは ダイヤルでストップレベルを設定します。

ここでは、例として0%にします。

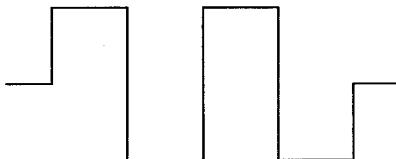
ストップレベルは、振幅の正の最大値を100%、負の最大値を-100%にしたときに対するパーセンテージで設定します。

④設定が済みましたら、 キーを押し、設定から抜けます。

以上で、バースト発振 (タイプ: ゲート) の設定が終了しました。 TRIG/SWEEP IN端子にハイレベル信号を加えると、発振します。なお、端子が開放されているときは、内部でプルアップされているため、発振したままになります。

その他：

- 上記の設定で、波形を方形波にすると、下図のような3値方形波が得られます。

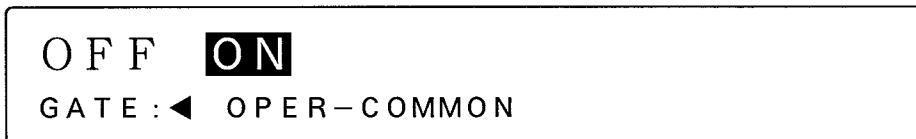


(ストップレベルがOFFのときは、方形波はハイレベルかローレベルのどちらかで発振が停止します)

- ゲートソースをINTにしたときは、下記のゲートレートの周期で、デューティ50%のゲート信号が発生し、発振／停止が行われます。
なお、ゲートレートはCH 1、CH 2共通です。



- ストップレベルをOFFにしたときは、ゲート信号がオフになってからの半波の切れ目（すなわち位相設定 (→ で設定) による位相) で発振が停止します。
- 手動でゲート信号を発生させたいときは、 キーを押してください。キーが押されている間、ゲート信号がオン（すなわち、発振状態）になります。なお、このときは、トリガソースをEXT L-ONにしてください。
- 外部制御(GPIB、USB)でトリガ信号を発生させるには、外部制御から、GETコマンドか、TRGコマンドを設定してください。
なお、このときは、トリガソースをEXT fにしてください。
☞ 外部制御コマンドの詳細について → 「外部制御取扱説明書」、参照。
- 両チャネル同時に手動または外部制御(GPIB、USB)でゲート信号を発生させたいときは、両チャネルともにタイプ：ゲートとし、OPER-COMMONをONにします。
また、BOTHランプが点灯している場合には、OPER-COMMONがOFFでも同様な動作をします。



- ゲート発振時の設定項目のまとめ (BURSTメニュー内)
- TYPE : GATE
SOURCE (トリガソース)
CH1 : [EXT L-ON、EXT H-ON、INT L-ON[s]、INT H-ON[s]]
CH2 : [EXT CH2 L-ON、EXT CH2 H-ON、EXT CH1 L-ON、EXT CH1 H-ON、INT L-ON[s]、INT H-ON[s]]
STOP-LEVEL (ストップレベル) [OFF、ON [%]]
OPER-COMMON (両チャネル同時ゲート) [OFF、ON]
PHASE (発振開始位相) [deg] * ENTRYメニュー

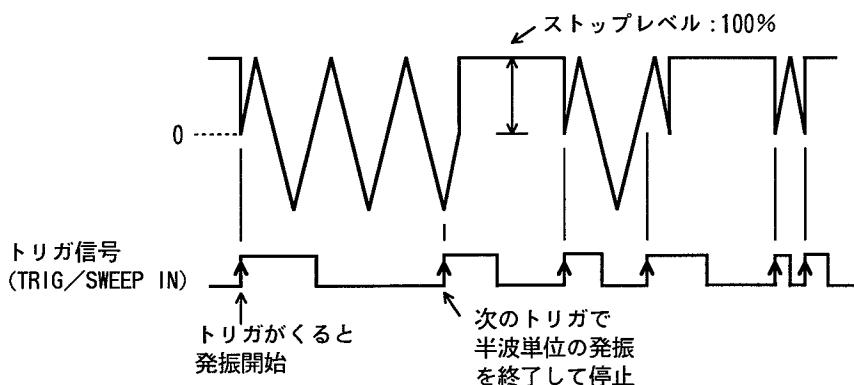
4.1 バースト発振

■バースト発振（タイプ：トリガドゲート）（ → → TYPE : T-GATE）

バースト発振（タイプ：トリガドゲート）は、トリガ信号ごとに発振／停止を繰り返す間欠発振です。

ここでは、下図のような波形を、外部からのトリガ信号（丸）によって出力するための操作について説明します。

なお、波形は三角波、DCオフセットは0V、発振開始位相は0度、周波数、振幅は任意に設定されているものとします。



操作例：

(1) バースト発振タイプ (TYPE) をトリガドゲート (T-GATE) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

BURST	TRIG	GATE	▶
BURST: TYPE MARK SPACE STOP-LEVEL			

③次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (T-GATEが点滅) にします。

◀	T-GATE
T-GATE: TYPE SOURCE STOP-LEVEL	

④これで、バースト発振タイプがトリガドゲートになりました。 キーを1回押し、タイプ設定から抜けます。

(2) トリガソース (SOURCE) を選びます。

① 、 キーで下記の状態 (SOURCEが点滅) にします。



② 次に キーを押します。

③ ダイヤルで立ち上がり (_F_) を選びます。

(_F_ はトリガ信号の立ち下がりを示します。)

④ 選び終わりましたら、 キーを1回押し、トリガソース選択から抜けます。

4.1 バースト発振

(3) ストップレベル (STOP-LEVEL) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STOP-LEVELが点滅) にします。

OFF

T-GATE : TYPE SOURCE STOP-LEVEL

② 次に キーを押します。

③ ダイヤルを回して、下記の状態 (ONが点滅) にします。

ON

0. 00 %

T-GATE : TYPE SOURCE STOP-LEVEL

④ キーを押し、テンキーまたは ダイヤルでストップレベルを設定します。

ここでは、例として100%にします。

ストップレベルは、振幅の正の最大値を100%、負の最大値を-100%にしたときに対するパーセンテージで設定します。

⑤ 設定が済みましたら、 キーを押し、設定から抜けます。

以上で、バースト発振 (タイプ: トリガードゲート) の設定が終了しました。TRIG/SWEEP IN 端子に信号を加えるたびに、発振/停止が切り換わります。

その他：

- ・ ストップレベルをOFFにしたときは、トリガ信号がきてからの半波の切れ目（すなわち位相設定 ( →  で設定) による位相もしくはその位相に180度加えた位相) で発振が停止します。
- ・ 手動でトリガ信号を発生させたいときは、 キーを押してください。キーを押すたびに、発振／停止が切り換わります。

ただし、手動でトリガ信号を発生できるのは、発振が停止している状態からです。外部信号によって発振しているときは、 キーを押しても発振は停止しません。

なお、電源投入時は発振停止です。

- ・ 外部制御 (GPIB、USB) でトリガ信号を発生させるには、外部制御から、GETコマンドか、TRGコマンドを設定してください。
なお、このときは、トリガソースをEXT  にしてください。
□ 外部制御コマンドの詳細について → 「外部制御取扱説明書」、参照。
- ・ 両チャネル同時に手動または外部制御から信号を発生させたいときは、両チャネルとともにタイプ：ゲートとし、OPER-COMMONをONにします。
また、BOTHランプが点灯している場合には、OPER-COMMONがOFFでも同様な動作をします。

O F F O N
T-GATE :  OPER-COMMON

- ・ トリガドゲート発振時の設定項目のまとめ (BURSTメニュー内)

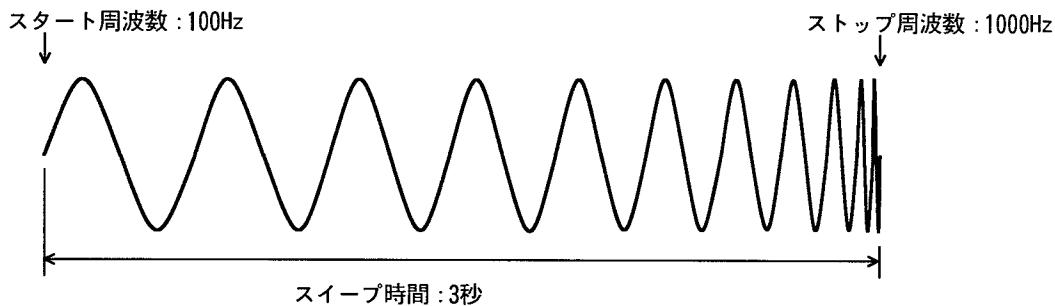
TYPE : T-GATE
 SOURCE (トリガソース) CH 1: [EXT 、EXT ]
 CH 2: [EXT CH 2 、EXT CH 2 、EXT CH 1 、EXT CH 1 ]
 STOP-LEVEL (ストップレベル) [OFF、ON [%]]
 OPER-COMMON (両チャネル同時トリガ) [OFF、ON]
 PHASE (発振開始位相) * ENTRYメニュー

4.2 スイープ (MODE、SWEEP)

■スイープ (モード : シングル) (→ → MODE : SINGLE)

スイープ (モード : シングル) は周波数や振幅等のパラメタを、スタートの設定とストップの設定の間を、一回変化させながら発振します。スイープが終了すると発振を続けます。

ここでは、周波数が直線状に連続して変化する波形を出力する操作について説明します。
なお、波形は正弦波に、振幅、DCオフセットは任意に設定されているものとします。



操作例 :

- (1) スイープモード (MODE) をシングル (単発、SINGLE) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

S I N G L E C O N T G A T E D

F - SWP : TYPE SOURCE MODE ►

③ 次に  キーを押し、、 キーで下記の状態 (SINGLEが点滅) にします。

S I N G L E C O N T G A T E D

F - SWP : TYPE SOURCE MODE ►

④ これで、スイープモードがシングルになりました。 キーを1回押し、モード選択から抜けます。

(2) スイープ対象 (TYPE) を周波数 (FREQ) にします。

① 、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

FREQ	AMP TD	OFFSET	
F-SWP : TYPE SOURCE MODE			

②次に キーを押し、、 キーで下記の状態 (FREQが点滅) にします。

FREQ	AMP TD	OFFSET	
F-SWP : TYPE SOURCE MODE			

③これで、スイープ対象が周波数になりました。 キーを1回押し、設定から抜けます。

(3) スイープファンクション (FUNCTION) を選びます。

① 、 キーで下記の状態 (FUNCTIONが点滅) にします。

LIN	
F-SWP : < FUNCTION START STOP	

②次に キーを押します。

③ キーを押し、 ダイヤルで／＼を選びます。

④選び終わりましたら、 キーを1回押し、ファンクション選択から抜けます。

(4) スタート周波数 (START) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STARTが点滅) にします。

1 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 H z
F-SWP : ◀ F U N C T I O N S T A R T S T O P ▶

② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでスタート周波数を設定します。

ここでは、例として100Hzにします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、スタート周波数設定から抜けます。

(5) ストップ周波数 (STOP) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STOPが点滅) にします。

1 0 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 H z
F-SWP : ◀ F U N C T I O N S T A R T S T O P ▶

② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでストップ周波数を設定します。

ここでは、例として1000Hzにします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、ストップ周波数設定から抜けます。

(6) スイープ時間 (TIME) を設定します。

- ① 、 キーで下記の状態 (TIMEが点滅) にします。



② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでスイープ時間を設定します。

ここでは、例として3秒にします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、スイープ時間設定から抜けます。

(7) スイープを実行します。

① キーを押すと、スイープがスタートします。

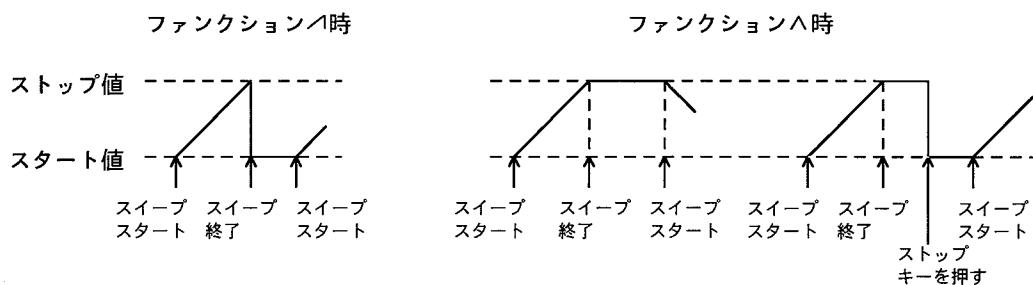
スイープをスタートさせると、それまで出力されていた周波数がスタート周波数に急変します。

あらかじめスタート周波数を出力させておきたいときは、 キーを押します。

この例では、3秒でスイープが終了します。スイープが終了した後は、トップ周波数で発振を続けます。再び キーを押すと、トップ周波数からスタート周波数に向かって、スイープが行われます。

その他：

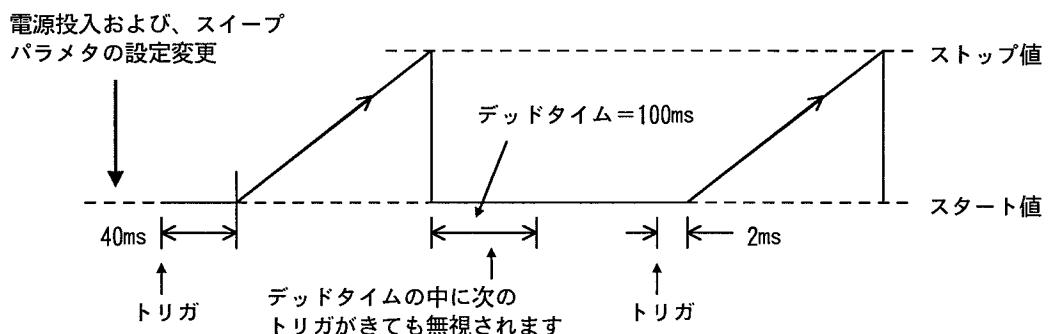
- スイープを中止したいときは、 キーを押してください。スイープ中またはシングルスイープのストップ値で停止しているときに キーを押すと、スイープスタート値になります（後述のSTART-STATEと同じ）。
- スイープを停止したいときは、 キーを押してください。もう一度 キーを押すとスイープが再開します。
- シングルスイープ時の動作例



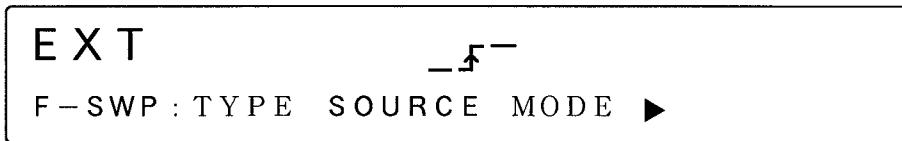
- デッドタイムとトリガディレイ

前回のスイープ終了時から100ms以内に入力されたトリガは、無視されます。

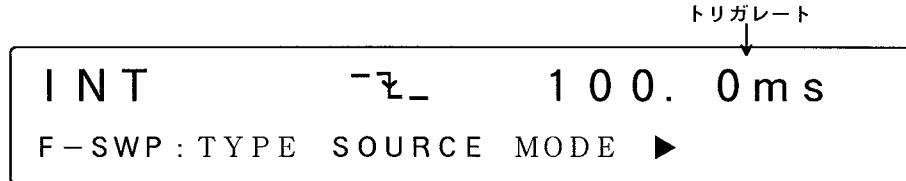
電源投入後およびパラメタ変更後の、最初のスイープのときのトリガディレイは40ms、それ以外は2msです。



- 外部信号によってスイープをスタートしたいときは、スイープトリガソースをEXTに変更、および立ち上がり／立ち下がりを設定し、正面パネルのTRIG/SWEEP IN端子に外部信号を入力してください。なお、スイープをスタートしてから100msは、再トリガは受け付けられません。スイープ中にトリガが入力されると、再スタートします。



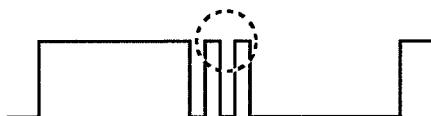
- 外部信号によってスイープを停止したいときは、背面パネルのSWEEP PAUSE IN端子にローレベルの信号を入力してください。なお、ハイレベルの信号を入力するか、入力を開放にすると、スイープが再開します。
- FUNCTIONは、スイープの種類を決めます。例えば、「」はスイープ時間の半分の時点で、出力値（周波数など）がステップ状に変化します。LIN/LOGは、出力値が時間軸に対して直線状に変化するか、対数状に変化するかを決めます。
- ✓ { LIN
LOG
- ^ { LIN
LOG
- 「」
- SIN (~) { LIN
LOG
- スイープトリガソースをINTにしたときは、下記のトリガレートの周期でトリガ信号が発生し、スイープが行われます。ただし、100ms未満にしても、トリガは100ms間隔でしかかかりません。なお、トリガレートはCH1、CH2共通です。



4.2 スイープ

- START-STATEは出力をスタート値に、STOP-STATEはストップ値にします。
スイープ補助出力もそれぞれスタート状態、ストップ状態になるので、レコーダのフルスケール合わせや、外部機器の状態確認ができます。
なお、START-STATEは  キーを押すことと同じです（シングルスイープのとき）。
- スイープ値とスイープ補助出力の関係 → 「4.2 スイープ」の「■スイープ値とマーク／同期／X-DRIVE各出力」、参照。

- スイープ対象 (TYPE) をDUTYにすると、出力波形は強制的に方形波（デューティ可変）になり、波形選択 (FUNCTION) が不可能になります。
スイープ中は、下図のように1周期中に複数のパルスが出力されることがあります。



- スイープ実行中に、他方のチャネルで発振モードを変更すると、スイープが中止されます。
- 外部制御 (GPIB、USB) でトリガ信号を発生させるには、外部制御から、TRGコマンドを設定してください。
□ 外部制御コマンドの詳細について → 「外部制御取扱説明書」、参照。
- 両チャネル同時に手動または外部制御 (GPIB、USB) でスイープ操作（開始／中止／停止／再開）を行いたいときは、両チャネルともにスイープモードとし、OPER-COMMONをONにします。
また、BOTHランプが点灯している場合には、OPER-COMMONがOFFでも同様な動作をします。

OFF	ON
F-SWP : ◀	OPER-COMMON

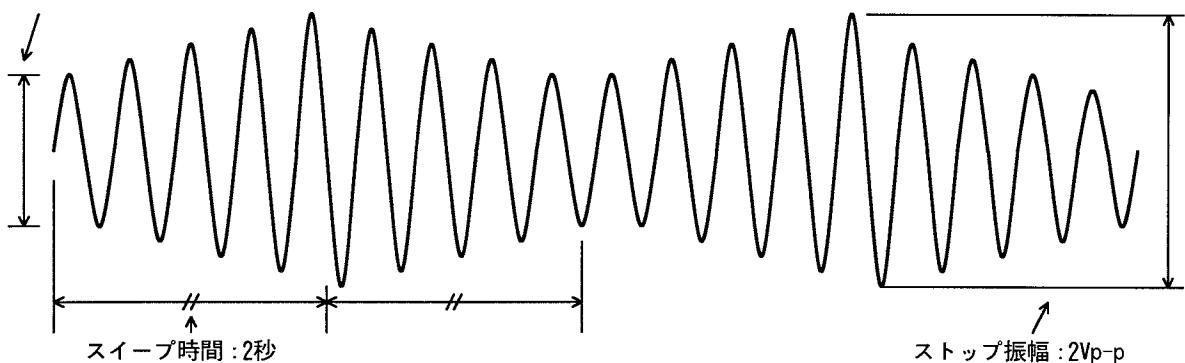
■スイープ（モード：コンティニュアス）（ →  → MODE : CONT）

スイープ（モード：コンティニュアス）は周波数や振幅等のパラメタを、スタートの設定とストップの設定の間を、繰り返し変化させながら発振します。

ここでは、振幅が直線的に連続で変化する波形を出力する操作について説明します。

なお、波形は正弦波に、周波数、DCオフセットは任意に設定されているものとします。

スタート振幅：1Vp-p



操作例：

(1) スイープモード（MODE）をコンティニュアス（連続、CONT）にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

S I N G L E C O N T G A T E D
F-SWP : TYPE SOURCE MODE ►

③次に  キーを押し、、 キーで下記の状態（CONTが点滅）にします。

S I N G L E C O N T G A T E D
F-SWP : TYPE MODE FUNCTION START ►

④これで、スイープモードがコンティニュアスになりました。 キーを1回押し、モード選択から抜けます。

4.2 スイープ

(2) スイープ対象 (TYPE) を振幅 (AMPTD) にします。

① 、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

```
FREQ AMPTD OFFSET ▶  
F-SWP : TYPE MODE FUNCTION START ▶
```

②次に キーを押し、、 キーで下記の状態 (AMPTDが点滅) にします。

```
FREQ AMPTD OFFSET ▶  
A-SWP : TYPE MODE FUNCTION START ▶
```

③これで、スイープ対象が振幅になりました。 キーを1回押し、設定から抜けます。

(3) スイープファンクション (FUNCTION) を選びます。

① 、 キーで下記の状態 (FUNCTIONが点滅) にします。

```
LIN /  
A-SWP : TYPE MODE FUNCTION START ▶
```

②次に キーを押します。

③ キーを押し、 ダイヤルで／＼を選びます。

④選び終わりましたら、 キーを1回押し、ファンクション選択から抜けます。

(4) スタート振幅 (START) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STARTが点滅) にします。

A M P T D 0 . 1 0 0 0 V p - p
A - S W P : T Y P E M O D E F U N C T I O N S T A R T ►

② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでスタート振幅を設定します。

ここでは、例として1Vp-pにします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、スタート振幅設定から抜けます。

(5) ストップ振幅 (STOP) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STOPが点滅) にします。

A M P T D 1 . 0 0 0 0 V p - p
A - S W P : S T O P T I M E C E N T E R S P A N ►

② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでストップ振幅を設定します。

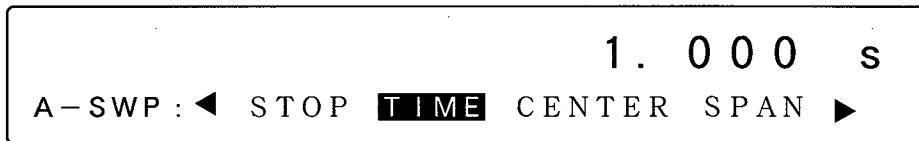
ここでは、例として2Vp-pにします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、ストップ振幅設定から抜けます。

4.2 スイープ

(6) スイープ時間 (TIME) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (TIMEが点滅) にします。



② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでスイープ時間を設定します。

ここでは、例として2秒にします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、スイープ時間設定から抜けます。

(7) スイープを実行します。

① キーを押すと、スイープがスタートします。

スイープをスタートさせると、それまで出力されていた振幅がスタート振幅に急変します。

あらかじめ、スタート振幅を出力させておきたいときは、 キーを押します。

その他：

- スイープを中止したいときは、 キーを押してください。スイープスタート値になります。
- スイープを停止したいときは、 キーを押してください。もう一度 キーを押すとスイープが再開します。
- 外部信号によってスイープを停止したいときは、背面パネルのSWEEP PAUSE IN端子にローレベルの信号を入力してください。なお、ハイレベルの信号を入力するか、入力を開放にすると、スイープが再開します。

- FUNCTIONは、スイープの種類を決めます。例えば、「はスイープ時間の半分の時点で、出力値（周波数など）がステップ状に変化します。LIN/LOGは、出力値の変化が、時間軸に対して直線状に行われるか、対数状に行われるかを決めます。

- $\wedge \{ \begin{matrix} \text{LIN} \\ \text{LOG} \end{matrix} \}$
- $\wedge \{ \begin{matrix} \text{LIN} \\ \text{LOG} \end{matrix} \}$
- \lceil
- SIN (\sim) $\{ \begin{matrix} \text{LIN} \\ \text{LOG} \end{matrix} \}$
- START-STATEは出力をスタート値に、STOP-STATEはストップ値にします。
スイープ補助出力もそれぞれスタート状態、ストップ状態になるので、レコーダのフルスケール合わせや、外部機器の状態確認ができます。
なお、START-STATEは  キーを押すことと同じです（コンティニュアススイープのとき）。
□ スイープ値とスイープ補助出力の関係 → 「4.2 スイープ」の「■スイープ値とマーク／同期／X-DRIVE各出力」、参照。
- スイープ対象 (TYPE) をDUTYにすると、出力波形は自動的に方形波（デューティ可変）になります。波形選択 (FUNCTION) が不可能になります。
スイープ中は、下図のように1周期中に複数のパルスが出力されることがあります。



- スイープ実行中に、他方のチャネルで発振モードを変更すると、スイープが中止されます。
- 両チャネル同時に、手動または外部制御 (GPIB、USB) でスイープ操作（開始／中止／停止／再開）を行いたいときは、両チャネルともにスイープモードとし、OPER-COMMONをONにします。

OFF	ON
A-SWP :◀ OPER-COMMON	

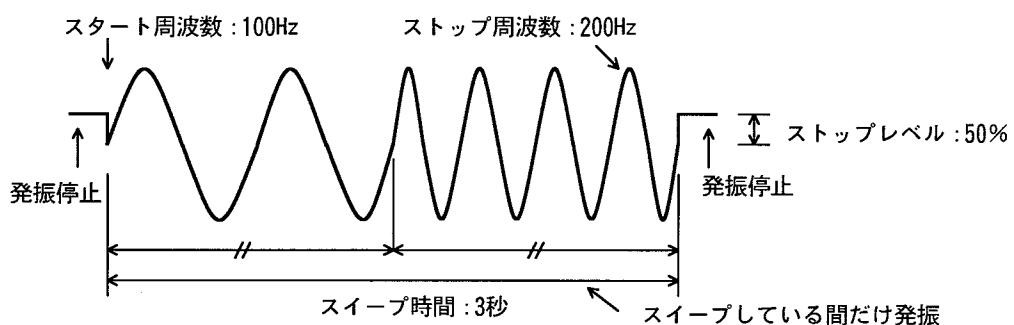
4.2 スイープ

■スイープ（モード：ゲーテッド）（ → → MODE : GATED）

スイープ（モード：ゲーテッド）は周波数や振幅等のパラメタを、スタートの設定とストップの設定の間を、一回変化させながら発振します。スイープを開始するまで発振は停止します。また、スイープが終了すると発振を停止します。

ここでは、周波数がステップ状に変化し、発振が停止する波形を出力する操作について説明します。

なお、波形は正弦波、DCオフセットは0V、振幅は任意に設定されているものとします。



操作例：

(1) スイープモード（MODE）をゲーテッド（GATED）にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態（MODEが点滅）にします。

```
S I N G L E   C O N T   G A T E D  
F - S W P : T Y P E   S O U R C E   M O D E   ▶
```

③次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態（GATEDが点滅）にします。

```
S I N G L E   C O N T   G A T E D  
F - S W P : T Y P E   S O U R C E   M O D E   ▶
```

④これで、スイープモードがゲーテッドになりました。 キーを1回押し、モード選択から抜けます。

(2) スイープ対象 (TYPE) を周波数 (FREQ) にします。

① 、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

FREQ	AMPTD	OFFSET	
F-SWP : TYPE SOURCE MODE			

②次に キーを押し、、 キーで下記の状態 (FREQが点滅) にします。

FREQ	AMPTD	OFFSET	
F-SWP : TYPE SOURCE MODE			

③これで、スイープ対象が周波数になりました。 キーを1回押し、設定から抜けます。

(3) スイープファンクション (FUNCTION) を選びます。

① 、 キーで下記の状態 (FUNCTIONが点滅) にします。

LIN	
F-SWP : FUNCTION START STOP	

②次に キーを押します。

③ キーを押し、 ダイヤルで「」を選びます。

④選び終わりましたら、 キーを1回押し、ファンクション選択から抜けます。

4.2 スイープ

(4) スタート周波数 (START) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STARTが点滅) にします。

1 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 H z
F-SWP : FUNCTION START STOP

② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでスタート周波数を設定します。

ここでは、例として100Hzにします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、スタート周波数設定から抜けます。

(5) ストップ周波数 (STOP) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STOPが点滅) にします。

1 0 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 H z
F-SWP : FUNCTION START STOP

② 次に キーを押します。

③ テンキーまたは ダイヤルでストップ周波数を設定します。

ここでは、例として200Hzにします。

④ 設定が済みましたら、 キーを1回押し、ストップ周波数設定から抜けます。

(6) スイープ時間 (TIME) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (TIMEが点滅) にします。

1. 0 0 0 s
F-SWP : TIME STOP-LEVEL CENTER

②次に キーを押します。

③テンキーまたは ダイヤルでスイープ時間を設定します。

ここでは、例として3秒にします。

④設定が済みましたら、 キーを1回押し、スイープ時間設定から抜けます。

(7) ストップレベル (STOP-LEVEL) を設定します。

① 、 キーで下記の状態 (STOP-LEVELが点滅) にします。

O F F
F-SWP : TIME STOP-LEVEL CENTER

②次に キーを押します。

③ ダイヤルを回して、下記の状態 (ONが点滅) にします。

O N	0. 0 0 %
F-SWP : TIME STOP-LEVEL CENTER	

4.2 スイープ

④ キーを押し、テンキーまたは ダイヤルでストップレベルを設定します。

ここでは、例として50%にします。

ストップレベルは、振幅の正の最大値を100%、負の最大値を-100%にしたときに対するパーセンテージで設定します。

⑤ 設定が済みましたら、 キーを押し、設定から抜けます。

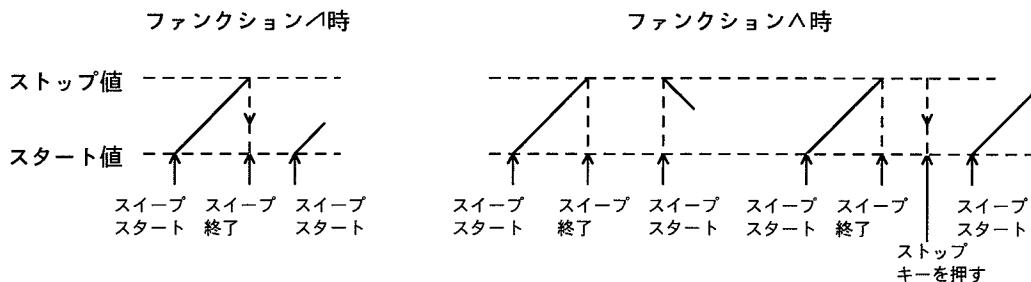
(9) スイープを実行します。

① キーを押すと、スイープ（発振）がスタートします。

この例では、3秒でスイープが終了し、発振が停止します。再び キーを押すと、ストップ周波数からスタート周波数に向かって、スイープが行われます。

その他：

- スイープを中止したいときは、キーを押してください。発振も停止します。
スイープ中またはストップ値で停止しているときにキーを押すと、スイープスタート値になります（発振は停止しています）。
- スイープを停止したいときは、キーを押してください。もう一度キーを押すとスイープが再開します。
- ゲーテッドスイープ時の動作例



- 外部信号によってスイープをスタートしたいときは、スイープトリガソースをEXTに変更、および立ち上がり／立ち下がりを設定し、正面パネルのTRIG/SWEEP IN端子に外部信号を入力してください。なお、スイープをスタートしてから100msは、再トリガは受け付けられません。

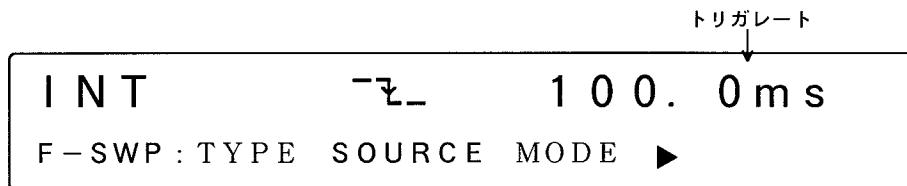
EXT	—フ—
F-SWP : TYPE SOURCE MODE ▶	

- 外部信号によってスイープを停止したいときは、背面パネルのSWEEP PAUSE IN端子にローレベルの信号を入力してください。なお、ハイレベルの信号を入力するか、入力を開放になると、スイープが再開します。
- FUNCTIONは、スイープの種類を決めます。例えば、「」はスイープ時間の半分の時点で、出力値（周波数など）がステップ状に変化します。LIN/LOGは、出力値の変化が、時間軸に対して直線状に行われるか、対数状に行われるかを決めます。

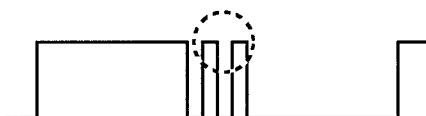
- 「 
- ^ 
- 「
- SIN (~) 

4.2 スイープ

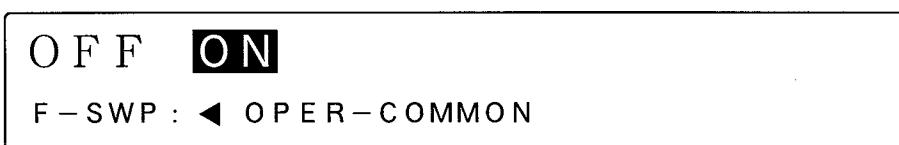
- スイープトリガソースをINTにしたときは、下記の周期でトリガ信号が発生し、スイープが行われます。ただし、100ms未満にしても、トリガは100ms間隔でしかかかりません。なお、トリガレートはCH1、CH2共通です。



- START-STATEは出力をスタート値に、STOP-STATEはストップ値にします。
ゲーテッドスイープ時は、START-STATE、STOP-STATEともに発振も行われます。また、スイープ補助出力もそれぞれスタート状態、ストップ状態になるので、レコーダのフルスケール合わせや、外部機器の状態確認ができます。
 - スイープ値とスイープ補助出力の関係 → 「4.2 スイープ」の「■スイープ値とマーク／同期／X-DRIVE各出力」、参照。
- スイープ対象 (TYPE) をDUTYにすると、出力波形は自動的に方形波（デューティ可変）になります。波形選択 (FUNCTION) が不可能になります。
スイープ中は、下図のように1周期中に複数のパルスが出力されることがあります。



- 周波数が低く、スイープの休止期間が短いとき、スイープが終了しても、発振がすぐに停止しないことがあります。
- スイープ実行中に、他方のチャネルで発振モードを変更すると、スイープが中止されます。
- 両チャネル同時に、手動または外部制御 (GPIB、USB) でスイープ操作（開始／中止／停止／再開）を行いたいときは、両チャネルともにスイープモードとし、OPER-COMMONをONにします。



■ CENTER、SPAN、MARKER、MKR→CTR

- CENTERはスイープの中心値を、SPANは範囲を設定します。CENTER、SPAN、START、STOPの間には下記のような関係があります。

ただし、スイープする対象をユーザ単位のLOGで使用しているときは、CENTER、SPANでの入力はできません。

- STARTを変更したとき

STOP=変化しない

$$\text{CENTER} = (\text{START} + \text{STOP}) \div 2$$

$$\text{SPAN} = |\text{START} - \text{STOP}|$$

- STOPを変更したとき

START=変化しない

$$\text{CENTER} = (\text{START} + \text{STOP}) \div 2$$

$$\text{SPAN} = |\text{START} - \text{STOP}|$$

- CENTERを変更したとき

SPAN=変化しない

$$\text{START} = \text{CENTER} \mp (\text{SPAN} \div 2)$$

$$\text{STOP} = \text{CENTER} \pm (\text{SPAN} \div 2)$$

- SPANを変更したとき

CENTER=変化しない

$$\text{START} = \text{CENTER} \mp (\text{SPAN} \div 2)$$

$$\text{STOP} = \text{CENTER} \pm (\text{SPAN} \div 2)$$

- MARKERは、スイープマーカ出力(SWEEP Z-MAKER OUT)を変化させる値を設定します。

- MKR→CTRはマーカ値 (MARKER) をセンタ値 (CENTER) にコピーします。

- 振幅スイープで、スタート値／ストップ値を0、スイープファンクションをLOGヘ／LOGノ／LOGヘに設定した場合、トリガ周期が短いときに「SETTINGS CONFLICT 001」が表示され続け、メニューが見えなくなる場合があります。このような場合には、トリガソースを切り替えるか、SWEEP PAUSE IN 端子の入力を停止してください。

■スイープ設定項目のまとめ

スイープ動作時の設定項目についてまとめて記載します（SWEEPメニュー内）。

TYPE（スイープ対象） [FREQ、AMPTD、OFFSET、PHASE、DUTY]

SOURCE（トリガソース） CH1 : [EXT \square 、EXT \square 、INT \square [s]、INT \square [s]]

CH2 : [EXT CH2 \square 、EXT CH2 \square 、EXT CH1、INT \square [s]、INT \square [s]]

*スイープモードがSINGLE、GATEDのときに設定します。

MODE（スイープモード） [SINGLE、CONT、GATED]

FUNCTION（スイープ波形） [LIN \wedge 、LOG \wedge 、 \square 、LIN SIN、LOG SIN、LIN \wedge 、LOG \wedge]

START（スイープ開始値）／STOP（スイープ終了値）

または

CENTER（スイープ中心値）／SPAN（スイープ幅）

TIME（スイープ時間） [s]

STOP-LEVEL（ストップレベル） [%]

PHASE（発振開始時の位相） *ENTRYメニュー

MARKER（マーカ値）

MKR→CTR（マーカ値をセンタ値にコピー）

OPER-COMMON（両チャネル同時スイープ操作） [OFF、ON]

スイープ範囲の設定

] スイープモードがGATEDのとき設定します。

スイープの操作について

・ メイン操作

START（スイープ開始）

STOP（スイープ終了／スイープスタート状態）

*スイープが終了しているときに操作すると、スイープスタート状態になります。

PAUSE（スイープ中断／再開）

・ SWEEPメニュー内

START-STATE（スイープスタート状態）

STOP-STATE（スイープストップ状態）

■スイープ（変調）のステップ数とステップ幅

スイープ、変調は、ソフトウェアによって出力を更新しています。スイープ、変調のステップ数（スタート値とストップ値の間の出力更新回数）とステップ幅（1回の更新での変化幅）の概算方法を下記に示します。

ここでは、スイープについて説明します。変調については、スイープファンクション→変調波形、スイープ対象→変調対象、スイープ時間→変調周期と読み替えてください。

変調周期は、下式によります。

変調波形がSIN、～、△のとき、変調周期 = $1 \div (\text{変調周波数} \times 2)$

変調波形が△、△のとき、変調周期 = $1 \div \text{変調周波数}$

- **ステップ数の求め方**（発振モードが1チャネルだけスイープまたは変調のとき。その他は、次ページ、参照）

(1) スイープファンクションがステップ（J）のとき

ステップ数 = スイープ時間 [s] × 10000 (切り上げ、偶数化 * 2 : 切り上げた結果が奇数ならば、-1)

(2) スイープファンクションがステップ以外で、スイープ対象が周波数のとき

①スイープ時間が25ms以下のとき

ステップ数 = スイープ時間 [s] × 10000

②スイープ時間が25msを超え、31.25ms以下のとき

ステップ数 = 250 (固定)

③スイープ時間が31.25msを超えるとき

ステップ数 = スイープ時間 [s] × 8000

(3) スイープファンクションがステップ以外で、スイープ対象が周波数以外のとき

①スイープ時間が50ms以下のとき

ステップ数 = スイープ時間 [s] × 10000

②スイープ時間が50msを超え、62.5ms以下のとき

ステップ数 = 250 (固定)

③スイープ時間が62.5msを超えるとき

ステップ数 = スイープ時間 [s] × 8000

- ステップ数の求め方（発振モードが2チャネルともスイープまたは変調のとき。その他は、前ページ、参照）

まず、計算に先だって、基準チャネル、非基準チャネルを決めます。基準チャネルは、スイープ時間または変調周期の短い方と定義します。非基準チャネルは、その逆です。

変調周期は、下式によります。

変調波形がSIN、～、△のとき、変調周期 = $1 \div (\text{変調周波数} \times 2)$

変調波形が↖、↗のとき、変調周期 = $1 \div \text{変調周波数}$

a. 基準チャネルのステップ数

(1) スイープ対象が周波数のとき

①スイープ時間が25ms以下のとき

ステップ数 = スイープ時間[s] × 5000 (切り捨て、1.6ms超では偶数化 * 2)

②スイープ時間が25msを超える、31.25ms以下のとき

ステップ数 = 124 (固定)

③スイープ時間が31.25msを超えるとき

ステップ数 = スイープ時間[s] × 4000

(2) スイープ対象が周波数以外のとき

①スイープ時間が50ms以下のとき

ステップ数 = スイープ時間[s] × 5000 (切り捨て、1.6ms超では偶数化 * 2)

②スイープ時間が50msを超える、62.5ms以下のとき

ステップ数 = 250 (固定)

③スイープ時間が62.5msを超えるとき

ステップ数 = スイープ時間[s] × 4000

(3) 変調対象が周波数のとき

①変調周期が25ms以下のとき

ステップ数 = 変調周期[s] × 5000

(切り捨て、変調波形が↖、↗のときは偶数化 * 2、更に4の整数倍にする、変調波形が↖、↗以外のときは、1.6ms超で偶数化 * 2)

②変調周期が25msを超える、31.25ms以下のとき

ステップ数 = 124 (固定)

③変調周期が31.25msを超えるとき

ステップ数 = 変調周期[s] × 4000

(切り上げ、変調波形がステップのときは偶数化 * 2)

(4) 変調対象が周波数以外のとき

①変調周期が50ms以下のとき

$$\text{ステップ数} = \text{変調周期[s]} \times 5000$$

(切り捨て、変調波形が△、▽のときは偶数化*2、更に3.2ms超では4の整数倍にする、変調波形が△、▽以外のときは、1.6ms超で偶数化*2)

②変調周期が50msを超え、62.5ms以下のとき

$$\text{ステップ数} = 250 \text{ (固定)}$$

(変調波形が△、▽のときは248)

③変調周期が62.5msを超えるとき

$$\text{ステップ数} = \text{変調周期[s]} \times 4000$$

(切り上げ、変調波形がステップのときは偶数化)

(5) 例 外

①スイープ時間を設定した後でスイープ対象を変更しても、ステップ数は変化しません。例えば、スイープ対象を周波数から振幅に変更しても、(1) のステップ数のままです。

②変調周波数を設定した後で変調波形を変更しても、ステップ数は変化しません。例えば、周波数変調から振幅変調に変更しても、(3) のステップ数のままです。

b. 非基準チャネルのステップ数

$$\begin{aligned} \text{ステップ数} &= \text{基準チャネルステップ数} \times \text{非基準チャネルスイープ時間 (変調周期)} \\ &\quad \div \text{基準チャネルスイープ時間 (変調周期)} \end{aligned}$$

(ファンクションがステップのときは、切り上げ、偶数化*2。ファンクションがステップ以外のときは、四捨五入)

*2：切り上げ／切り捨ての結果が奇数ならば、-1。

• ステップ幅の求め方

$$\text{リニアスイープのときのステップ幅} = \frac{\text{スパン値}}{\text{ステップ数}-1}$$

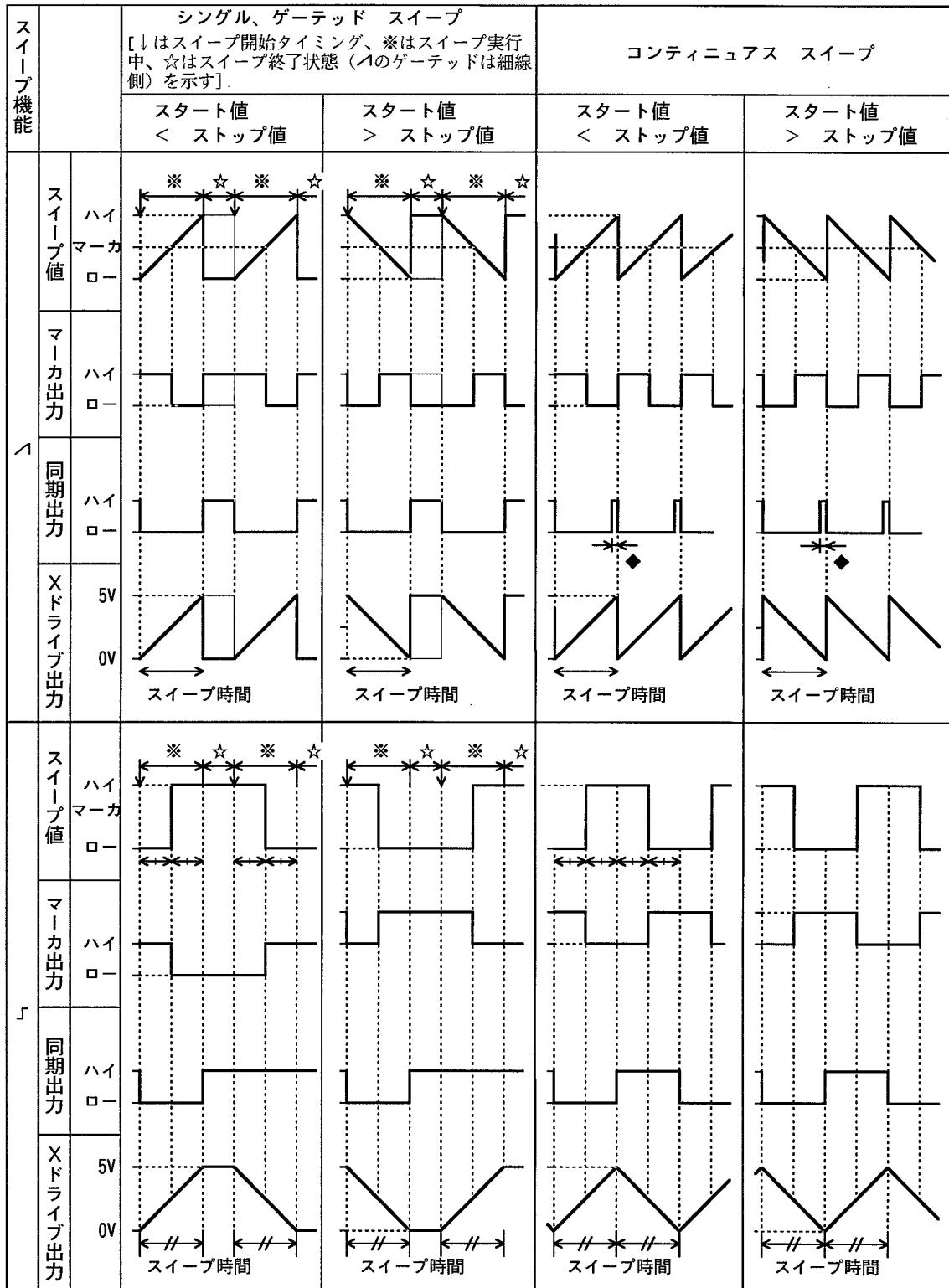
$$\text{ログスイープのときのステップ乗数} = \log_{10}^{-1} \left(\log_{10} \frac{\text{ストップ値}}{\text{スタート値}} \div (\text{ステップ数}-1) \right)$$

ログスイープのときのステップ幅は、スイープの進行に従い変化していきます。

マーカ出力はスイープのステップに同期して出力されます。このとき、マーカ値の設定と実際にマーカ出力が変化する値のずれは、±ステップ幅になります。

■スイープ値とマーカ／同期／X-DRIVE各出力

(SWEEP Z-MARKER OUT / SYNC OUT / SWEEP X-DRIVE OUT)



◆はCH 1、CH 2とも発振モードがスイープまたは変調のときは、約200~250 μs、それ以外は約100~125 μs

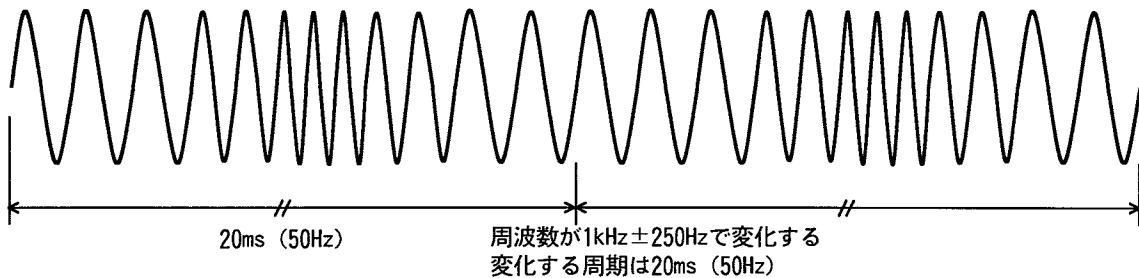
スイープ機能	シングル、ゲーテッド スイープ (↓はスイープ開始タイミング、※はスイープ実行中、☆はスイープ終了状態を示す)				コンティニュアス スイープ	
	スタート値 < ストップ値	スタート値 > ストップ値	スタート値 < ストップ値	スタート値 > ストップ値		
S-IN	スイープ値 ハイ マーカ ロー					
	マーカ出力 ハイ ロー					
	同期出力 ハイ ロー					
	Xドライブ出力 5V 0V					
A	スイープ値 ハイ マーカ ロー					
	マーカ出力 ハイ ロー					
	同期出力 ハイ ロー					
	Xドライブ出力 5V 0V					

4.3 変 調 (MODE、MODU)

■周波数変調 (FM) (→ → TYPE : FM)

ここでは、周波数変調波形を出力する操作について説明します。

なお、波形は正弦波、周波数は1kHz、振幅、DCオフセットは任意に設定されているものとします。



操作例 :

(1) 変調タイプ (TYPE) を周波数変調 (FM) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

FM	AM	OF	SM	PM	PWM
FM : TYPE	DEVIATION	FREQ	FUNCTION		

③ 次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (FMが点滅) にします。

FM	AM	OF	SM	PM	PWM
FM : TYPE	DEVIATION	FREQ	FUNCTION		

④ これで、変調タイプが周波数変調になりました。 キーを1回押し、タイプ選択から抜けます。

(2) 周波数偏移（周波数の変化幅、DEVIATION）を設定します。

① **[<]**、**[>]** キーで下記の状態（DEVIATIONが点滅）にします。

1 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 H z

FM : TYPE DEVIATION FREQ FUNCTION

②次に **[ENTER]** キーを押します。

③テンキーまたは **MODIFY** ダイヤルで周波数偏移を設定します。

ここでは、例として500Hzにします。

④設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、周波数偏移設定から抜けます。

(3) 変調周波数（発振周波数が変化する周波数、FREQ）を設定します。

① **[<]**、**[>]** キーで下記の状態（FREQが点滅）にします。

1 0 0 . 0 0 H z

FM : TYPE DEVIATION FREQ FUNCTION

②次に **[ENTER]** キーを押します。

③テンキーまたは **MODIFY** ダイヤルで変調周波数を設定します。

ここでは、例として50Hz (20ms) にします。

④設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、変調周波数設定から抜けます。

4.3 変 調

(4) 変調波形 (FUNCTION) を選びます。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (FUNCTIONが点滅) にします。

S I N ~ ∟ ↗ ↘
FM : TYPE DEVIATION FREQ **FUNCTION**

② 次に **[ENTER]** キーを押し、**[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (SINが点滅) にします。

S I N ~ ∟ ↗ ↘
FM : TYPE DEVIATION FREQ **FUNCTION**

③ 選び終わりましたら、**[EXIT]** キーを押し、設定から抜けます。

以上で、周波数変調の設定が終了しました。

その他：

- ・ 発振モードを変調 (MODU) に変更すると、その時点の設定で変調が行われます。
変調を中止したいときは、**[STOP]** キーを押してください。また、**[START]** キーを押すと変調が再開します。
- ・ 変調実行中に、他方のチャネルで発振モードを変更すると、変調が中止されます。
- ・ 両チャネル同時に手動または外部制御 (GPIB、USB) で変調の開始／中止操作を行いたいときは、両チャネルとも変調モードとし、OPER-COMMONをONにします。
また、BOTHランプが点灯している場合には、OPER-COMMONがOFFでも同様な動作をします。

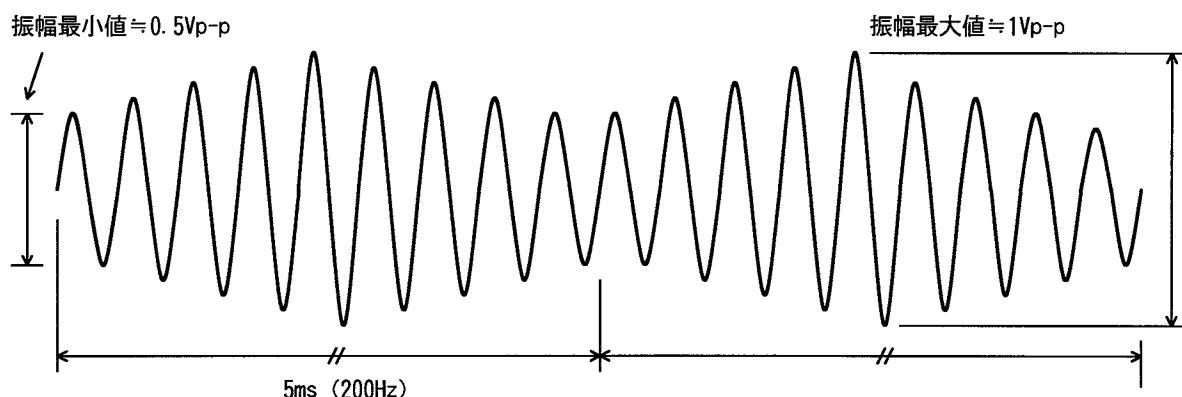
O F F **O N**
FM : **◀** **F U N C T I O N** **O P E R - C O M M O N**

- ・ FM変調時の設定項目のまとめ (MODUメニュー内)
TYPE : FM
DEVIATION (周波数偏移) [Hz]
FREQ (変調周波数) [Hz]
FUNCTION (変調波形) [SIN、~、∟、↗、↖]
OPER-COMMON (両チャネル同時操作) [OFF、ON]

■振幅変調 (AM) ( →  → TYPE : AM)

ここでは、振幅変調波形を出力する操作について説明します。

なお、波形は正弦波、周波数は1800Hz、振幅は1.5Vp-p、DCオフセットは0Vに設定されているものとします。



操作例 :

- (1) 変調タイプ (TYPE) を振幅変調 (AM) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

FM	AM	OF	SM	PM	PWM
FM : TYPE	DEVIATION	FREQ	FUNCTION		

③ 次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (AMが点滅) にします。

FM	AM	OF	SM	PM	PWM
AM : TYPE	DEPTH	FREQ	FUNCTION		

④ これで、変調タイプが振幅変調になりました。 キーを1回押し、タイプ選択から抜けます。

4.3 變調

(2) 麦調度（振幅の変化幅、DEPTH）を設定します。

① ◀、▶ キーで下記の状態（DEPTHが点滅）にします。

50.0 %
AM : TYPE DEPTH FREQ FUNCTION

②次に キーを押します。

③テンキーまたは MODIFY ダイヤルで変調度を設定します。

こでは、例として33%にします。

④設定が済みましたら、 キーを1回押し、変調度設定から抜けます。

(3) 变调周波数（振幅が变化する周波数、FREQ）を设定します。

① ◀、▶ キーで下記の状態 (FREQが点滅) にします。

100.00 Hz
AM: TYPE DEPTH FREQ FUNCTION

②次に キーを押します。

③テンキーまたは MODIFY ダイヤルで変調周波数を設定します。

ここでは、例として200Hz (5ms) にします。

④設定が済みましたら、 キーを1回押し、変調周波数設定から抜けます。

(4) 変調波形 (FUNCTION) を選びます。

① ◀、▶ キーで下記の状態（FUNCTIONが点滅）にします。

S I N ~ L A N
AM: TYPE DEPTH FREQ FUNCTION

②次に **[ENTER]** キーを押し、**[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態（SINが点滅）にします。

S I N	~	𠂔	↗	↖
AM : TYPE DEPTH FREQ FUNCTION				

③選び終わりましたら、**[EXIT]** キーを押し、設定から抜けます。

以上で、振幅変調の設定が終了しました。

その他：

- ・ 発振モードを変調（MODU）に変更すると、その時点の設定で変調が行われます。
変調を中止したいときは、**[STOP]** キーを押してください。また、**[START]** キーを押すと変調が再開します。
- ・ 振幅設定値と振幅最大・最小値の関係は下記の式で表されます。
振幅最大値 = 振幅設定値 $\div 2 \times (1 + (\text{変調度} [\%] \div 100))$
振幅最小値 = 振幅設定値 $\div 2 \times (1 - (\text{変調度} [\%] \div 100))$
- ・ 変調度0%で出力振幅は振幅設定値（AMPTD）の1/2になります。100%では出力振幅最大値が設定値と同じになります。
- ・ 変調実行中に、他方のチャネルで発振モードを変更すると、変調が中止されます。
- ・ 両チャネル同時に手動または外部制御（GPIB、USB）で変調の開始／中止操作を行いたいときは、両チャネルとも変調モードとし、OPER-COMMONをONにします。

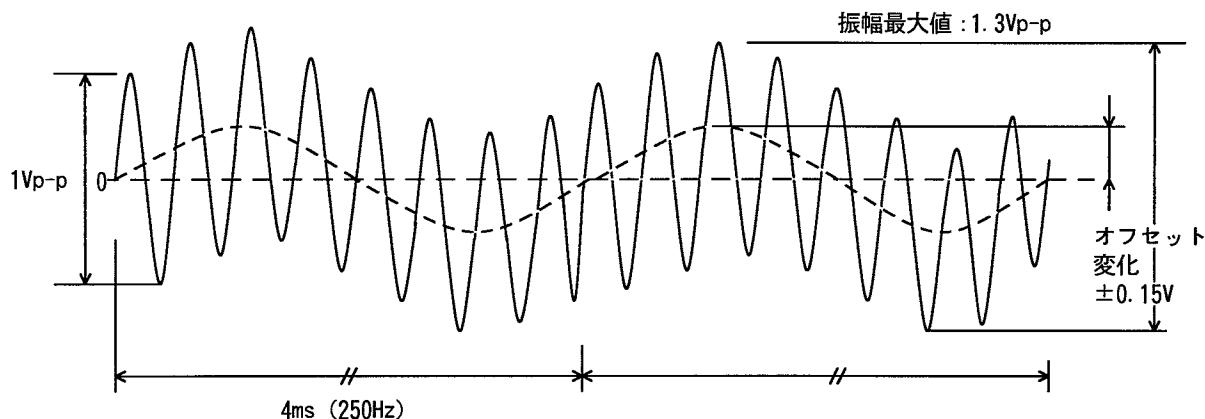
O F F	ON
AM : ◀ FUNCTION OPER-COMMON	

- ・ AM変調時の設定項目のまとめ（MODUメニュー内）
 - TYPE : AM
 - DEPTH (変調度) [%]
 - FREQ (変調周波数) [Hz]
 - FUNCTION (変調波形) [SIN、~、𠂔、↗、↖]
 - OPER-COMMON (両チャネル同時操作) [OFF、ON]

■DCオフセット変調 (OFSM) ( →  → TYPE : OFSM)

ここでは、DCオフセット変調波形を出力する操作について説明します。

なお、波形は正弦波、周波数は2kHz、振幅は1Vp-p、DCオフセットは0Vに設定されているものとします。



操作例 :

(1) 変調タイプ (TYPE) をDCオフセット (OFSM) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

FM	AM	O F S M	PM	PWM
FM: T Y P E	D E V I A T I O N	F R E Q	F U N C T I O N	

③次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (OFSMが点滅) にします。

FM	AM	O F S M	PM	PWM
O F S M: T Y P E	D E V I A T I O N	F R E Q	▶	

④これで、変調タイプがDCオフセット変調になりました。 キーを1回押し、タイプ選択から抜けます。

(2) DCオフセット偏移 (DCオフセットの変化幅、DEVIATION) を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (DEVIATIONが点滅) にします。

+ 0. 2 0 0 0	V
O F S M : T Y P E D E V I A T I O N F R E Q ►	

②次に **[ENTER]** キーを押します。

③テンキーまたは **[MODIFY]** ダイヤルでDCオフセット偏移を設定します。

ここでは、例として0.3Vにします。

④設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、DCオフセット偏移設定から抜けます。

(3) 変調周波数 (DCオフセットが変化する周波数、FREQ) を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (FREQが点滅) にします。

1 0 0. 0 0	H z
O F S M : T Y P E D E V I A T I O N F R E Q ►	

②次に **[ENTER]** キーを押します。

③テンキーまたは **[MODIFY]** ダイヤルで変調周波数を設定します。

ここでは、例として250Hz (4ms) にします。

④設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、変調周波数設定から抜けます。

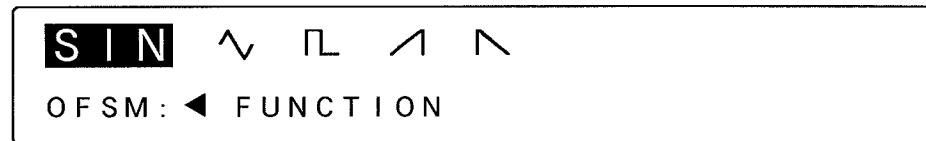
(4) 変調波形 (FUNCTION) を選びます。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (FUNCTIONが点滅) にします。

S I N ~ F L A N	
O F S M : ◀ F U N C T I O N	

4.3 変 調

②次に **ENTER** キーを押し、**◀**、**▶** キーで下記の状態 (SINが点滅) にします。



③選び終わりましたら、**EXIT** キーを押し、設定から抜けます。

以上で、DCオフセット変調の設定が終了しました。

その他：

- 振幅設定値と振幅最大値の関係は下記の式で表されます。

$$\text{振幅最大値} = \text{振幅設定値} + \text{DCオフセット偏移}$$

- 発振モードを変調 (MODU) に変更すると、その時点の設定で変調が行われます。

変調を中止したいときは、**STOP** キーを押してください。また、**START** キーを押すと変調が再開します。

- 変調実行中に、他方のチャネルで発振モードを変更すると、変調が中止されます。

- 両チャネル同時に手動または外部制御 (GPIB、USB) で変調の開始／中止操作を行いたいときは、両チャネルとも変調モードとし、OPER-COMMONをONにします。



- DCオフセット変調時の設定項目のまとめ (MODUメニュー内)

TYPE : OFSM

DEVIATION (DCオフセット偏移) [V]

FREQ (変調周波数) [Hz]

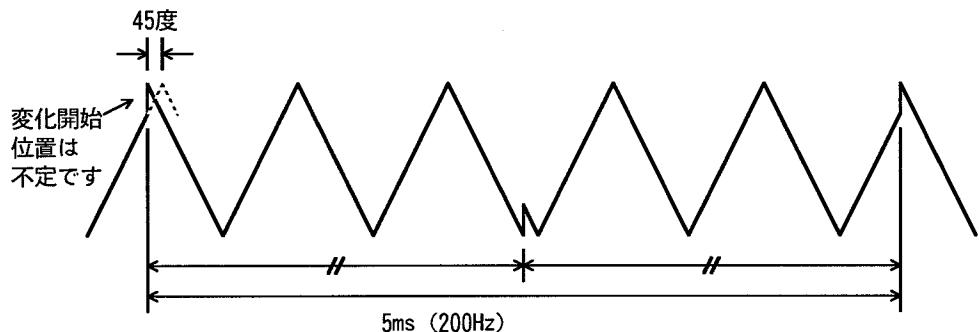
FUNCTION (変調波形) [SIN、~、∟、∠、√]

OPER-COMMON (両チャネル同時操作) [OFF、ON]

■位相変調 (PM) ( →  → TYPE : PM)

ここでは、位相変調波形を出力する操作について説明します。

なお、波形は三角波、周波数は1kHz、DCオフセットは0V、位相、振幅は任意に設定されているものとします。



操作例 :

(1) 変調タイプ (TYPE) を位相変調 (PM) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

FM	AM	OF	SM	PM	PWM
FM : TYPE	DEVIATION	FREQ	FUNCTION		

③ 次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (PMが点滅) にします。

FM	AM	OF	SM	PM	PWM
PM : TYPE	DEVIATION	FREQ	FUNCTION		

④ これで、変調タイプが位相変調になりました。 キーを1回押し、タイプ選択から抜けます。

4.3 変 調

(2) 位相偏移（位相の変化幅、DEVIATION）を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態（DEVIATIONが点滅）にします。

90. 000 deg

PM : TYPE DEVIATION FREQ FUNCTION

② 次に **[ENTER]** キーを押します。

③ テンキーまたは **[MODIFY]** ダイヤルで位相偏移を設定します。

ここでは、例として45度（45deg）にします。

④ 設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、位相偏移設定から抜けます。

(3) 変調周波数（位相が変化する周波数、FREQ）を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態（FREQが点滅）にします。

100. 00 Hz

PM : TYPE DEVIATION FREQ FUNCTION

② 次に **[ENTER]** キーを押します。

③ テンキーまたは **[MODIFY]** ダイヤルで変調周波数を設定します。

ここでは、例として200Hz（5ms）にします。

④ 設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、変調周波数設定から抜けます。

(4) 変調波形 (FUNCTION) を選びます。

① 、 キーで下記の状態 (FUNCTIONが点滅) にします。



② 次に キーを押し、、 キーで下記の状態 (△が点滅) にします。



③ 選び終わりましたら、 キーを押し、設定から抜けます。

以上で、位相変調の設定が終了しました。

その他：

- 発振モードを変調 (MODU) に変更すると、その時点の設定で変調が行われます。

変調を中止したいときは、 キーを押してください。また、 キーを押すと変調が再開します。

- 変調実行中に、他方のチャネルで発振モードを変更すると、変調が中止されます。
- 両チャネル同時に手動または外部制御 (GPIB、USB) で変調の開始／中止操作を行いたいときは、両チャネルとも変調モードとし、OPER-COMMONをONにします。



- 位相変調時の設定項目のまとめ (MODUメニュー内)

TYPE : PM

DEVIATION (位相偏移) [deg]

FREQ (変調周波数) [Hz]

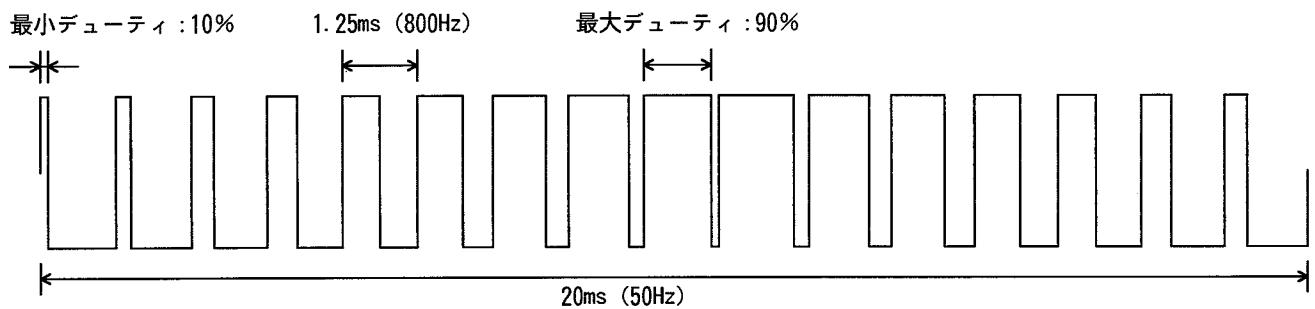
FUNCTION (変調波形) [SIN、~、△、/、＼]

OPER-COMMON (両チャネル同時操作) [OFF、ON]

■ パルス幅変調 (PWM) ( →  → TYPE : PWM)

ここでは、パルス幅変調波形を出力する操作について説明します。

なお、波形は方形波（デューティ可変）、デューティは50%、周波数は800Hz、振幅、DCオフセットは任意に設定されているものとします。



操作例 :

(1) 変調タイプ (TYPE) をパルス幅変調 (PWM) にします。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②  、 キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

FM	AM	OF	SM	PM	PWM
FM : TYPE	DEVIATION	FREQ	FUNCTION		

③ 次に  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (PWMが点滅) にします。

FM	AM	OF	SM	PM	PWM
PWM : TYPE	DEVIATION	FREQ	FUNCTION		

④ これで、変調タイプがパルス幅変調になりました。 キーを1回押し、タイプ選択から抜けます。

なお、変調タイプをパルス幅変調にすると、波形は自動的に方形波（デューティ可変）になり、波形選択 (FUNCTION) が不可能になります。

(2) パルス幅偏移（パルス幅の変化幅、DEVIATION）を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態（DEVIATIONが点滅）にします。

2 0 . 0 0 0 %
PWM : TYPE DEVIATION FREQ FUNCTION

②次に **[ENTRY]** キーを押し、テンキーまたは **[MODIFY]** ダイヤルでパルス幅偏移を設定します。

ここでは、例として80%にします。

③設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、パルス幅偏移設定から抜けます。

(3) 変調周波数（パルス幅が変化する周波数、FREQ）を設定します。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態（FREQが点滅）にします。

1 0 0 . 0 0 H z
PWM : TYPE DEVIATION FREQ FUNCTION

②次に **[ENTER]** キーを押し、テンキーまたは **[MODIFY]** ダイヤルで変調周波数を設定します。

ここでは、例として50Hz (20ms) にします。

③設定が済みましたら、**[EXIT]** キーを1回押し、変調周波数設定から抜けます。

(4) 変調波形（FUNCTION）を選びます。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態（FUNCTIONが点滅）にします。

S I N ~ △ ↗ ↘
PWM : TYPE DEVIATION FREQ FUNCTION

②次に **[ENTER]** キーを押し、**[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態（SINが点滅）にします。

S I N ~ △ ↗ ↘
PWM : TYPE DEVIATION FREQ FUNCTION

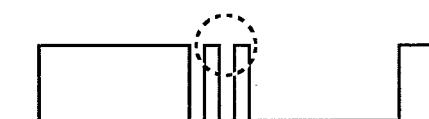
4.3 変 調

③選び終わりましたら、**EXIT** キーを押し、設定から抜けます。

以上で、パルス幅変調の設定が終了しました。

その他：

- ・ 発振モードを変調 (MODU) に変更すると、その時点の設定で変調が行われます。
変調を中止したいときは、**STOP** キーを押してください。また、**START** キーを押すと変調が再開します。
- ・ デューティ設定値と最大・最小デューティの関係は下記の式で表されます。
最大デューティ = デューティ設定値 + (パルス幅偏移 [%] ÷ 2)
最小デューティ = デューティ設定値 - (パルス幅偏移 [%] ÷ 2)
- ・ 変調しているときは、下図のように1周期中に複数のパルスが出力されることがあります。



- ・ 変調実行中に、他方のチャネルで発振モードを変更すると、変調が中止されます。
- ・ 両チャネル同時に手動または外部制御 (GPIB、USB) で変調の開始／中止操作を行いたいときは、両チャネルとも変調モードとし、OPER-COMMONをONにします。
とし、OPER-COMMONをONにします。

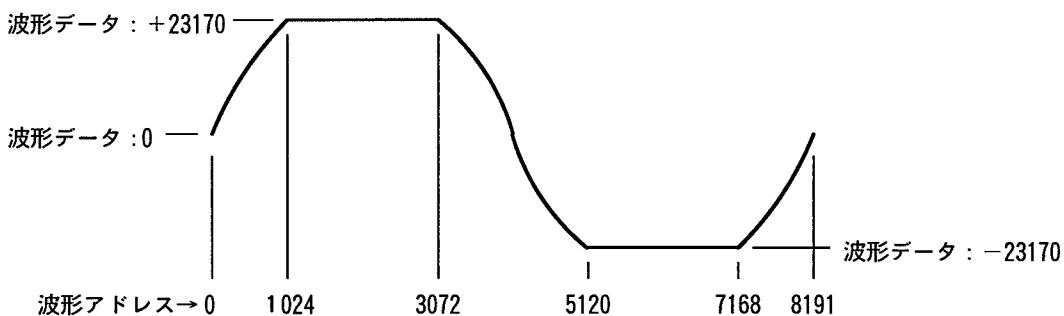
OFF	ON
PWM : ◀	FUNCTION OPER-COMMON

- ・ パルス幅変調時の設定項目のまとめ (MODUメニュー内)
TYPE : PWM
DEVIATION (パルス幅偏移) [%]
FREQ (変調周波数) [Hz]
FUNCTION (変調波形) [SIN、▲、△、△、△]
OPER-COMMON (両チャネル同時操作) [OFF、ON]

4.4 任意波形 (FUNCTION、ARB)

■任意波形 (FUNCTION → ARB)

ここでは、任意波形 (ARB) を使って、正弦波のピークをクリップした波形を出力する操作について説明します。



操作例 :

(1) 波形を任意波形 (ARB) にします。

① FUNCTION キーを押し、次に、ARB キーを押します。

(2) 編集、出力対象の任意波形を選びます (SELECT)。

① ARB EDIT キーを押し、[◀]、[▶] キーで下記の状態 (SELECTが点滅) にします。

```
0 : A R B _ 0 0   1 : A R B _ 0 1 ►  
A R B : S E L E C T   N A M E   E D I T   C O P Y ►
```

② 次に ENTRY キーを押し、[◀]、[▶] キーで下記の状態 (1:ARB_01が点滅) にします。

```
0 : A R B _ 0 0   1 : A R B _ 0 1 ►  
A R B : S E L E C T   N A M E   E D I T   C O P Y ►
```

③ これで、任意波形の選択が終了しました (ここでは1番を選択)。 EXIT キーを1回押し、任意波形選択から抜けます。

4.4 任意波形

(3) 波形をコピー (COPY) します。ここでは、加工する元の波形として正弦波 (SIN) をコピーします。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (COPYが点滅) にします。

```
S I N   ~   ∏   ∕   ∖   ▶
ARB : S E L E C T   N A M E   E D I T   C O P Y   ▶
```

②次に **[ENTER]** キーを押し、**[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (SINが点滅) にします。

```
S I N   ~   ∏   ∕   ∖   ▶
ARB : S E L E C T   N A M E   E D I T   C O P Y   ▶
```

③この状態で **[ENTER]** キーを押すと、正弦波がコピーされます。

(4) 波形を編集 (EDIT) します。ここでは、コピーした正弦波のピークをクリップします。

① **[◀]**、**[▶]** キーで下記の状態 (EDITが点滅) にします。

波形アドレス	波形データ
AD : 0 0 0 0 DT : + 0 0 0 0 0	
ARB : S E L E C T N A M E E D I T C O P Y ▶	

②次に **[ENTER]** キーを押し、**[◀]** キーで下記の状態 (AD側の数字が点滅) にします。

```
AD : 0 0 0 0   DT : + 0 0 0 0 0
ARB : S E L E C T   N A M E   E D I T   C O P Y   ▶
```

③テンキーまたは  ダイヤルで波形アドレス (AD) を設定します。

ここでは、まず1024にします。

④次に、 キーを押し、下記の状態（右端に * が表示される）にします。

AD : 1024 DT : +23170 *

ARB : SELECT NAME EDIT COPY ►

* は補間対象マークといい、後述の直線補間対象アドレスを示します。

 キーを押すたびに * マークが表示されたり、消えたりします。

⑤続けて、上記③、④の手順で、波形アドレス3072に補間対象マーク (*) をつけます。

⑥  キーを押し、直線補間を実行します。これで、正弦波前半の波形クリップができました (↖↖)。

直線補間実行によって、補間対象マーク (*) のついたアドレス間が直線で結ばれるように波形データ (DT) が変更されます。

⑦  キーを押し、 、 キーで下記の状態 (MARK-CLEARが点滅) にします。

1 : ARB_01

ARB : ◀ MARK-CLEAR CLEAR SIZE

 キーを2回押して、アドレス1024と3072の補間対象マークをクリアします。

⑧上記①～⑥と同様に、正弦波後半の波形クリップを行ってください（補間対象マーク (*) は、アドレス5120と7168につける）。

以上で任意波形の設定が終了しました。

4.4 任意波形

その他：

- 任意の波形データを入力するには、 → EDIT選択 → → → で波形データ(DT)側の数字を点滅させ、テンキーまたは ダイヤルでデータを設定してください。

データは上限が+32767、下限が-32768で、この上下限値が振幅設定でのp-p値に相当します。そのため、前記のような方法で波形の上下限値を変更した波形では、振幅設定(Vp-p)と実際の出力波形のVp-p値は一致しません。

データを設定したアドレスは、自動的に直線補間の対象アドレスになります（補間対象マーク(*)が表示される）。

- 波形データをクリア(すべて0)するには、 → CLEAR選択 → とし、もう一度 を押してください。

なお、波形データをクリアすると、補間対象マーク(*)もクリアされます。

- 任意波形に名前を付けるには、 → NAME選択 → とし、 ダイヤルを使って文字選び、、 で位置を移動して、入力してください。

最長8文字まで入力できます。使用できる文字は下記のとおりです。

a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z ▶ (スペース)
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? ∂ [¥] ^ _ ` { | } → ←

- 波形データサイズを変更するには、 → SIZE選択 → → 、 でデータサイズを選んでください。

波形データサイズと波形数の関係

データサイズ	波形番号											波形数	
8K (8192)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
16K (16384)	0	1		2		3		4		5			6
32K (32768)		0			1			2					3

波形データサイズを変更したときの出力波形は下記のように変化します。

例えば、波形データサイズ=16Kで波形番号0に～のような波形があったときに波形データサイズ=8Kにすると、波形番号0に～、波形番号1に～という割り当てになります。

- 任意波形データは、CH1とCH2共通です。

4.5 同期信号(SYNC OUT)の波形切り換え

ここでは、SYNC OUTの波形切り換えについて説明します。

■操作方法

- ① **SYSTEM** キーを押し、**◀**、**▶** キーで下記の状態にします（下段SYNC OUTが点滅）。

STATE : PHASE

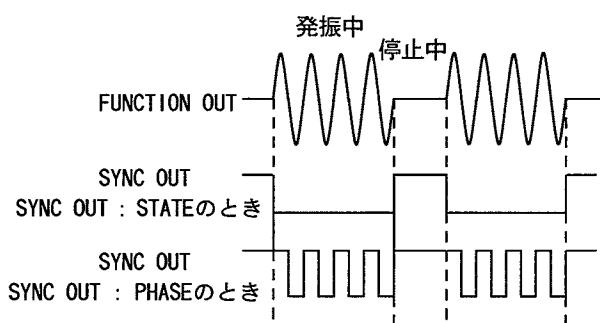
SYSTEM : **◀** DUTY-VALID **SYNCOUP** **▶**

- ② **ENTER** キーを押し、**◀**、**▶** キーでSYNC OUTの波形を設定します。

- ③ 設定が済みましたら、**EXIT** キーを押し、SYNC OUTの波形設定から抜けます。

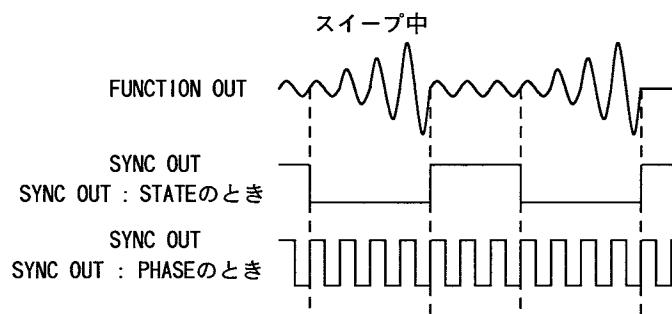
■発振モードがバースト(BURST)のとき

- STATE : 発振中のときは、ローレベル。停止中のときは、ハイレベルになります。
- PHASE : ▴方形波(デューティ可変)では、FUNCTION OUTと同じ波形になります。
▼方形波(デューティ可変)以外では、発振期間のうち波形の0度以上、180度未満のときは、ハイレベル。180度以上、360度未満のときは、ローレベルになります。



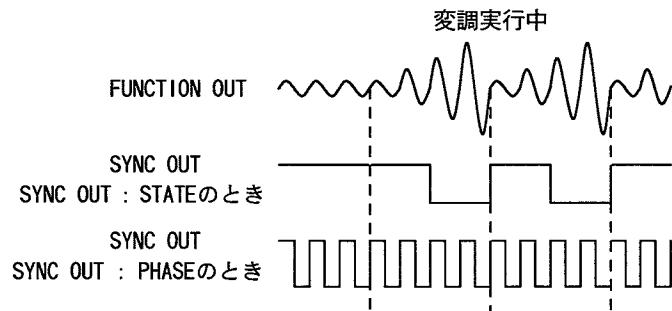
■発振モードがスイープ(SWEEP)のとき

- STATE : スタート値からストップ値に向かってスイープ中や、停止中のときは、ローレベル、それ以外のときは、ハイレベルになります。
- PHASE : ▷方形波(デューティ可変)では、FUNCTION OUTと同じ波形になります。
▷方形波(デューティ可変)以外では、波形の0度以上、180度未満のときは、ハイレベル。180度以上、360度未満のときは、ローレベルになります。



■発振モードが変調(MODU)のとき

- STATE : 変調実行中で、変調波の180度以上、360度未満のときは、ローレベル、それ以外のときはハイレベルになります。
- PHASE : ▷方形波(デューティ可変)では、FUNCTION OUTと同じ波形になります。
▷方形波(デューティ可変)以外では、変調波の0度以上、180度未満のときは、ハイレベル。180度以上、360度未満のときは、ローレベルになります。

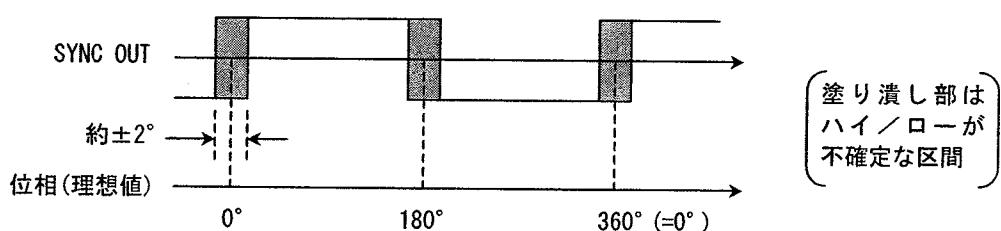


その他：

- ・ \sim と 几 (デューティ固定) で周波数が 100kHz 超のとき、SYNC OUT を PHASE にすると、正弦波のアナログ信号をコンパレータに通した信号が出力されます。このため、 0° 、 180° 、 360° 付近(約±2°)では出力レベルがハイになるかローになるか定まらない区間があります。

特に、発振モードがバーストやゲーテッドスープで発振停止に移行するときには出力レベルが不確定になったりグリッジ状の波形が発生することがありますのでご注意ください。

停止中のレベルを明確にしたい場合は位相 (PHASE) をずらしてください。たとえば、位相 (PHASE) を $+90^\circ$ とすると停止中のレベルがハイレベルになります。



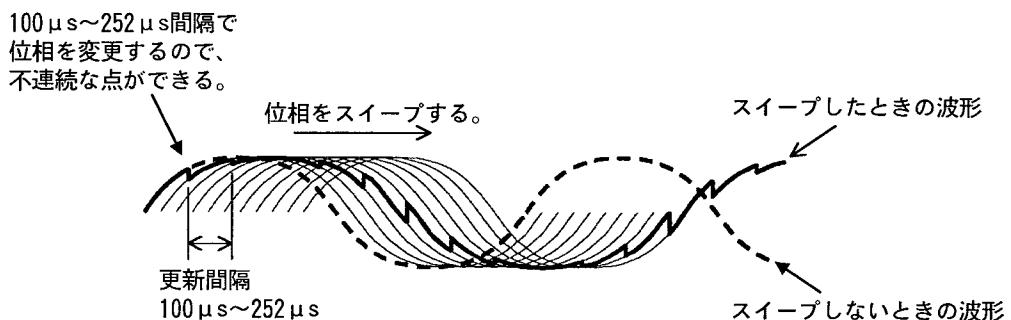
4.6 スイープおよび変調時の出力波形

スイープや変調では、 $100\mu\text{s} \sim 252\mu\text{s}$ ごとに設定値が更新されます。このため、スイープ時間が短いときや変調周波数が高いときは、更新時の変化量が大きくなり、不連続点が目立つことがあります。

また、スイープファンクション（変調波）が△または▽や△では、ステップ状に変化する部分で不連続点が目立ちます。

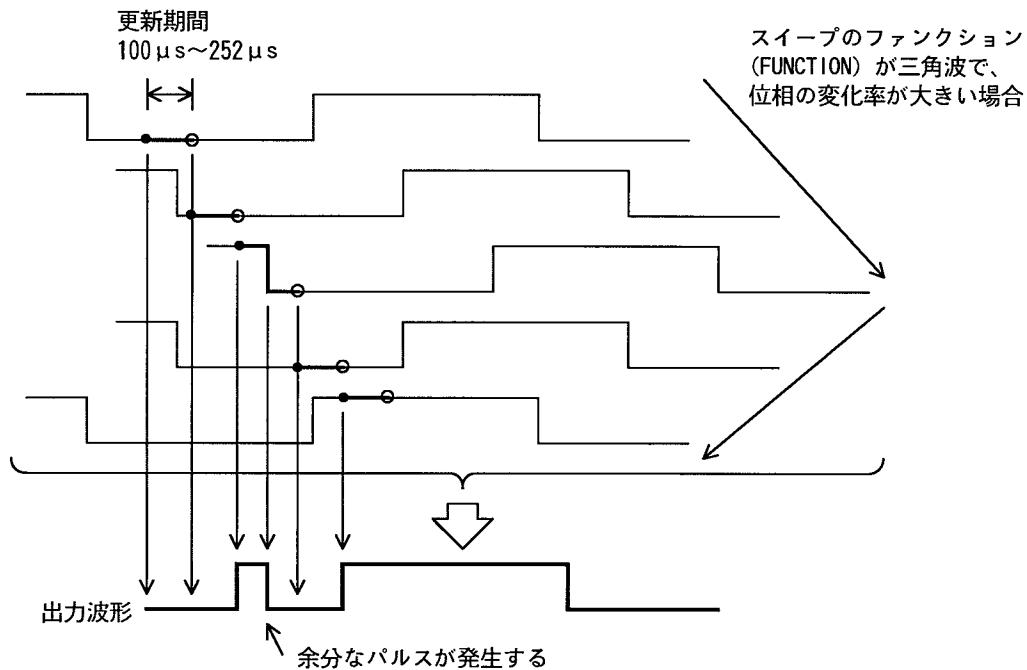
ステップ状に変化する部分では設定値が大きく変化するので不連続点が発生しますが、その部分を除くと下記のようになります。

極端な例としては、位相スイープで、発振周波数1kHz、スイープ時間を4ms、スタート位相を180度、ストップ位相を-180度、スイープファンクションを△にすると、 $100\mu\text{s}$ ごとに位相が約26度変化するので、出力波形は下図のようになります。不連続点は、△だけでなく、▽、△、△でも生じます。



△方形波(デューティ固定)と、□方形波(デューティ可変)は、その他の波形と生成方法が異なるために、余分なパルスが発生します。

位相変調やデューティスイープ、PWMでも同様に余分なパルスが発生します。



スイープファンクションが△、□、△での発生頻度は、およそ下式のようになります。

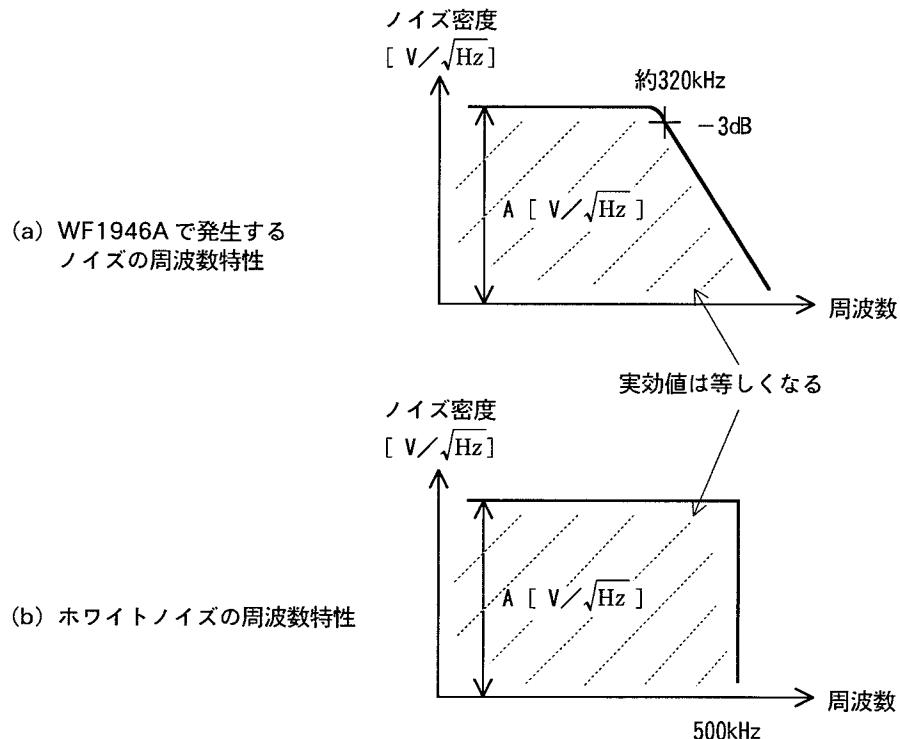
$$\text{発生頻度 [%]} = \frac{\text{位相のスパン [deg]}}{360 \times \text{発振周波数 [Hz]} \times \text{スイープ時間 [s]}} \times 100$$

たとえば、周波数1kHz、位相のスパン90deg、スイープ時間100msでは、平均して400周期に1回程度、余分なパルスが発生します。

4.7 等価雑音帯域幅

WF1946Aで発生するノイズ密度は下図「(a) WF1946Aで発生するノイズの周波数特性」のようになっています。

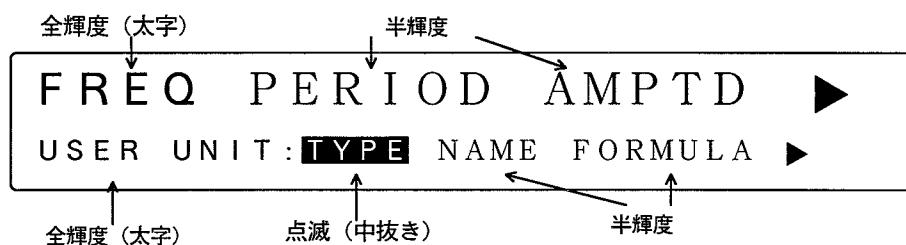
これは、下図「(b) ホワイトノイズの周波数特性」のホワイトノイズと実効値が等しくなります。この等価な帯域幅(500kHz)を等価雑音帯域幅と呼びます。



5. その他の操作

5.1	便利な設定	5 - 2
■	周波数 [Hz] を周期 [s] で設定	5 - 2
■	方形波のデューティ設定	5 - 3
■	方形波のパルス幅設定	5 - 4
■	振幅、DCオフセットをハイレベル、ローレベルで設定	5 - 5
5.2	単位	5 - 7
■	工学単位 (μ 、m、k、M) の表示	5 - 7
■	振幅単位の変更	5 - 8
■	ユーザ単位の設定	5 - 9
5.3	設定メモリ (MEMORY)	5 - 13
■	設定の保存	5 - 13
■	設定の呼び出し	5 - 14
■	設定メモリのクリア	5 - 15
5.4	外部入力	5 - 16
■	外部加算 (EXT-ADD)	5 - 16
■	外部AM (EXT-AM)	5 - 17
5.5	その他	5 - 18
■	出力レンジの変更 (レンジ固定で使用)	5 - 18
■	電源投入時の出力オン／オフ設定	5 - 19
■	LOAD機能 (設定値と出力値を一致させる)	5 - 20
■	UNDO (アンドゥ) 機能	5 - 21
■	パルスジェネレータ機能	5 - 22
■	位相同期	5 - 24
■	チャネル間で設定をコピー	5 - 25
■	周波数差一定 (2TONE)	5 - 26
■	周波数比一定 (RATIO)	5 - 27

- この章で使用している表示器の表示凡例



5.1 便利な設定

■周波数[Hz]を周期[s]で設定 ( → )

ここでは、波形を繰り返す早さを、周波数[Hz]ではなく、周期[s]で設定をする操作について説明します。

操作方法：

①  キーを押し、次に  キーを押します（下記のような表示になります）。

P 0. 001000000000 s
A 0. 1000V p-p 0+0. 0000V /OPEN

② テンキーまたは  ダイヤルで周期を設定してください。

その他：

周期の設定は、その逆数の $0.01\mu\text{Hz}$ 未満を切り捨てた周波数に設定されます。そのため、周波数設定の桁数が少なくなる周期（周期が長いとき）では設定誤差が大きくなります。

また、このようなときはテンキーまたは  ダイヤルで設定を変更しても、実際の発振周期が変化しないことがあります。

■方形波のデューティ設定 (→

ここでは、方形波のデューティ(DUTY)を設定する操作について説明します。デューティは、波形全体に対するパルス幅(←→の矢印部分)の割合(%)について設定します。なお、波形は方形波(L:デューティ可変)が選ばれているものとします。

操作方法 :

- ①  キーを押し、次に  キーを押します(下記のような表示になります)。

D T Y	5 0 . 0 0 0 0 %
1 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 H z A 0 . 1 0 0 0 V p-p / O P E N	

- ② テンキーまたは  ダイヤルでデューティ(DUTY)を設定してください。

その他 :

- 周波数、周期、パルス幅、デューティのどれかを変更したときに、他の設定が変化するか、否かを下表に示します。

変更 ↓	周波数 (FREQ)	周期 (PERIOD)	パルス幅 (WIDTH)	デューティ (DUTY)
周波数 (FREQ)		変化	変化	不变
周期 (PERIOD)	変化		不变	変化
パルス幅 (WIDTH)	不变	不变		変化
デューティ (DUTY)	不变	不变	変化	

- 発振周期とデューティの関係によって、実際のパルス幅が25ns以下になると、パルスが消失することがあります。このような設定を行うと、エラーメッセージが表示されます。また、パルス幅が100ns以下ではパルス幅に対してジッタが大きくなります。このような設定を行うと、ワーニングメッセージが表示されます。
- 実際の波形のデューティ分解能は、約(発振周波数÷40MHz(最小で0.00001%))になります。
なお、ストップレベルをオンにすると、実際の波形のデューティ最小分解能が約0.003%になります。
- その他の注意事項について「3.3 基本操作」の「■波形選択」を参照してください。

5.1 便利な設定

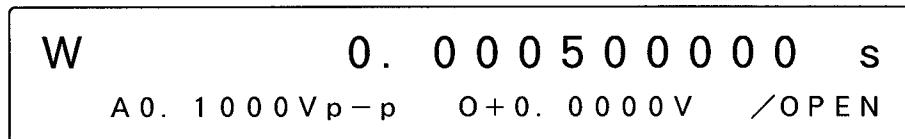
■方形波のパルス幅設定 (→)

ここでは、方形波のパルス幅 (WIDTH) を設定する操作について説明します。パルス幅は  (矢印部分) について設定します。

なお、波形は方形波 ( : デューティ可変) が選ばれているものとします。

操作方法 :

①  キーを押し、次に、 キーを押します (下記のような表示になります)。



W 0. 0 0 0 5 0 0 0 0 0 s
A 0. 1 0 0 0 Vp-p 0 + 0. 0 0 0 0 V /OPEN

② テンキーまたは  ダイヤルでパルス幅 (WIDTH) を設定してください。

その他 :

- 周波数、周期、パルス幅、デューティのどれかを変更したときに、他の設定が変化するか、しないかを下表に示します。

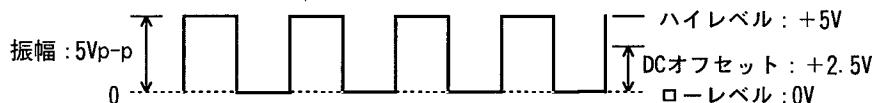
変更 ↓	周波数 (FREQ)	周期 (PERIOD)	パルス幅 (WIDTH)	デューティ (DUTY)
周波数 (FREQ)		変化	変化	不变
周期 (PERIOD)	変化		不变	変化
パルス幅 (WIDTH)	不变	不变		変化
デューティ (DUTY)	不变	不变	変化	

- 発振周期とデューティの関係によって、実際のパルス幅が25ns以下になると、パルスが消失することがあります。このような設定を行うと、エラーメッセージが表示されます。
- また、パルス幅が100ns以下ではパルス幅に対してジッタが大きくなります。このような設定を行うと、ワーニングメッセージが表示されます。

■振幅、DCオフセットをハイレベル、ローレベルで設定 (→ /)

ここでは、波形の縦軸の大きさを、振幅、DCオフセットの代わりに、ハイレベル、ローレベルで設定する操作について説明します。

なお、波形は方形波が選ばれているものとします。



操作例 :

- ① キーを押し、次に キーを押します（下記のような表示になります）。

HIGH	+ 0. 0500 V
1000. 0000000 Hz	L -0. 0500 V / OPEN

- ② テンキーまたは ダイヤルではハイレベル (HIGH) を設定します。

ここでは +5V にします。

- ③ 続いて、 キーを押し、 キーを押します（下記のような表示になります）。

LOW	- 0. 0500 V
1000. 0000000 Hz	H +5. 0000 V / OPEN

- ④ テンキーまたは ダイヤルではローレベル (LOW) を設定します。

ここでは 0V にします。

5.1 便利な設定

その他：

- ・ 振幅、DCオフセット、ハイレベル、ローレベルのどれかを変更したときに、他の設定が変化するか、しないかを下表に示します。

変更 ↓	振幅 (AMPTD)	DCオフセット (OFFSET)	ハイレベル (HIGH)	ローレベル (LOW)
振幅 (AMPTD)		不变	変化	変化
DCオフセット (OFFSET)	不变		変化	変化
ハイレベル (HIGH)	変化	変化		不变
ローレベル (LOW)	変化	変化	不变	

- ・ ハイレベル、ローレベルの設定、または振幅とDCオフセット設定値の関係、更に外部加算および外部AMの設定によって、出力電圧が下記の値を超えるときは、OVERランプが点滅し、出力がクリップすることがあります。

10Vレンジ：約11Vpeak／開放時

1Vレンジ：約1.1Vpeak／開放時

5.2 单位

■工学単位（ μ 、m、k、M）の表示

ここでは、工学単位（例えば、1kHzのk）を表示する操作について説明します。

例として、周波数の工学単位を変更します。

操作例：

① **ENTRY** キーを押し、**FREQ** キーを押します。

1 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 0 H z
A 0. 1 0 0 0 V p-p 0 + 0. 0 0 0 0 V /OPEN

②次に **k** キーを押すと、下記のように表示が変更されます。

1. 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 k H z
A 0. 1 0 0 0 V p-p 0 + 0. 0 0 0 0 V /OPEN

その他：

- 工学単位を変更できるのは、**(μ)**、**(m)**、**(k)**、**(M)** キーのどれかが点灯しているときだけです。
- 単位を初期値に戻す（kHz→Hzなど）には、上記②の状態で **ENTER** キーを押してください。

■振幅単位の変更

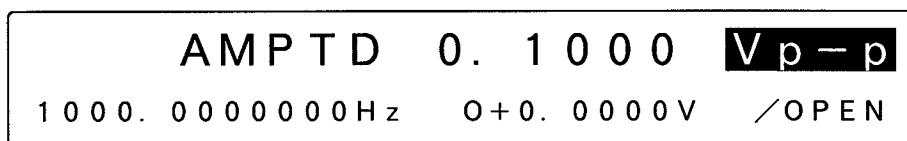
ここでは、振幅(AMPTD)の単位を変更する操作について説明します。

例として、Vrmsにします。

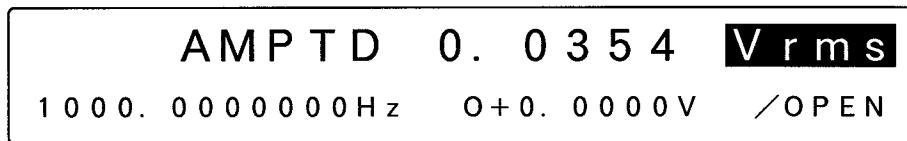
操作例：

① ENTRY キーを押し、AMPTD キーを押します。

② ▶ キーを押して、下記の状態(Vp-pが点滅)にします。



③ MODIFY ダイヤルを回して、下記の状態にします。



その他：

- 使用できる単位は下記のとおりです。

Vp-p、Vrms、dBV、dBm^{注1}、USER^{注2}

注1：LOAD機能がSETのとき選択可能

注2：ユーザ単位で設定した単位名を表示

注：発振モードがNOISEのときは、Vp-pとUSERだけ選択可能。

波形選択がARBのときは、Vp-pとUSERだけ選択可能。

- 振幅単位を変更しても、実際の出力電圧は変化しません。

■ユーザ単位の設定 (SYSTEM : USER-UNIT)

ここでは、ユーザ単位を使って、単位の変換を行う操作について説明します。

例として、周波数をrpm（1分間あたりの回転数、例えばエンジンの回転数）として扱うための設定をします。

操作例：

(1) 設定対象 (TYPE) を選びます。ここでは周波数 (FREQ) を選びます。

① SYSTEM キーを押し、**(◀)**、**(▶)** キーで下記の状態 (USER-UNITが点滅) にします。

USER UNIT MENU		
SYSTEM	RANGE	PRESET USER-UNIT ▶

②次に **ENTER** キーを押し、**(◀)**、**(▶)** キーで下記の状態 (TYPEが点滅) にします。

FREQ PERIOD AMP TD ▶
USER UNIT : TYPE NAME FORMULA ▶

③続いて **ENTER** キーを押し、**(◀)**、**(▶)** キーで下記の状態 (FREQが点滅) にします。

FREQ PERIOD AMP TD ▶
USER UNIT : TYPE NAME FORMULA ▶

④これで設定対象が周波数になりました。**EXIT** キーを1回押し、設定対象選択から抜けます。

5.2 単位

(2) 単位名 (NAME) を設定します。ここではrpmにします。

① \leftarrow 、 \rightarrow キーで下記の状態 (NAMEが点滅) にします。

USER

USER UNIT : TYPE NAME FORMULA ►

②次に $\boxed{\text{ENTER}}$ キーを押し、 \odot ダイヤルと \leftarrow 、 \rightarrow を使って、単位名を入力します (ここではrpm)。単位名は最長4文字まで入力できます。使用できる文字は下記のとおりです。

a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z ▼ (スペース)
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? ∂ [¥] ^ _ ` { | } → ←

③入力が済みましたら、 $\boxed{\text{EXIT}}$ キーを1回押し、単位名設定から抜けます。

(3) 計算式 (FORMULA) を選びます。ここでは $(h+n)*m$ を選びます。なお、hは設定対象 (例では周波数)、nはオフセット、mは係数を示します。

① \leftarrow 、 \rightarrow キーで下記の状態 (FORMULAが点滅) にします。

$(h + n) * m$ (L o g (h) + n) * m

USER UNIT : TYPE NAME FORMULA ►

②次に $\boxed{\text{ENTER}}$ キーを押し、 \leftarrow 、 \rightarrow で下記の状態 ($(h+n)*m$ が点滅) にします。

$(h + n) * m$ (L o g (h) + n) * m

USER UNIT : TYPE NAME FORMULA ►

③これで計算式が $(h+n)*m$ になりました。 $\boxed{\text{EXIT}}$ キーを1回押し、計算式選択から抜けます。

(4) 係数 (SCALE(m)) を設定します。ここでは60にします。

① 、 キーで下記の状態 (SCALE(m)が点滅) にします。

+ 1. 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 E + 0

USER UNIT : SCALE (m) OFFSET (n)

②次に キーを押し、テンキーまたは ダイヤルで係数を設定します。

③設定が済みましたら、 キーを押し、設定から抜けます。

(5) オフセット (OFFSET(n)) を設定します。ここでは0にします。

① 、 キーで下記の状態 (OFFSET(n)が点滅) にします。

+ 0. 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 E + 0

USER UNIT : SCALE (m) OFFSET (n)

②次に キーを押し、テンキーまたは ダイヤルでオフセットを設定します。

③設定が済みましたら、 キーを押し、設定から抜けます。

(6) 以上の設定を表示に反映させます。

①  キーを押し、 キーを押します。

②  キーを押して、下記の状態 (Hzが点滅) にします。

1 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 Hz

A 0. 1 0 0 0 V p-p 0 + 0. 0 0 0 0 V /OPEN

③  ダイヤルを回して、下記の状態にします。

6 0 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 rpm

A 0. 1 0 0 0 V p-p 0 + 0. 0 0 0 0 V /OPEN

その他：

- ユーザ単位が使用できるのは、周波数、周期、振幅、DCオフセット、位相、デューティです。また、CH1とCH2それぞれ独立して設定できます。
ただし、チャネルモードを差動 (DIFF) に設定すると、ユーザ単位の設定（計算式、名前、係数、オフセット）もすべてCH1の設定がCH2にコピーされます。
☞ 「3.3 基本操作」の「■チャネルモードと各種設定」、参照。
- ユーザ単位の設定を行っても、実際の出力は変化しません。
- ユーザ単位を使用しているときは、係数、オフセットの設定によって、設定分解能が粗くなることがあります。
- DCオフセットと位相のユーザ単位をLOG選択で使用する場合は、下記の注意が必要です。
ユーザ単位に変更する前に負の値に設定しておいて、ユーザ単位に切り換えると、ユーザ設定値を表示するために負の値の対数を計算しようとします。
負の値の対数は、実数にならないので“OVER”表示となります。
その後、ユーザ設定値は任意に変更できますが、ユーザ単位のままでは、DCオフセットや位相の設定対象を負の値とすることはできません。

5.3 設定メモリ (MEMORY)

■設定の保存 (: STORE)

ここでは、周波数、振幅などの各種設定をメモリに保存する操作について説明します。

操作例 :

①  キーを押し、、 キーで下記の状態 (STOREが点滅) にします。



② 次に  キーを押し、、 キーで下記の状態 (0が点滅) にします。



③  キーを押します。続いて、メモリに任意の名前をつけます (つけなくても良いです)。 ダイヤルで文字を選び、、 で位置を移動して入力してください。

最長20文字まで入力できます。使用できる文字は下記のとおりです。

a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z ▼ (スペース)
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? ð [¥] ^ _ ` { | } → ←

④  キーを押すと、保存が実行されます (ここではメモリ0番に保存)。

以上で設定の保存が終了しました。 キーを押し、保存から抜けます。

その他 :

上記②で、テンキーを押すと、名前の入力が省略され、押した番号のメモリに保存が行われます。

5.3 設定メモリ

■設定の呼び出し (MEMORY : RECALL)

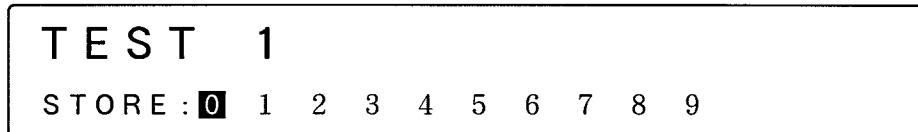
ここでは、メモリに保存した各種設定を呼び出す操作について説明します。

操作例：

① MEMORY キーを押し、**◀**、**▶** キーで下記の状態 (RECALLが点滅) にします。



②次に ENTER キーを押し、**◀**、**▶** キーで下記の状態 (0が点滅) にします。ここでは、保存のときにTEST 1という名前を付けたメモリを呼び出します。



③ ENTER キーを押すと、呼び出しが行われます。

その他：

- ・ 上記②で、テンキーを押すと、押した番号のメモリが呼び出されます。なお、テンキーは保存されている数字だけが点灯します。
- ・ 設定メモリに記憶されている項目は、「3.3 基本操作」の「■設定初期化」に記載されている項目とユーザ単位設定です。なお、下記の項目は呼び出し前後で変化しません。
 - ・ チャネル選択
 - ・ 出力オン／オフ
 - ・ 電源投入時の出力オン／オフ状態
 - ・ 任意波形関連
 - ・ 外部制御の種類
 - ・ GPIBアドレス、デリミタ
 - ・ USB ID

■設定メモリのクリア (MEMORY : CLEAR)

ここでは、設定メモリをクリアする操作について説明します。この操作によってメモリにつけた名前もクリアされます。

操作例：

- ① MEMORY キーを押し、 \leftarrow 、 \rightarrow キーで下記の状態 (CLEARが点滅) にします。

CLEAR MENU
MEMORY : STORE RECALL CLEAR

- ②次に ENTER キーを押し、 \leftarrow 、 \rightarrow キーで下記の状態 (0が点滅) にします。ここでは、保存のときにTEST 1という名前を付けたメモリをクリアします。

TEST 1
CLEAR : 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

- ③ ENTER キーを押すと、クリアが行われます。

その他：

上記②で、テンキーを押すと、押した番号のメモリがクリアされます。なお、テンキーは保存されている数字だけが点灯します。

5.4 外部入力

■外部加算 (EXT-ADD) (: EXT-ADD)

ここでは、WF1946A の波形出力に外部信号を加算する操作について説明します。外部信号は、背面パネルのEXT ADD IN端子から加算します。

☞ 端子について → 「3.2 入出力端子」の「■外部加算入力 (EXT ADD IN)」、参照。

操作方法 :

①  キーを押し、、 キーで下記の状態 (EXT-ADDが点滅) にします。

OFF	ON
SYSTEM : ◀ EXT-AM EXT-ADD ϕ SYNC ▶	

② 次に  キーを押し、、 キーで下記の状態 (ONが点滅) にします。

OFF	ON
SYSTEM : ◀ EXT-AM EXT-ADD ϕ SYNC ▶	

■外部AM (EXT-AM) ( : EXT-AM)

ここでは、WF1946Aの波形出力を外部信号で振幅変調(AM)する操作について説明します。外部信号は、背面パネルのEXT AM IN端子から加えます。

□ 端子について → 「3.2 入出力端子」の「■外部AM入力 (EXT AM IN)」、参照。

操作方法 :

①  キーを押し、、 キーで下記の状態 (EXT-AMが点滅) にします。

OFF ON

SYSTEM :  **EXT-AM** EXT-ADD ϕ SYNC 

②次に  キーを押し、、 キーで下記の状態 (ONが点滅) にします。

OFF ON

SYSTEM :  **EXT-AM** EXT-ADD ϕ SYNC 

その他 :

外部AMをONにしたときは、下記のように先頭にAMが表示されます。

1 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 Hz

AM A0. 1000Vp-p O+0. 0000V /OPEN

5.5 その他

■出力レンジの変更（レンジ固定で使用）（ : RANGE）

ここでは、電圧の出力範囲を決める出力レンジを、10Vレンジ固定にする操作について説明します。

通常はAUTO（レンジ自動切り換え）で使用しますが、レンジ固定にすると、レンジ自動切り換えによる出力の断続などを避けることができます。

10Vレンジ固定にすることのデメリットは、2Vp-p（開放時）以下の電圧を出力するときに、設定分解能が1Vレンジのときに比べて、一桁少なくなることです。

操作例：

①  キーを押し、、 キーで下記の状態（RANGEが点滅）にします。

```
AUTO 10V 1V
SYSTEM: RANGE PRESET USER-UNIT ►
```

②次に  キーを押し、、 キーで下記の状態（10Vが点滅）にします。

```
AUTO 10V 1V
SYSTEM: RANGE PRESET USER-UNIT ►
```

その他：

振幅設定が2Vp-p（開放時）よりも大きいときに、出力レンジを1Vレンジにすると、設定値が自動的に1/10になります（1Vレンジでは2Vp-p（開放時）を超える電圧を出力できなかったため）。

■電源投入時の出力オン／オフ設定 (SYSTEM : POWER-ON)

ここでは、電源投入時の出力の状態を、前回電源を切る直前の状態に復帰 (LAST-STATE)、必ずオフ、必ずオンから選ぶ操作について説明します。

例として電源投入時の出力を必ずオフにする設定を示します。

操作例：

① SYSTEM キーを押し、、 キーで下記の状態 (POWER-ONが点滅) にします。

```
LAST-STATE OFF ON
SYSTEM:◀ POWER-ON REMOTE OPTION
```

②次に ENTER キーを押し、、 キーで下記の状態 (OFFが点滅) にします。

```
LAST-STATE OFF ON
SYSTEM:◀ POWER-ON REMOTE OPTION
```

5.5 その他

■LOAD機能（設定値と出力値を一致させる）（ : LOAD）

ここでは、振幅（AMPTD）、DCオフセット（OFFSET）の設定値と、実際の出力値（FUNCTION OUT端子電圧）を一致させる操作について説明します。

例として、負荷インピーダンスが100Ωのときの設定をします。

操作例：

①  キーを押し、、 キーで下記の状態（LOADが点滅）にします。

O P E N
S Y S T E M : ◀ L O A D C O P Y 1 → 2 C O P Y 2 → 1 ▶

②次に  キーを押し、 ダイヤルで下記の状態（SETが点滅）にします。

S E T 5 0 Ω
S Y S T E M : ◀ L O A D C O P Y 1 → 2 C O P Y 2 → 1 ▶

③ 続いて、 キーを押し、テンキーまたは  ダイヤルで負荷インピーダンスを100Ωに設定してください。

以上の設定によって、WF1946Aの出力インピーダンス（50Ω）と負荷インピーダンスから、実際のFUNCTION OUT端子電圧が計算され、自動的に表示値が変更されます。

その他：

- ・ 負荷インピーダンスの設定範囲は、45～999Ωで、分解能は1Ωです。
- ・ WF1946Aの出力インピーダンス誤差、出力電圧誤差は換算されません。

■UNDO（アンドゥ）機能

ここでは、数値の設定などを変更前の状態に戻す、UNDO（アンドゥ）機能について説明します。

操作方法：

- ①  キーを押すと、変更前の状態に設定が戻ります（UNDO消灯時は無効です）。

その他：

アンドゥが可能なのは、下記の時点です。

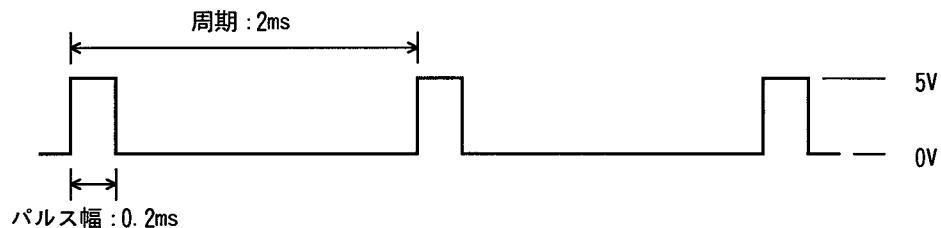
- 周波数や振幅などをテンキーまたはモディファイダイヤルで変更した直後。
- 設定の呼び出し（ →RECALL）直後。
ここでアンドゥを行うと、呼び出し前の状態に戻ります。

■パルスジェネレータ機能

ここでは、WF1946Aをパルスジェネレータとして使う操作について説明します。

操作例：

(1) 連続してパルスを出力



①波形を方形波（デューティ可変）にします（**FUNCTION** → ）。

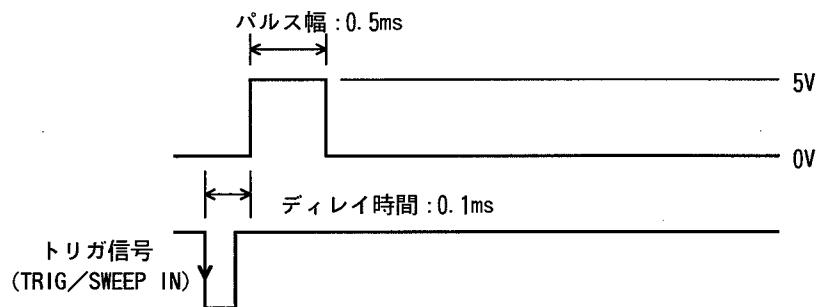
②電圧のハイレベルを+5V、ローレベルを0Vにします。

（**ENTRY** → → **5** → **ENTER**）、**ENTRY** → → **0** → **ENTER**）

③周期を2msにします（**ENTRY** → → **2** → **m**）。

④パルス幅を0.2msにします（**ENTRY** → → **.** → **2** → **m**）。

(2) 外部トリガによって、パルスを出力



①波形を方形波（デューティ可変）にします（FUNCTION → ）。

②電圧のハイレベルを+5V、ローレベルを0Vにします。

（ → → → 、 → → → ）

③パルス幅を0.5msにします（ → → → → ）。

④発振モードを設定します。

（ → → TYPE=TRIG、SOURCE=EXT 选定、DELAY=0.1ms、MARK=1.0cycle、STOP-LEVEL =ON-100%）

⑤TRIG/SWEEP IN端子にトリガ信号を加えます。

その他：

- ダブルパルスを出力するには、上記④でMARK=2.0cycleにしてください。

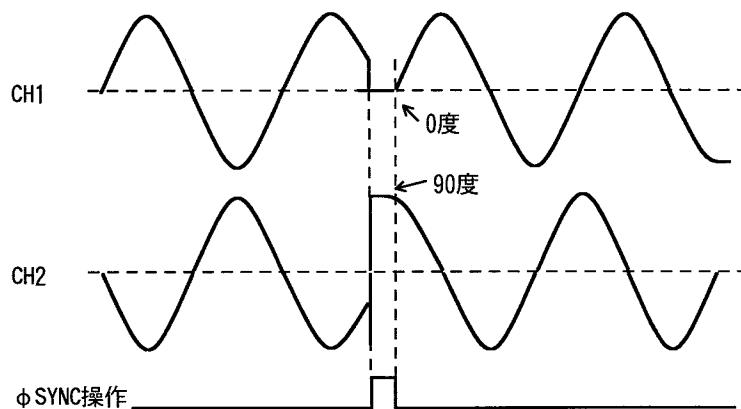
- 手動でトリガ信号を発生させたいときは、上記④でSOURCE=EXT 选定にし、キーを押してください（TRIG/SWEEP IN端子には何も接続しないでください）。

■位相同期 (SYSTEM: ϕ SYNC)

ここでは、CH1、CH2の出力波形を、設定されている位相から再スタートさせて、位相関係を明確にする操作について説明します。

チャネルモードがINDEPのときや、 ϕ -SYNC IN、OUT（1991同期運転オプション）を用いて、複数台の同期運転を行っているときに使用します。

チャネルモードを変更したときは、自動的に位相同期の処理が行われます。



チャネルモードがINDEPのときの位相同期操作とCH1、CH2の波形出力（CH1の位相=0度、CH2の位相=90度のとき）

操作方法：

① SYSTEMキーを押し、 \leftarrow 、 \rightarrow キーで下記の状態（ ϕ SYNCが点滅）にします。

ϕ SYNC

SYSTEM: \blacktriangleleft EXT-AM EXT-ADD ϕ SYNC \triangleright

② ENTERキーを押すと、位相同期が実行されます。

その他：

- ϕ SYNCは発振モードがNORMALのとき有効です。それ以外のときは、位相が設定値に対して180度ずれたり、マーク波数／スペース波数が設定値と異なったりします。
- 同期運転を行っている機器（チャネル）の出力間の位相は、それぞれの機器（チャネル）に設定されている位相設定（PHASE）の差になります。

■ チャネル間で設定をコピー (SYSTEM : COPY 1→2/COPY 2→1)

ここでは、CH1の設定をCH2に（またはCH2の設定をCH1に）コピーする操作について説明します。

操作例：

① SYSTEM キーを押し、◀、▶ キーで下記の状態にします (COPY1→2が点滅)。

C O P Y C H 1 → C H 2
S Y S T E M : ◀ L O A D C O P Y 1 → 2 C O P Y 2 → 1 ▶

② ENTER キーを押すと、上段の表示 (COPY CH1 → CH2) が点滅します。この状態でもう一度

ENTER キーを押すと、コピーが実行されます。

以上で設定のコピーが終了しました。

CH2の設定をCH1にコピーするときは、上記①でCOPY2→1を点滅させてください。

その他：

下記の項目は、コピー前後で変化しません。

- ・ チャネル選択
- ・ 出力オン／オフ
- ・ 任意波形関連
- ・ ユーザ単位関連 *
- ・ GPIBアドレス、デリミタ
- ・ USB ID

*： コピー元の設定がユーザ単位を使用しているときは、コピー先のチャネルの設定もユーザ単位となります。このとき、それぞれのチャネルで設定されていたユーザ単位の設定（計算式、名前、係数、オフセット）を使用して、最終的な出力値が同一となるように設定値が決定されます。

■周波数差一定 (2TONE) (: 2TONE)

ここでは、チャネルモードを周波数差一定 (2TONE) (CH1とCH2に周波数の差が常に一定) として使用する操作について説明します。

このモードではCH1またはCH2の周波数を変更すると、他方のチャネルの周波数が自動的に周波数差一定になるように変化します。

操作方法 :

(1) チャネルモードを周波数差一定 (2TONE) にします。

①  キーを押し、、 キーで下記の状態 (2TONEが点滅) にします。



②この状態で  キーを押すと、チャネルモードが変更されます。

(2) 周波数差 ($\triangle FREQ$) を設定します。周波数差はCH2-CH1の値を設定します。

①  キーを押し、次に  キーを押します。

②テンキーまたは  ダイヤルで周波数差を設定します。

③設定が済みましたら、 キーを1回押し、周波数差設定から抜けます。

その他 :

- 周波数差 ($\triangle FREQ$) を変更すると、CH2の周波数が変化します。
- 周波数差 ($\triangle FREQ$) は、負の値にできません。

チャネルモードを周波数一定 (2TONE) にしたときは、そのときの周波数差 ($\triangle FREQ$) にしたがってCH2の周波数が変化します。

■周波数比一定 (RATIO) (: RATIO)

ここでは、チャネルモードを周波数比一定 (RATIO) (CH1とCH2にの周波数の比が常に一定) として使用する操作について説明します。

このモードではCH1またはCH2の周波数を変更すると、他方のチャネルの周波数が自動的に周波数比一定になるように変化します。

操作方法 :

(1) チャネルモードを周波数比一定 (RATIO) にします。

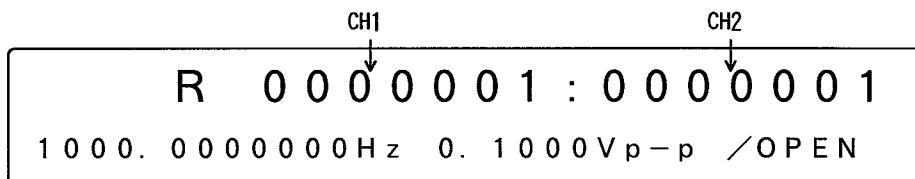
①  キーを押し、、 キーで下記の状態 (RATIOが点滅) にします。



②この状態で  キーを押すと、チャネルモードが変更されます。

(2) 周波数比 (RATIO) を設定します。周波数比はCH1 : CH2の値を設定します。

①  キーを押し、次に  キーを押します。



② 、 キーで対象チャネルを選び、テンキーまたは  ダイヤルで周波数比を設定します。

③設定が済みましたら、 キーを1回押し、周波数比設定から抜けます。

その他 :

- ・ チャネルモードを周波数比一定 (RATIO) にしたときは、そのときの周波数比 (RATIO) にしたがってCH2の周波数が変化します。
- ・ RATIOモードのときは、周波数分解能 = $10\text{Hz} \times \text{設定した比}$ になります。

6. トラブルシュート

6.1 エラーメッセージ.....	6-2
■電源投入時のエラー	6-2
■操作時のエラー	6-3
6.2 故障と思われる場合.....	6-5

6.1 エラーメッセージ

電源投入時に自己診断を行い、異常があるとエラーメッセージが表示されます。また、誤った操作を行ったときにも、エラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージの内容とその原因、および必要な処置を下記に示します。

■電源投入時のエラー

エラーメッセージ	原因	必要な処置
BACKUP MEMORY LOST	バッテリバックアップされている内容が壊れている。	バックアップ用電池の容量切れが考えられます。当社または販売店までご連絡ください。 なお、ENTERキーを押すと、工場出荷時設定で起動します。
CALIBRATION MEMORY LOST	キャリブレーションデータが壊れています。	当社または販売店までご連絡ください。なお、ENTERキーを押すと起動しますが、確度は保証されません。
SYSTEM TEST FAILED 001	内部ROMのサムチェックエラー。	当社または販売店までご連絡ください。
SYSTEM TEST FAILED 002	内部RAMのリード／ライトエラー。	当社または販売店までご連絡ください。

■操作時のエラー

エラーメッセージ	原因または必要な処置
DATA OUT OF RANGE	入力された数値が設定可能範囲外です。 設定可能範囲を確認して、再入力してください。 モディファイダイヤルで数値を変化させると、上下限が簡単に確認できます。
INVALID NUMERIC DATA	無効なテンキー入力です（小数点だけなど）。
SETTINGS CONFLICT 001	LOGスイープで、スタート値もしくはストップ値が0に設定されているため、スイープを実行できません。
SETTINGS CONFLICT 002	スイープのセンタ値とスパン値の組み合わせが、スイープ対象（例えば周波数）の設定可能範囲を超えてます。
SETTINGS CONFLICT 003	変調対象（周波数など）とDEVIATIONまたはDEPTHの組み合わせが、変調対象の設定可能範囲を超えているため、変調を実行できません。
SETTINGS CONFLICT 004	変調対象（周波数など）とDEVIATIONまたはDEPTHの組み合わせが、変調対象の設定可能範囲を超えてます。
SETTINGS CONFLICT 007	周期とパルス幅の組み合わせが、デューティの設定可能範囲を超えてます。
SETTINGS CONFLICT 008	周波数(FREQ)と周波数差(△FREQ)または周波数比(RATIO)の組み合わせが、周波数の設定可能範囲を超えてます。
SETTINGS CONFLICT 010	「L」（デューティ可変）でモードがスイープまたは変調のため、DUTY VALIDを設定できません。
STORE/RECALL MEMORY LOST	設定保存用メモリの内容が壊れているため、設定の呼び出し(RECALL)ができませんでした。 当社または販売店までご連絡ください。
WARNING 001	周波数とデューティの組み合わせによって、パルス幅が25ns以下に設定されたため、パルスが消失することがあります。
WARNING 002	周波数とデューティの組み合わせによって、パルス幅が25ns～100nsに設定されたため、パルス幅が不定（ジッタが大きく）になることがあります。
WARNING 003	周波数が高いため、バースト発振のマーク波数、スペース波数が不定になることがあります。
WARNING 004	ハイレベルの設定変更によってローレベルの設定が変更された、または、ローレベルの設定変更によってハイレベルの設定が変更されました。
WARNING 005	単位が標準単位(Hz、s、Vp-p、V)に変更されました。

6.1 エラーメッセージ

エラーメッセージ	原因または必要な処置
WARNING 006	周期とパルス幅の組み合わせが、デューティの設定可能範囲を超えたため、デューティが範囲内になるようにパルス幅が変更されました。
WARNING 007	周波数関連の設定を変更したときに、連動している他方のチャネルが設定可能範囲を超えるため、両チャネルの周波数関連設定が、設定可能範囲になるように変更されました。
WARNING 008	チャネルモードの変更によって、発振モードがノーマルに変更されました。
WARNING 009	チャネルモードの変更によって、発振モードがノーマルに変更されました。 スイープ／変調タイプを周波数に変更したため、他方のチャネルのスイープ／変調タイプが周波数に変更されました。 または、スイープ／変調タイプを周波数からそれ以外か、発振モードをスイープ／変調以外にしたため、他方のチャネルの発振モードがノーマルに変更されました。
WARNING 010	スイープファンクションがLOGからLINに変更されました。
WARNING 011	スイープモードがゲートットからシングルに変更されました。
WARNING 012	スイープまたは変調を実行中に、他方のチャネルの発振モードを変更したため、スイープまたは変調が中止されました。
WARNING 013	スイープ時間または変調周波数が、設定可能範囲を超えたため、値が自動的に設定可能範囲内に変更されました。
WARNING 015	DUTY VALIDの変更によって、デューティが0.01%または99.99%に変更されました。
WARNING 016	モードの変更によって、DUTY VALIDがIMMEDに変更されました。

6.2 故障と思われる場合

異常と思われるときは、下記の対処方法を行ってください。それでも回復しないときは、当社または販売店にご連絡ください。

内 容	考えられる原因	対処方法
電源が入らない	定格範囲外の電源を使用している	定格範囲内の電源を使用してください
	電源ヒューズが切れている	電源ヒューズを交換してください（必ず決められた定格の電源ヒューズを使用してください）
	外来ノイズ等によって誤動作している	良好な条件の場所に、設置してください
パネル操作ができない	リモート状態である	LOCALキーを押して、ローカル状態にしてください
	キーやモディファイダイヤルが劣化している	当社に修理をお申し付けください
出力値がおかしい	周囲温度、周囲湿度が性能保証範囲でない	仕様の範囲内の環境で使用してください
	十分なウォーミングアップをしていない	電源投入後、30分以上のウォーミングアップを行ってください
	DCオフセットが加わっている	DCオフセットを0Vにしてください
	外部SAMがオンになっている	外部SAMをオフにしてください
	ユーザ単位が使われている	標準単位を選択してください
	LOAD機能が使われている	設定をOPENにしてください
外部制御による設定ができない	プログラムと異なるアドレス、USB IDになっている	プログラムと一致するように、アドレス、USB IDを設定してください
	他の機器と同じアドレス、USB IDになっている	他の機器と重ならないように、アドレス、USB IDを設定してください
取扱説明書のとおりにならない	設定初期化(PRESET)を実行していない	説明は設定初期化後を前提にしています 設定初期化を実行してください
	操作対象チャネルが逆	CH 1かCH 2かを確認してください

7. 保 守



7.1	概 要	7 - 2
	■作業内容	7 - 2
	■使用機器	7 - 2
7.2	動作点検	7 - 3
	■動作点検前の確認	7 - 3
	■機能チェック	7 - 3
7.3	性能試験	7 - 5
	■性能試験	7 - 5
	■性能試験前の確認	7 - 5
	■性能試験前の準備	7 - 5
	■周波数確度の試験	7 - 6
	■振幅確度の試験	7 - 6
	■DCオフセット確度の試験	7 - 7
	■振幅の周波数特性試験	7 - 7
	■正弦波ひずみ率の試験	7 - 8
	■方形波の波形特性試験	7 - 8
	■デューティの試験	7 - 9
	■チャネル間時間差の試験	7 - 9

7.1 概 要

■作業内容

機器を最良の状態でご使用いただくためには、下記のような保守が必要です。

- 動作点検 機器が正しく動作しているかをチェックします。
- 性能試験 機器が定格を満足しているかをチェックします。
- 調整、校正 定格を満足していないときは、当社で調整または校正を行い、性能を回復させます。
- 故障修理 それでも改善されないときは、当社で故障の原因や故障箇所を調べ、修理します。

この取扱説明書には、容易に行うことができる動作点検、性能試験の方法を記載しています。

より高度な点検、調整、校正や故障修理については、当社または販売店までお問い合わせください。

△警 告

機器の内部には高電圧の箇所があります。カバーは取り外さないでください。

機器内部の点検は、危険防止に精通している訓練されたサービス技術者以外の方は行わないでください。

■使用機器

動作点検、性能試験には、下記の測定器が必要です。

- オシロスコープ 周波数帯域 : 100MHz以上
- ユニバーサルカウンタ 基準発振器確度 : 5×10^{-7} 以内
- 直流電圧計 確度 : 0.1% 以内
- 交流電圧計-1 True RMS、確度 : 0.3% 以内、周波数帯域 : 100kHz以上
推奨機種 : KEITHLEY社 MODEL 2001
- 交流電圧計-2 True RMS、確度 : 1% 以内、周波数帯域 : 20MHz以上
推奨機種 : BOONTON社 MODEL 9200C+952016+952002
- ひずみ率計 フルスケール : 0.1% 以下、測定周波数 : ~100kHz
- 50Ω フィードスルーターミネータ（終端器）
- 50Ω 20dBアッテネータ

7.2 動作点検

■動作点検前の確認

動作点検の前には、下記の事項を確認してください。

- 電源電圧は、定格範囲内か。
- 周囲温度は、5~35°Cの範囲内か。
- 周囲の相対湿度は、5~85%RH（ただし、絶対湿度1~25g/m³）の範囲内か。
- 結露していないか。

■機能チェック

• 電源投入時のチェック

電源投入時に、エラー表示が出ないことを確認してください。

□ エラー表示が出たとき → 「6. ブラブルショート」、参照。

また、電源投入時に異常な表示になったときは、一度電源を切り、5秒以上待った後、再度電源を投入してください。

• 主要機能のチェック

誤設定を防ぐために、最初に設定初期化（ → [PRESET]）を行ってください。

次に、FUNCTION OUTを、特性インピーダンス50Ωの同軸ケーブルを使用してオシロスコープに接続し、出力を観測してください。

この状態で、下記の項目について設定を何回か変更してみて、正常に機能しているかをチェックしてください。周波数など、数値を設定する項目では、テンキー、モディファイダイヤルの両方で操作を行えば、より確実なチェックになります。

• 周波数 ( → 

• 振幅 ( → 

• DCオフセット ( → 

• 波形 ( → 、、 デューティ50%固定、

• デューティ ( →  デューティ可変、 → 

• 出力のオン／オフ (、

7.2 動作点検

- バックアップ機能のチェック

一度電源を切り、5秒以上待った後、再度電源を投入してください。

下記の項目について、前回電源を切る直前の設定が正しく保存されていることを確認してください。

- 周波数

- 振幅

- DCオフセット

- 波形

- デューティ

バックアップ期間は、常温保存時で3年以上ですが、個体差や使用条件によって変化します。

電池の劣化によって設定内容のバックアップができなくなりますので、定期的にバッテリ変換することをおすすめします。

- GPIB／USBのチェック

主要機能のチェックの項で実施した設定変更の一部をGPIB／USBから行い、同じ出力変化になることを確認してください。

この際、リモート（[REM]）表示が点灯することを確認してください。

また、ローカル（）キーを押すと、リモート表示が消灯し、ローカル状態に戻ることを確認してください。（ローカルロックアウトでないとき。）

7.3 性能試験

■性能試験

性能試験は、この製品の性能劣化を未然に防止するため、予防保守の一環として行います。

性能試験は、この製品の受入検査、定期検査、修理後の性能確認などが必要なときに実施してください。

性能試験の結果、仕様を満足しないときは修理が必要です。当社または販売店にご連絡ください。

■性能試験前の確認

性能試験の前には、下記の事項を確認してください。

- 電源電圧は、定格範囲内か。
- 周囲温度は、 $23 \pm 5^{\circ}\text{C}$ の範囲内か。
- 周囲の相対湿度は、20~70%RHの範囲内か。
- 結露していないか。
- 30分以上のウォーミングアップを行ったか。

■性能試験前の準備

- 使用する信号ケーブルは、特性インピーダンス 50Ω 、RG-58A/U以上の太さ、長さ1m以下で、両端にBNCコネクタが付いている同軸ケーブルを使用してください。
- 50Ω 終端が指定されている項目では、接続する測定器の入力インピーダンスを 50Ω に設定してください。

50Ω 入力にできない機器は、測定器の入力に 50Ω 終端器（フィードスルーターミネータ）を取り付けてください。

- 各試験項目の設定内容には、設定初期化 ( → [RESET]) を行い、出力をオン

(、によってキー内部のLEDを点灯) にした上で、さらに変更する項目を記

載してあります。

■周波数確度の試験

接続 : FUNCTION OUT → ユニバーサルカウンタ入力 (50Ω終端)

同軸ケーブルを使用してください

設定 : 設定初期化の後、周波数 1MHz、振幅 20Vp-p／開放

測定 : ユニバーサルカウンタを周波数測定モードにして、周波数を測定します (CH1)。

判定 : $\pm 5\text{ppm}$ 以内 (999.995kHz～1.000005MHz) であれば、正常です。

ただし、最大 $\pm 3\text{ppm}$ ／年まで経年変化することがありますので、出荷時より1年経過したものは、 $\pm 8\text{ppm}$ 以内 (999.992kHz～1.000008MHz) まで劣化している可能性があります。

■振幅確度の試験

接続 : FUNCTION OUT → 交流電圧計-1

同軸ケーブルを使用してください

設定 : 設定初期化の後、振幅、出力レンジ、波形は下表による

測定 : 各波形における出力電圧を、実効値で測定します (CH1、CH2)。

判定 : 下記の表の範囲内であれば、正常です。

波形	出力レンジ	設定値	定格範囲
~	10V	20Vp-p／開放 (7.071 Vrms／開放)	7.004Vrms ~ 7.138Vrms
~, ~, ~	10V	20Vp-p／開放 (5.774 Vrms／開放)	5.719Vrms ~ 5.828Vrms
△	10V	20Vp-p／開放 (10.00 Vrms／開放)	9.905Vrms ~ 10.095Vrms
~	10V	10Vp-p／開放 (3.536 Vrms／開放)	3.493Vrms ~ 3.578Vrms
~	10V	5Vp-p／開放 (1.768 Vrms／開放)	1.738Vrms ~ 1.798Vrms
~	10V	2Vp-p／開放 (0.707 Vrms／開放)	0.684Vrms ~ 0.730Vrms
~	1V	2Vp-p／開放 (0.7071Vrms／開放)	0.699Vrms ~ 0.716Vrms

■DCオフセット精度の試験

接続 : FUNCTION OUT → 直流電圧計

設定 : 設定初期化の後、DCモード、出力レンジとDCオフセット設定は下表による

測定 : 出力電圧を、直流で測定します (CH1、CH2)。

判定 : 下記の表の範囲内であれば、正常です。

出力レンジ	DCオフセット設定	定格範囲
10V	±10.000V／開放	±9.880V ~ ±10.12V
10V	±5.000V／開放	±4.905V ~ ±5.095V
10V	±2.000V／開放	±1.920V ~ ±2.080V
10V	±1.000V／開放	±0.925V ~ ±1.075V
10V	0.000V／開放	-0.070V ~ +0.070V
1V	±1.0000V／開放	±0.985V ~ ±1.015V
1V	0.0000V／開放	-0.010V ~ +0.010V

■振幅の周波数特性試験

接続 : FUNCTION OUT → 交流電圧計-2 (50Ω終端)

同軸ケーブルを使用してください

設定 : 設定初期化の後、振幅 20Vp-p／開放、周波数と波形は下表による

測定 : 各周波数、波形における出力電圧を、実効値で測定します (CH1、CH2)。

判定 : 下記の表の範囲内であれば、正常です。

波形	1kHz での測定値	~500kHz での測定値	~1MHz での測定値	~3MHz での測定値	~10MHz での測定値	~15MHz での測定値
～	(基準値) +0.2/-0.3dB	+0.2/-0.3dB	+0.35/-0.7dB	+0.5/-1.5dB	+0.5/-2.0dB	
△	(基準値) ±0.3dB	--	--	--	--	
□	(基準値) ±0.3dB	±0.3dB	--	--	--	
×	(基準値) ±0.5dB	--	--	--	--	
△	(基準値) ±0.5dB	--	--	--	--	

■正弦波ひずみ率の試験

接続 : FUNCTION OUT → ひずみ率計 (50Ω終端)

同軸ケーブルを使用してください

設定 : 設定初期化の後、振幅 20Vp-p／開放、周波数は下表の範囲内

測定 : ひずみ率を測定します (CH1、CH2)。

判定 : 下記の表の範囲内であれば、正常です。

周波数	定格範囲
10Hz～100kHz	0.2%以下

(帯域500kHz)

■方形波の波形特性試験

接続 : FUNCTION OUT → オシロスコープ (50Ω終端)

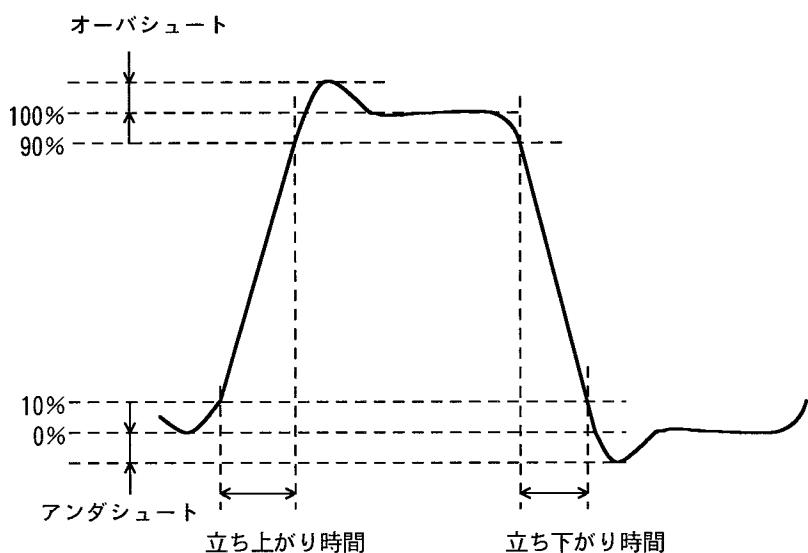
同軸ケーブルを使用してください

設定 : 設定初期化の後、L、周波数 1MHz、振幅 20Vp-p／開放

測定 : 波形を観測し、立ち上がり／立ち下がり時間、オーバーシュート／アンダーシュート、を測定します (CH1、CH2)。

判定 : 下記の表の範囲内であれば、正常です。

項目	範囲
立ち上がり／立ち下がり時間	20ns以下
オーバーシュート／アンダーシュート	5%以下



■ デューティの試験

接続 : FUNCTION OUT → ユニバーサルカウンタ (50Ω終端)
同軸ケーブルを使用してください。

設定 : 設定初期化の後、振幅 20Vp-p、波形、周波数は下表による。

測定 : ユニバーサルカウンタを立ち上がり→立ち下がり間のインタバルタイマモードにして、デューティ (時間) を測定します (CH1、CH2)。ユニバーサルカウンタのトリガレベルは0Vに設定してください。また、ジッタにより測定値がばらつくので、平均化してください。

判定 : 下記の表の範囲内であれば、正常です。

波形	周波数	定格範囲
△ (デューティ50%固定)	1MHz	490ns ~ 510ns
△ (デューティ50%固定)	10MHz	47.0ns ~ 53.0ns
△ (デューティ50%固定)	15MHz	30ns ~ 36.7ns
△ (デューティ可変)	100kHz	4.90μs ~ 5.10μs

■ チャネル間時間差の試験

接続 : CH1 FUNCTION OUT → ユニバーサルカウンタ 入力1 (50Ω終端)
CH2 FUNCTION OUT → ユニバーサルカウンタ 入力2 (50Ω終端)

同じ長さ、同じ種類の同軸ケーブルを使用してください。

設定 : 設定初期化の後、チャネルモード 2PHASE、振幅 20Vp-p／開放 (CH1、CH2)、CH2 の位相 180deg、周波数と波形の設定は下表による。

測定 : ユニバーサルカウンタを入力1→入力2間のタイマモードにして、CH1、CH2間の時間差を測定します。ユニバーサルカウンタのトリガレベルは入力1、2とも0V、トリガ極性は入力1、2とも立ち上がりに設定してください。測定値がばらつくので、平均化してください。

判定 : 下表の範囲内であれば、正常です。

波形	周波数	定格範囲
～	10MHz	40ns~ 60ns
△ (デューティ50%固定)	10MHz	40ns~ 60ns
△	500kHz	990ns~1010ns

8. 仕 様



8.1 波形、出力特性	8 - 2
8.2 出力電圧	8 - 4
8.3 その他の機能	8 - 5
8.4 設定初期化内容	8 - 12
8.5 外部制御（取扱説明は別冊）	8 - 13
8.6 オプション	8 - 14
8.7 一般事項	8 - 15
■外形寸法図	8 - 16

■ 確度を示した数値は保証値ですが、確度のないものは参考値です。

8.1 波形、出力特性

● 波形 (FUNCTION OUT)

出力波形	~、~、L(デューティ 50% 固定)、L(デューティ可変)、A、~、任意波形(ARB)、およびノイズ(NOISE)、直流電圧(DC)
波形垂直分解能	16ビット (~、~、A、L、任意波形(ARB))
出力波形と周波数	
連続発振のとき	~、L (デューティ 50% 固定) : 0.01 μHz ~ 15MHz ~、L (デューティ可変)、A、L : 0.01 μHz ~ 500kHz 任意波形 : 0.01 μHz ~ 500kHz ただし、任意波形の全データが連続して出力されるのは、下記の周波数まで (40MHz) ÷ (任意波形データサイズ[ワード]) アナログ周波数帯域 10MHz
バースト、トリガ、ゲート、 トリガドゲート、 ゲーテッドスイープのとき	0.01 μHz ~ 500kHz
周波数	
設定範囲	0.01 μHz ~ 15MHz
設定分解能	0.01 μHz
出荷時確度	± 5ppm
経年変化	± 3ppm / 年
周期による設定	設定周期の逆数の周波数になる 周波数設定分解能未満は、四捨五入
L デューティ	
設定可能範囲	0.0100% ~ 99.9900% / 0.0000% ~ 100.0000% 切り換え
設定分解能	0.0001%
任意波形データサイズ	8K / 16K / 32K ワード 切り換え可能 ただし、1K ワード = 1024 ワード
任意波形波数	波形をバックアップし、切り換えて使用できる任意波形波数 8K ワード時 12 波 / 16K ワード時 6 波 / 32K ワード時 3 波
任意波形データ作成	パネル操作による指定ポイントのデータ書き込みと直線補間、 または外部制御 (GPIB、USB) によるデータ書き込み
任意波形データ分解能	16ビット (-32768 ~ 0 ~ +32767) 1992A ディジタル出力オプションからは、上位15ビットと クロックを出力
ノイズ	ノイズ源 : 42段シフトレジスタ相当による疑似M系列 周期 30.518時間、スペクトラム間隔 9.1022 μHz ホワイトノイズ帯域 (等価雑音帯域幅) : 500kHz ピークファクタ (クレストファクタ) : 6 振幅は V _{p-p} で設定する 実効値 = V _{p-p} 設定値 ÷ 2 ÷ ピークファクタ バイナリ出力 : NOISE モード時に SYNC OUT から出力

- 出力特性 (FUNCTION OUT)

振幅の周波数特性	連続発振、外部AMオフ、50Ω負荷、DCオフセット0V、振幅設定10Vp-p/50Ω、周波数1kHz基準、実効値測定
~	~ 1MHz : +0.2dB, -0.3dB
	1MHz ~ 3MHz : +0.35, -0.7dB
	3MHz ~ 10MHz : +0.5, -1.5dB
	10MHz ~ 15MHz : +0.5, -2.0dB
Π	~ 1MHz : ±0.3dB
~	~ 500kHz : ±0.3dB
Λ, Η	~ 500kHz : ±0.5dB
Λスペクトラム純度	連続発振、外部AMオフ、50Ω負荷、DCオフセット0V、振幅設定10Vp-p/50Ω
全高調波ひずみ率	10 Hz ~ 100kHz : 0.2%以下 (帯域 : 500kHz)
高調波スペクトラム	100kHz ~ 1MHz : -50dBc 1MHz ~ 15MHz : -30dBc スプリアス ~ 15MHz : -35dBc
Π波形特性	連続発振、外部AMオフ、50Ω負荷、DCオフセット0V、振幅設定10Vp-p/50Ω
	立ち上りがり / 立ち下がり時間 : 20ns以下
	オーバーシュート : 5%以下
デューティ	連続発振、外部AMオフ、50Ω負荷、DCオフセット0V、振幅設定10Vp-p/50Ω
	Π(デューティ50%固定) ~ 1MHz、確度 : 周期の±1% 1MHz ~ 10MHz、確度 : 周期の±3% 10MHz ~ 15MHz、確度 : 周期の±5%
	Π(デューティ可変) ~ 100kHz、確度 : 周期の±1% ジッタ : 30nsp-p以下

8.2 出力電圧

• 出力電圧 (FUNCTION OUT)

出力レンジ	10Vレンジ／1Vレンジ固定、または自動切り換え
振幅	
設定範囲	10Vレンジ時 : 0mVp-p～20.000Vp-p／開放 1Vレンジ時 : 0.0mVp-p～2.0000Vp-p／開放
設定分解能	10Vレンジ時 : 1mVp-p／開放 1Vレンジ時 : 0.1mVp-p／開放
確度	連続発振、外部AMオフ、～、1kHz、実効値測定 10Vレンジ時 : ±(振幅設定[Vp-p]の0.7% + 0.05Vp-p)／開放 1Vレンジ時 : ±(振幅設定[Vp-p]の0.7% + 0.01Vp-p)／開放
DCオフセット	
設定範囲	10Vレンジ時 : ±10.000V／開放 1Vレンジ時 : ±1.0000V／開放
設定分解能	10Vレンジ時 : 1mV／開放 1Vレンジ時 : 0.1mV／開放
確度	直流電圧発生時、外部AMオフ、外部加算オフ 10Vレンジ時 : ±(DCオフセット設定[V]の0.5% + 0.07V)／開放 1Vレンジ時 : ±(DCオフセット設定[V]の0.5% + 0.01V)／開放
振幅とDCオフセットとの相互制約	出力電圧が下記の値を超えると、OVERランプが点滅する このとき、出力がクリップすることがある 10Vレンジ時 : 11V／開放 1Vレンジ時 : 1.1V／開放
出力インピーダンス	50Ω、不平衡
負荷インピーダンス	45Ω以上
出力コネクタ	正面パネル BNCリセプタクル (FUNCTION OUT)
その他	ハイレベル／ローレベルによる出力電圧設定も可能

• SYNC OUT 出力電圧

出力電圧	0／+5V (開放)
出力波形	△
立ち上がり／立ち下がり時間	2.5ns
出力インピーダンス	50Ω、不平衡
負荷インピーダンス	45Ω以上
出力コネクタ	正面パネル BNCリセプタクル (SYNC OUT)

8.3 その他の機能

● バースト

発振モード	バースト／ゲート／トリガ／トリガドゲート (トリガドゲートは、トリガごとにゲートがオン／オフする発振モード)
マーク波数	0.5波～500000.0波、0.5波単位 (マーク波数は、バースト／トリガ時の発振波数)
スペース波数	0.5波～500000.0波、0.5波単位 (スペース波数は、バースト時の停止波数)
位 相	発振停止状態から発振を開始するときの位相
設定範囲	-1800.000°～+1800.000°
設定分解能	0.001°
トリガソース	内部トリガ発振器／外部トリガ入力 パネルキー、外部制御 (GPIB、USB) からトリガを与えることも可能 CH1の外部トリガを、CH2のトリガソースとすることも可能
外部トリガ	
極 性	トリガ：立ち上がり／立ち下がり ゲート：正論理／負論理 トリガドゲート：立ち上がり／立ち下がり
入力レベル	ハイレベル $\geq +3.9V$ 、ローレベル $\leq +1.6V$
最小パルス幅	50ns
入力インピーダンス	10kΩで、+5Vにプルアップ
入力コネクタ	正面パネル BNCリセプタクル (TRIG/SWEEP IN)
内部トリガ発振器の周期	
設定範囲	1μs～100.0s
設定分解能	1ms以上は4桁、1ms未満は1μs
トリガディレイ	
設定範囲	0.3μs～100.00s
設定分解能	1ms以上は5桁、1ms未満は0.1μs
トリガジッタ	発振モード：トリガで有効
発振停止時のレベル (ストップレベル)	50ns以下 オン／オフ オフ時は、設定されている位相で停止する オン時は、設定されているストップレベルで停止する
設定範囲	-100.00% (出力の負の最大値) ～+100.00% (正の最大値)、
設定分解能	0.01%

- スイープ

スイープ項目	周波数、位相、振幅、DCオフセット、デューティ (L=デューティ可変)
設定項目	スイープスタート／ストップまたはスイープセンタ／スパン、 スイープマーカ、スイープセンタをマーカに代入、 スイープスタート状態、スイープストップ状態
スイープ機能	連続／単発／ゲーテッドスイープ、 LIN／LOG (LOGは周波数、振幅時)、 ^/^/ L/^
スイープ時間	
設定範囲	1ms～10000.000s (2チャネル独立時、どちらか一方のチャネルだけ のスイープ、変調のとき) 2ms～10000.000s (その他のとき)
設定分解能	1ms
スイープトリガ	単発／ゲーテッドスイープの開始を指示する
スイープトリガ周期	100ms以上 (100ms未満の周期でトリガを与えると、100ms周期のトリガになる)
トリガソース	内部トリガ発振器／外部トリガ入力を選択 パネルキー、外部制御 (GPIB、USB) からトリガを与えることも可能 CH1の外部トリガを、CH2のトリガソースとすることも可能
外部トリガ	
極性	立ち上がり／立ち下がり
入力コネクタ	正面パネル BNCリセプタクル (TRIG/SWEEP IN)
最小パルス幅	200ns
トリガディレイ	2ms
内部トリガ発振器の周期	
設定範囲	1μs～100.0s
設定分解能	1ms以上は4桁、1ms未満は1μs
発振停止時のレベル (ストップレベル)	ゲーテッドスイープ時にオン／オフ設定有効 (ただし、スイープ項目がデューティ時は無効：オフ固定) オフ時は、設定されている位相で停止する オン時は、設定されているストップレベルで停止する
設定範囲	-100.00% (出力の負の最大値) ～+100.00% (正の最大値)、
設定分解能	0.01%

- スイープ入出力

スイープトリガ入力

入力レベル	ハイレベル $\geq +3.9V$ 、ローレベル $\leq +1.6V$
信号特性	立ち上がりまたは立ち下がり（選択可能）で、 単発／ゲートドスイープを開始
最小パルス幅	200ns
入力インピーダンス	10kΩで、+5Vにプルアップ
入力コネクタ	正面パネル BNCリセプタクル (TRIG/SWEEP IN) ゲート／トリガ／トリガドゲートのトリガ入力と共に用

スイープ同期出力

出力レベル	0/+5V (開放)
信号特性	ローレベル：スタート→ストップに向かってスイープ中 ハイレベル：その他のとき (ノースイープ時は、ストップ→スタートへの急変の直前の 約0.2ms～約0.5ms間、ハイレベルになる)
出力インピーダンス	50Ω、不平衡
負荷インピーダンス	45Ω以上
出力コネクタ	正面パネル BNCリセプタクル (SYNC OUT) SYNC OUTと共に用

スイープ停止／再開入力

入力レベル	ハイレベル $\geq +3.9V$ 、ローレベル $\leq +1.6V$
信号特性	ローレベル：スイープの途中停止 ハイレベル：停止の解除
入力インピーダンス	10kΩで、+5Vにプルアップ
入力コネクタ	背面パネル BNCリセプタクル (SWEEP PAUSE IN)

スイープマーカ出力

出力レベル	0/+5V (開放)
信号特性	ローレベル：スイープ中にマーカ以上のとき ハイレベル：その他のとき
出力インピーダンス	30Ω、不平衡
負荷インピーダンス	1kΩ以上
出力コネクタ	背面パネル BNCリセプタクル (SWEEP Z-MARKER OUT)

スイープX-DRIVE出力

出力レベル	0V～+5V (開放)
信号特性	0V→+5V：スイープ値が上昇中、+5V→0V：スイープ値が下降中
出力インピーダンス	1kΩ、不平衡
負荷インピーダンス	10kΩ以上
出力コネクタ	背面パネル BNCリセプタクル (SWEEP X-DRIVE OUT)

8.3 その他の機能

● 内部変調機能

変調項目	FM (FSK)、PM (PSK)、AM、DCオフセット変調、PWM (ルーティィ可変)
内部変調周波数	
設定範囲	0. 1mHz～500. 00Hz (2チャネル独立時、どちらか一方のチャネルだけのスイープ、変調のとき) 0. 1ms～250. 00Hz (その他のとき)
設定分解能	1Hz以上は5桁、1Hz未満は0. 1mHz
内部変調波形	△、△、□、△、△

● 外部変調機能

変調項目	AM、DSB-SC AM、オン／オフ可能
外部変調周波数	DC～10MHz
外部AM深度	-3V入力時 : -100% -1V入力時 : 0%、 0V入力時 : 設定されている振幅の50% +1V入力時 : 設定されている振幅
入力電圧範囲	-3V～+1V
入力インピーダンス	50Ω
入力コネクタ	背面パネル BNCリセプタクル (EXT AM IN)

● 外部加算機能

外部加算	FUNCTION OUTの信号に、外部信号を加算する機能 オン／オフ
外部加算周波数	DC～10MHz
外部加算ゲイン	無負荷時 10Vレンジ時 : × 2 1Vレンジ時 : × 0. 2
入力電圧範囲	±5V
入力インピーダンス	50Ω
入力コネクタ	背面パネル BNCリセプタクル (EXT ADD IN)

● チャネル動作

チャネルモード	2チャネル独立／2相（同一周波数）／周波数比一定／周波数差一定／差動出力（同一周波数、振幅、DCオフセット、逆波形）
位 相	バースト／ゲート／トリガ／トリガドゲートおよび ゲーテッドスイープ時の発振開始位相と共通
設定範囲	-1800.000° ~ +1800.000° (差動出力では無効)
設定分解能	0.001°
チャネル間時間差	連続発振、外部AMオフ、50Ω負荷、DCオフセット0V、 振幅設定10Vp-p／50Ω、同一波形、チャネルモード2相のとき チャネル間時間差：±10ns以下
周波数差	周波数差一定モードで有効、CH2周波数 - CH1周波数を設定
設定範囲	0.00 μHz ~ 14.999999999999MHz
設定分解能	0.01 μHz
周波数比	周波数比一定モードで有効、CH1とCH2の周波数を、N : Mの形で設定
設定範囲	各々0000001~9999999
設定分解能	1 (周波数分解能は各々、N × 0.01 μHz、M × 0.01 μHzになる)
位相同期	マニュアルまたは外部制御 (GPIB、USB) チャネルモード変更時には自動的に発生 (全チャネルの出力波形を、設定されている位相から再スタート する機能で、位相関係を明確にするために使用する 同期運転時には、接続されているすべてに有効)
同期設定	設定値を2チャネル同時に設定する機能
その他	CH2の設定をCH1にコピーする機能、 CH1の設定をCH2にコピーする機能

● 設定初期化機能

機 能	ほとんどの設定内容を初期値に設定する
□ 初期化内容	→ 「3.3 基本操作」の「初期値一覧」による。

8.3 その他の機能

● ユーザ単位機能

機能	換算によって、任意の単位での設定／表示を行う機能
設定可能項目	周波数、周期、振幅、DCオフセット、位相、デューティ
係数設定	$[(\text{内部への設定}) + n] \times m$ 、または $[\log_{10}(\text{内部への設定}) + n] \times m$ のどちらかの換算式を選択、 さらにn、mの値を設定する
	周波数、周期：n、m共、仮数部15桁、指数部1桁
	振幅、DCオフセット、デューティ：n、m共、仮数部6桁、指数部1桁
	位相：仮数部7桁、指数部1桁
単位文字列	英数字、および特殊文字34種 最大4文字の文字列を設定／表示可能

● LOAD機能

機能	任意の負荷における、実際の電圧で設定／表示を行う機能 下記の式によって換算を行う
	$(\text{負荷における出力電圧}) = (\text{無負荷時の出力電圧}) \times \frac{(\text{負荷インピーダンス})}{(\text{出力インピーダンス}: 50\Omega) + (\text{負荷インピーダンス})}$

負荷インピーダンス

設定範囲 $45\Omega \sim 999\Omega$

設定分解能 1Ω

● 出力オン／オフ

機能	出力をオン／オフする
出力オフ時の状態	FUNCTION OUT：開放状態 SYNC OUT：TTL 3ステートのハイインピーダンス状態
電源投入時の状態	前回電源を切ったときの状態に復帰／オン／オフを選択可能

● 設定メモリ、バックアップ

設定メモリ	設定可能な項目のほとんどを、保存／呼び出しする機能 0～9の10組
バックアップ	電源を切る前のほとんどの設定内容を、バッテリバックアップ
バックアップ期間	常温保存にて3年以上
使用電池	リチウム電池
電池消耗時の動作	電源投入時にエラーになり、設定が初期化される 設定メモリ、任意波形メモリの内容が初期化される 電池交換（有償）が必要

8.4 設定初期化内容

- 設定初期化内容
 - 初期化内容について → 「3.3 基本操作」の「初期値一覧」による。
- バックアップ電池消耗によるエラー発生時

設定初期化内容に加え、下記の設定を行う。

出力オン／オフ : オフ
電源投入時出力オン／オフ: LAST-STATE (前回電源を切る直前の状態)
設定メモリ : すべてNOT STORED
設定メモリコメント : “ ” (空白)
ユーザ単位名 : USER
ユーザ単位計算式 : (h+n) *m
ユーザ単位係数 : 1
ユーザ単位オフセット : 0
任意波形選択 : 0:ARB_00
任意波形名 : ARB_00 (00~11)
任意データサイズ : 8K
任意波形データ : すべて0
外部制御のインターフェース: GPIB
GPIBアドレス : 2
GPIBデリミタ : CR+LF
USB ID : 2

8.5 外部制御

• GPIBインターフェース

GPIBファンクション	SH1 ソースハンドシェイク全機能 AH1 アクセプタハンドシェイク全機能 T6 基本的トーカ、シリアルポール、MLAによるトーカ解除 L4 基本的リスナ、MTAによるリスナ解除 SR1 サービスリクエスト全機能 RL1 リモートローカル全機能 PP0 パラレルポール機能なし DC1 デバイスクリア全機能 DT1 デバイストリガ全機能 C0 コントローラ機能なし
使用コード	ISO 7ビットコード (ASCIIコード)
アドレス	0~30 (パネルから設定)
出力ドライバ	DI01~8、NDAC、NRFD、SRQ : オープンコレクタ DAV、EOI : 3ステート
GPIBパラメタ	GPIBアドレス (0~30)、 送信時デリミタ (CR/LF+EOI、CR+EOI、LF+EOI)
リモート状態の解除	LOCALキーによってリモート状態の解除可能 (Local Lockout時を除く)
コネクタ	背面パネル、IEEE 488、24ピンGPIBコネクタ

• USBインターフェース

USB1.1 フルスピード

8.6 オプション

• 1991 同期運転オプション

機能	複数のWF19シリーズ注で、同期運転を行う機能
時間差	同期運転を行うすべてに1991が必要 連続発振、外部AMオフ、50Ω負荷、DCオフセット0V、 振幅設10Vp-p/50Ωにおいて、同一波形、同一周波数に設定後、 位相同期を行ったとき 機器間時間差： $\pm 25\text{ns}$ +1台当たり10ns以下
その他	複数のWF19シリーズ注を接続するケーブルは、別売 (1994 同期運転ケーブル)

• 1994 同期運転ケーブル

1991同期運転オプション用、複数のWF19シリーズ注を接続するケーブル
n台のWF19シリーズ注間を接続するには、(n-1)本の1994同期運転ケーブルが必要

• 1992A ディジタル出力オプション

機能	波形D/Aに与えるディジタル信号を出力する機能 16ビットの波形データのうち、上位15ビットと、クロックを 出力する。
データ形式	設定された任意波形データと出力データの関係は、下記のとおり

任意波形データ		出力データ
“ARB”および “:DATA:DACDAB”コマンド	“ARW”および “:DATA:DAcWord”コマンド	
+16383	+32766、+32767	7FFFH
+16382	+32764、+32765	7FFEH
+16381	+32762、+32763	7FFDH
:	:	:
+2	+4、+5	4002H
+1	+2、+3	4001H
0	0、+1	4000H
-1	-2、-1	3FFFH
-2	-4、-3	3FFEH
:	:	:
-16382	-32764、-32763	0002H
-16383	-32766、-32765	0001H
-16384	-32768、-32767	0000H

付属品 ディジタル出力ケーブル：1本

注：当社製品1945、1946、1956、WF1945、WF1946、WF1956、WF1945A、WF1946A、
WF1965、WF1966

8.7 一般事項

• 入出力グラウンド

FUNCTION OUT、SYNC OUT、EXT AM IN、EXT ADD IN、DIGITAL OUTの信号グラウンドはシャーシからフローティングしており、一つのチャネル内のこれらの信号入出力のグラウンドは共通
信号グラウンド耐圧：±42Vpeak、30Vrms (DC～20kHz 連続) CH1とCH2は独立
他のすべての信号入出力のグラウンドは、シャーシに接続

• 電 源

電源電圧範囲	AC100V／115V／230Vに切り換え
電源周波数範囲	50／60Hz±2Hz
電源ヒューズ	100／115V：2Aまたは230V：1A
消費電力	タイムラグ、定格電圧250V、Φ5.2×20mm 100VA以下
過電圧カテゴリ	II

• 機器の冷却

強制空冷、背面吐き出し式

• 設置姿勢

水平 (10°以内)

• 環境条件

周囲温度範囲・周囲湿度範囲

性能保証	+5～+35°C、5～85%RH (ただし、絶対湿度1～25g/m³、結露がないこと)
保 存	-10～+50°C、5～95%RH (ただし、絶対湿度1～29g/m³、結露がないこと)
汚染度	2

• 絶縁抵抗

20MΩ以上 (DC500Vにて、電源入力一括対筐体間)

• 耐電圧

AC1500V (電源入力一括対筐体間)

• 外形寸法

216 (W) × 132.5 (H) × 290 (D) mm (突起部を除く)

• 質 量

付属品、オプション等を除く、本体の質量
約4.6kg

• 安全規格

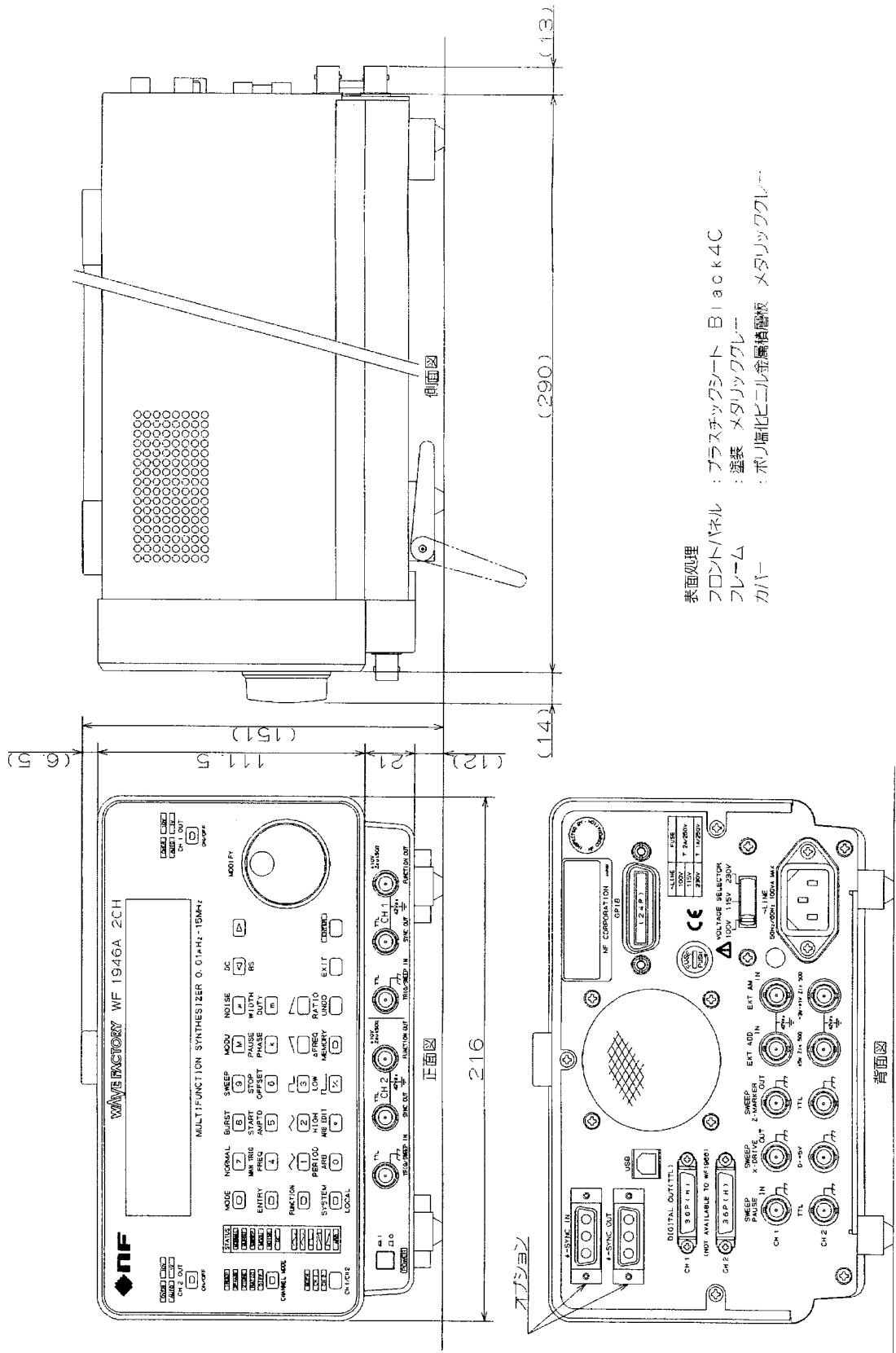
EN61010-1 : 2001

8.3 その他の機能

- EMC

EN61326 :1997／A1:1998／A2 :2001

■外形寸法図



WF1946A

索引

正面パネル、背面パネル表示の索引です（アルファベット順）。

△FREQ	5-26	MODE	3-25、4-2、4-16、 4-42
2PHASE	3-19、3-20	MODU	3-8、3-25、3-28、 4-42
2TONE	3-19、3-20、5-26	NOISE	3-8、3-25、3-28、 3-29、5-8
AMPTD	3-30、5-6、5-8、5-20	NORMAL	3-25、5-24
ARB	4-57、5-8	OFFSET	3-31、5-6、5-20
ARB EDIT	4-57	OVER	3-5
BOTH	3-24、4-8、4-11、 4-15、4-22、4-44、	PAUSE	4-20、4-26、4-33
BS	3-29、3-30、3-31、 3-32	PERIOD	5-2、5-3、5-4
BURST	3-8、3-25、4-2	PHASE	3-32、5-24
CH1／CH2	3-24	RATIO	3-19、3-21、5-27
CH1 OUT／CH2 OUT	3-3、3-33	START	4-19、4-26、4-32、 4-44、4-47、4-50、 4-53、4-56
CHANNEL MODE	3-19、5-26、5-27	STOP	4-19、4-20、4-22、 4-26、4-27、4-33、 4-44、4-47、4-50、 4-53、4-56
DC	3-8、3-25、3-28、 3-29、3-30、3-31	SWEEP	3-8、3-25、3-28、 4-16
DIFF	3-19、3-21、3-24、 3-33	SWEEP PAUSE IN	3-10、4-21、4-26、 4-33
DIGITAL OUT	3-14	SWEEP X-DRIVE OUT	3-10、4-40
DUTY	5-3、5-4	SWEEP Z-MARKER OUT	3-11、4-35、4-40
ENTER	3-3、3-16、5-7	SYNC OUT	3-6、4-40
ENTRY	3-29、3-30、3-31、 3-32、5-2、5-3、5-4、 5-5	SYSTEM	3-16、5-9、5-16、 5-17、5-18、5-19、 5-20、5-24、5-25
EXIT	3-3、3-16	TRIG／SWEEP IN	3-9、4-7、4-10、 4-14、4-21、4-33、 5-23
EXT ADD IN	3-11、5-16	UNDO	5-21
EXT AM IN	3-12、5-17	WIDTH	5-4
FREQ	3-29、5-3、5-4	Φ-SYNC IN、OUT	3-12、5-24
FUNCTION	3-26、4-57	μ	5-7
FUNCTION OUT	3-5		
HIGH	5-5		
INDEP	3-19、3-21、5-24		
k	4-59、5-7		
LOCAL	GPIB別冊		
LOW	5-5		
m	4-59、5-7		
M	5-7		
MAN TRIG	4-8、4-11、4-15、5-23		
MEMORY	5-13		

——保証——

この製品は、株式会社エヌエフ回路設計ブロックが十分な試験および検査を行って出荷しております。

万一製造上の不備による故障または輸送中の事故などによる故障がありましたら、当社または当社代理店までご連絡ください。

当社または当社代理店からご購入された製品で、正常な使用状態において発生した部品および製造上の不備による故障など、当社の責任に基づく不具合については納入後3年間の保証をいたします。

この保証は、保証期間内に当社または当社代理店にご連絡いただいた場合に、無償修理をお約束するものです。

なお、この保証は日本国内においてだけ有効です。日本国外で使用する場合には、当社または当社代理店にご相談ください。

下記の事項に該当する場合は、保証期間内でも有償となります。

- 取扱説明書に記載されている使用方法、および注意事項に反する取り扱いや保管によって生じた故障の場合
- お客様による輸送や移動時の落下、衝撃などによって生じた故障、損傷の場合
- お客様によって製品に改造が加えられている場合
- 外部からの異常電圧およびこの製品に接続されている外部機器の影響による故障の場合
- 火災、地震、水害、落雷、暴動、戦争行為およびその他天災地変などの不可抗力的事故による故障、損傷の場合
- 電池、リレー、ファンなどの消耗部品の交換

——修理にあたって——

万一不具合があり、故障と判断された場合やご不明な点がありましたら、当社または当社代理店にご連絡ください。

ご連絡の際は、型式名（または製品名）、製造番号（銘板に記載のSERIAL番号）とできるだけ詳しい症状やご使用の状態をお知らせください。

修理期間はできるだけ短くするよう努力しておりますが、ご購入後5年以上経過している製品の場合は、補修パーツの品切れなどにより、日時を要する場合があります。

また、補修パーツが製造中止の場合、著しい破損がある場合、改造された場合などは修理をお断りすることがありますのであらかじめご了承ください。

株式会社エヌエフ回路設計ブロック
〒223-8508 横浜市港北区綱島東6-3-20

お願い

1. 取扱説明書の一部または全部を、無断で転載または複写することは固くお断りします。
 2. 取扱説明書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
 3. 取扱説明書の作成に当たっては万全を期しておりますが、万一、ご不審の点や誤り、記載漏れなどにお気付きのことがございましたら、当社または当社代理店にご連絡ください。
 4. 運用した結果の影響については、3.項に関わらず、責任を追いかねますのでご了承ください。
-

WF1946A 取扱説明書

株式会社エヌエフ回路設計ブロック
〒223-8508 横浜市港北区綱島東6-3-20
TEL 045-545-8111



<http://www.nfcorp.co.jp/>

株式会社 エヌエフ回路設計ブロック
横浜市港北区綱島東6-3-20 ☎223-8508 ☏045(545)8111(代)